

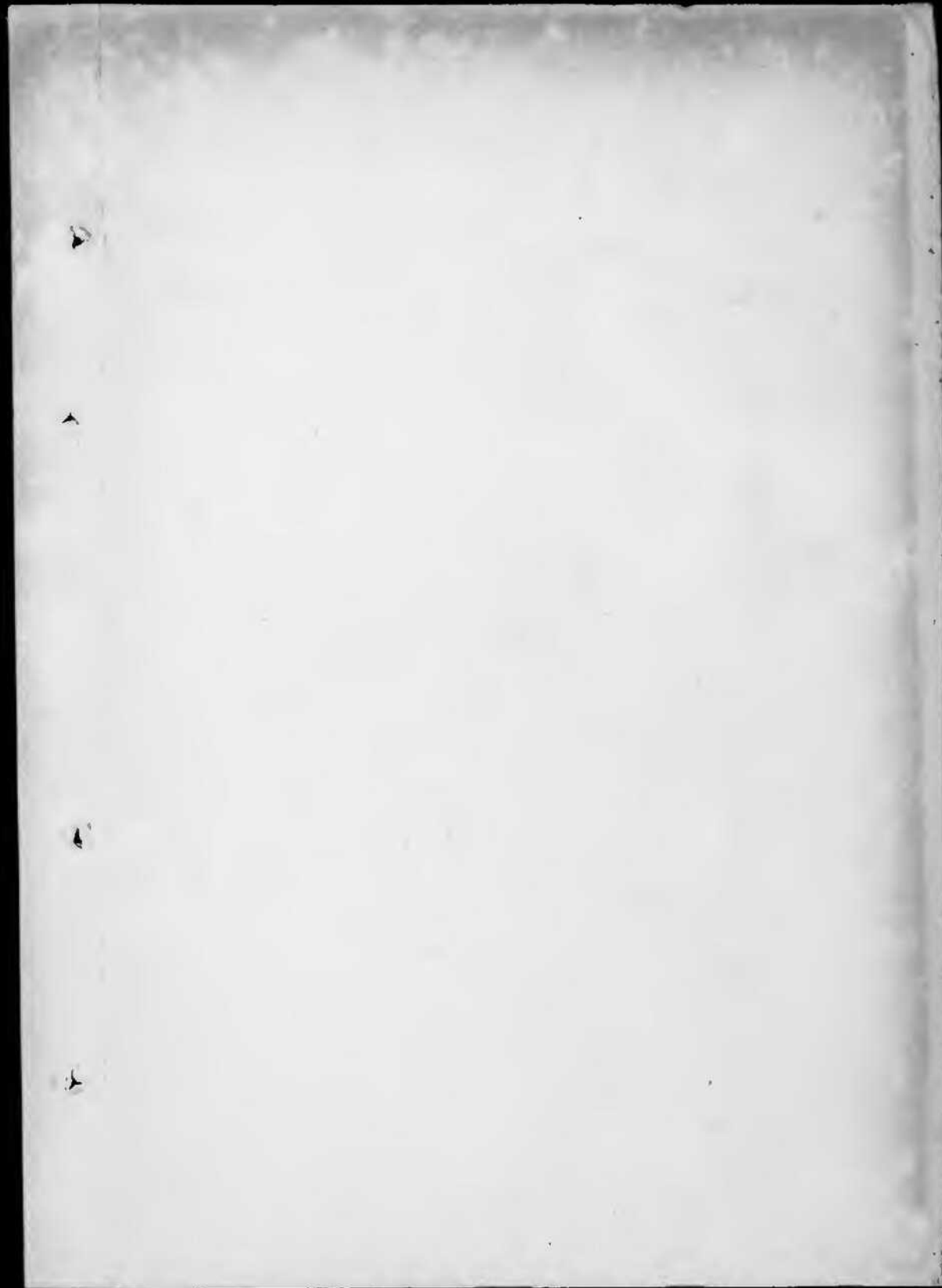
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

昭和十七年

地方事務所設置ニ関スル資料

行政課

国立公文書館	
分類	自治省 ④8
排架番号	3 A
	13-8
	117



目次

- 一 地方事務所設置要綱
- 二 府縣現地實行機關設置ニ就テ（昭二六、六、九新聞發表）
- 三 府縣廳事務ニシテ現地實行機關ナキ爲不便不利ヲ生シ居ル事例
- 四 地方官官制（昭二七、勅令第三七三號）
- 五 府縣現地實行機關設置費追加豫算（參考資料）
- 六 地方事務所設置數ニ關スル調
- 七 連絡部設置數ニ關スル調
- 八 連絡部設置ニ關スル調
- 九 地方事務所名稱位置及管轄區域表
- 一〇 地方事務所管轄區域標準（郡ノ合併標準ニ關スル局長通牒）
- 一一 府縣連絡部（假稱）名稱設定方針
- 一二 地方事務所管轄區域ノ概況

- 一三 府縣現地實行機關設置ニ伴フ職員配當増減表
- 一四 府縣現地實行機關地方事務官配當表
- 一五 府縣現地實行機關職員調
- 一六 府縣連絡部處務規程準則
- 一七 府縣連絡部組織標準案
- 一八 府縣現地實行機關ヲシテ取扱ハシムル事務ノ概目
- 一九 愛知縣連絡部職員配當表
- 二〇 千葉縣連絡部職員配當表
- 二一 山梨縣連絡部職員配當表
- 二二 地方事務所設置ニ關スル文部省意見
- 二三 内閣統計局意見
- 二四 商工省意見
- 二五 農林省意見
- 二六 拓務省意見

目次

- 一 地方事務所設置要綱
- 二 府縣現地實行機關設置ニ就テ（昭二六、六、九新聞發表）
- 三 府縣廳事務ニシテ現地實行機關トテ爲不便ナリ生シ居ル事例
- 四 地方官官制（昭二七、勅令第三七三號）
- 五 府縣現地實行機關設置實地加算（參考資料）
- 六 地方事務所設置數ニ關スル調
- 七 連絡部設置數ニ關スル調
- 八 連絡部設置ニ關スル調
- 九 地方事務所名稱位置及管轄區域表
- 一〇 地方事務所管轄區域標準（郡ノ合併標準ニ關スル局長通牒）
- 一一 府縣連絡部（假稱）名稱設定方針
- 一二 地方事務所管轄區域ノ概況
- 一三 府縣現地實行機關設置ニ伴フ職員配當増減表
- 一四 府縣現地實行機關地方事務官配當表
- 一五 府縣現地實行機關職員調
- 一六 府縣連絡部處務規程準則
- 一七 府縣連絡部組織標準案
- 一八 府縣現地實行機關ヲシテ取扱ハレタル事務ノ概目
- 一九 愛知縣連絡部職員配當表
- 二〇 千葉縣連絡部職員配當表
- 二一 山梨縣連絡部職員配當表
- 二二 地方事務所設置ニ關スル文部省意見
- 二三 内閣統計局意見
- 二四 商工省意見
- 二五 農林省意見
- 二六 拓務省意見

- 二七 厚生省意見
- 二八 陸軍省意見
- 二九 海軍省意見
- 三〇 土木出張所(又ハ工區等)ヲ府縣連絡部ニ統合ニ關スル件内牒(土木局長通牒)
- 三一 國民貯蓄主事及同主事補ノ地方事務所配屬ニ關スル件(國民貯蓄奨励局總務課長通牒)
- 三二 地方事務所設置方ニ關スル件(文部省文書課長通牒)
- 三三 地方事務所設置ニ伴フ農林関係職員ノ取扱ニ關スル件(農林省文書課長通牒)
- 三四 府縣連絡部長ニ補セラルベキ地方事務官ノ特別任用ニ關スル件
- 三五 現地實行機關ノ長ニ補セラルベキ者ノ銓衡ニ關スル件
- 三六 地方事務所長内定ノ際ニ於ケル措置ニ關スル件
- 三七 地方事務所長トナルベキ者ノ種類
- 三八 地方事務所運営ニ關スル訓令(内務省訓第七二一號)
- 三九 地方事務所設置ニ關スル依命通牒(内務次官通牒)
- 四〇 地方事務所設置ニ關スル件(地方局長通牒)

- 四一 地方事務所設置手續ノ經過概要
- 四二 府縣現地實行機關ノ設置及運営ニ關スル地方行政連絡會議ニ於ケル内務次官説明資料
- 四三 府縣現地實行機關ノ設置ニ就テ(内務大臣上奏案)
- 四四 府縣連絡部ノ位置及管轄區域ニ關スル依命通牒
- 四五 地方事務所ノ名稱、位置及管轄區域ニ關スル件(地方局長通牒)
- 四六 府縣現地實行機關設置準備方ニ關スル件(地方局長通牒)
- 四七 府縣連絡部ト職業指導トノ統合要綱
- 四八 中間機關聯合ニ關スル調
- 四九 公設電話ノ架設ナキ町村ニ關スル調
- 五〇 府縣現地實行機關ニ關スル説明
- 五一 府縣現地實行機關設置ニ關スル各縣資料
- 五二 地方事務所開設準備狀況調

地方事務所（府縣現地實行機關）設置要綱

第一 設置ノ目的

時局ノ推移ニ伴フ地方行政ノ現状ト其ノ趨向ニ鑑ミ國政ノ浸透徹底ト重要農産物資ノ増産、生活必需物資ノ配給等各般ノ經濟統制ノ事務、部落會、町内會ノ自治的活動ノ指導事務、貯蓄獎勵等ニ關スル事務、軍事扶助、軍事援護其ノ他軍事ニ關スル各般ノ事務其ノ他府縣應ニ於ケル時局下重要ナル行政事務ノ適實敏活ナル處理トヲ圖ルヲ主目的トスルコト

第二 配 置

(1) 概ネ郡ノ區域ヲ基準トシ其ノ位置、名稱、管轄區域ハ內務大臣之ヲ定ムルコト

(2) 現在ノ府縣支廳ハ特ニ交通不便ナル地ヲ除キ將來地方事務所ニ振替フルコト

第三 組 織

(1) 地方事務所ノ長ハ地方事務官ヲ以テ之ニ充テ練熟堪能克ク地方ノ指導的地位ニ立ツニ足ル人格、力量ト熱意ヲ有スル士ヲ之ニ起用スルコト

(2) 地方事務所ニハ總務課、兵事厚生課、經濟課其ノ他必要ナル課ヲ設ケ得ルコト

(3) 地方事務所ノ職員ハ府縣廳所屬職員ノ一部ヲ以テ之ニ充テ必要ニ應ジ昇格、種類ノ振替ヘ等ヲ行フコトアルモ行政總要員ハ増加セシメザルコト

(二) 財務、勸業等ノ各種出張所及駐在員ハ成ルベク地方事務所ニ統合スルコト

第四 性質及権限

府縣廳ニ屬スル事務ヲ現地ニ於テ掌理スル府縣知事ノ補助的機構トシ格別紙權目ヲ遂行トシ知事ニ於テ其ノ取扱フベキ事務ノ内容ヲ定ムルコト

府縣現地實行機關設置に就て

(一七、六、九)

近年の懸案問題であつた府縣と町村との間に於ける所謂中間行政機關たる「府縣現地實行機關」は豫めて内務省に於て研究立案中であつたが、愈々来る七月一日より「地方事務所」と命名特務の御光を浴びて誕生することとなり、之に必要な地方官官制の改正案が本日閣議に於て正式決定を見た。其の位置、名稱及管轄區域は近く官制の改正と相俟つて内務省告示を以て定めらるゝであらう。

地方事務所の設置は府縣廳機構に一新生面を開くものであつて、其の趣旨とする所は特務の推移に伴ふ地方行政の現状と其の趨向に鑑み國政の徹底徹底と行政事務の適實敏捷なる處理とを期するに在る。即ち高度國防國家總力戦体制下に於ける行政の必然的要請に基くのであるけれども、其の組織運営の適否は獨り行政事務の振奮に關係するに止まらず今後の地方行政の歸趨に、至大の影響を及ぼすものとして内務省に於ても特に此の點を重大視し之が實施に關し本日内務次官より依命通牒を以て地方長官に對し特別の注意を喚起する所があつた。其の要旨は

一、地方事務所の組織及之に取扱はしむべき事務の範圍及程度、職員の配置及人選に就ては本機關設置の目的達成に遺憾なき様特に配意すること

二、本機關設置の爲所謂二重行政の弊を來し行政を繁雜ならしむる加如き結果を招かざる様特に配意し寧ろ行政の簡素強力民衆の利便を第一義とする

三、南方建設の爲多數の行政人員を必要とする折柄内地の行政組織は出來得る限り簡素とし之を補ふに能率の倍加を以てするを當面の要請とするに鑑み本機關設置に當りては高等官、判任官、吏員、雇員、傭人等を通じ府縣の行政總要員は之を増加せしめざることを

地方事務所設置後の府縣廳の機構は従前限り簡素ならしめ課の廢合を斷行

すること

而して地方事務所の数は全國で四二七ヶ所の豫定であつて支廳管轄區域を除いた郡

の數より八七だけ少いこととなる 即ち八七郡は他の郡と併せ管轄せらるゝ筈である。

地方官官制の改正の要旨は左の三とある、

一、地方事務官三四人を増員し之に振り替ふるものとして地方費支辨の府縣屬同數と

減じ又府縣費支辨の府縣屬四五人を國費支辨に振り替へること

二、府縣廢事務(支廳の管内及市の區域内を除く)の一部を掌らしむる爲各府縣管内
須要の地に地方事務所を置き其の位置、名稱及管轄區域は内務大臣定むること

三、地方事務所長は地方事務官を以て之に充て、知事の指揮を受け地方事務所主管
の事務を掌理し部下の官吏を指揮監督すること

かくして地方事務所は別紙要綱に依り来る七月一日其の設置を見、地方事務所長夫々
は同日任命を見る筈である。

府縣廳事務ニシテ現地機關ナキ爲不便不利ヲ生ジ居レル事例

(一) 産業經濟ニ關スル事項

(1) 物資、資材ノ配給調整關係

イ、現在府縣廳ニテハ中央ニ對スル割當申請ノ基礎資料ト爲スベキ需要量ノ査定集計ニ多大ノ日子ヲ要スルノミナラズ地方ノ特殊事情ニ際シテ實際ノ需要ニ適合スル數字ヲ算出スルコト極メテ困難ナリ從ツテ實際ノ配給ニ當リテモ其ノ時機ヲ失シ或ハ其ノ品目數量等地方ノ實需ニ副ハザルコト多ク又切符制ヲ實施シツツアル物資ニ付テモ切符ノ數量ト物資ノ數量トガ府縣内ニ於テ地域的ニ適合セザルコト多ク爲ニ關係民ノ不平不滿ヲ惹起シアル事例尠カラズ而モ府縣廳ニ於テハ斯ノ如キ配給ノ

實情ニ通曉スルコト至難ナルヲ以テ其ノ公正ヲ期スヘキ必

要ナル措置ヲ急速且適切ニ講スルコト極メテ困難ナリ

ロ、物資ノ配給統制ニ付現地ニ適當ナル指導機關ナキ爲趣旨ノ徹底ヲ缺キ當業者其ノ他ノ關係者等ニシテ遠隔ノ地ヨリ態府縣廳ニ出頭シ陳情或ハ問合セラ爲ス者多キヲ加ヘ府縣廳ニ於テハ此等陳情者ノ應接ニ忙殺セラレ著シク事務的單ヲ減殺サレツツアルノミナラズ此等關係者ニ對シテモ尠カニズ不便ヲ感ゼシメ居レリ

(2) 生産力擴充關係

イ、食糧其ノ他ノ農產物ノ増産ニ付テハ府縣廳ヨリ係官ヲ現地ニ派遣シ其ノ指導督勵ニ當ラシメ居レルモ現在ノ機構ヲ以テシ

テハ現實ニ必要ノ時機、必要ノ地點ニ於テ適切ナル措置ヲ
講スルコト困難ナリ現ニ長崎縣ノ如キハ昭和十四年、十五
年ノ兩年度ニ亘リ縣下水田ニ浮塵子ノ大發生ヲ見タルニ縣
ハ全力ヲ擧ゲテ驅除ノ督勵ニ當リタルモ火急ノ場合遽ニ適
切ナル措置ヲ講スルコト能ハズ、一面町村ヨリノ報告モ精
疎、遑遑區々ニ涉リ爲ニ之ガ驅除ニ要スル石油ノ配給其ノ
他驅除ニ關スル各種ノ措置時期ヲ失シ増産計畫遂行上阻礙
ヲ招キ一大損失ヲ見タルコトアリ

ロ、府縣廳ニ於テハ各地方ノ特殊事情ニ通曉スルコト難ク又單
ニ書面ノ連絡ノミヲ以テシテハ到底適確ナル實需ヲ測定シ
難キ爲肥料或ハ軍用保護馬、種牡牛馬、乳牛等ニ對スル飼

料ノ配給ニ支障ヲ來タセルガ如キ事例乏シカラズ

ハ、耕地擴張整理事業ハ生産力擴充上直接重要ナル關係ヲ有ス
ルモ現狀ニ於テハ係官出張ノ爲無用ノ日子ト旅費トヲ要シ、
災害ノ場合等ニ於テモ大局的緊急措置ヲ講ジ得ズ損害ヲ大
ナラシメタル事例アリ、又耕地事業ハ特ニ一般關係民ニ理
解ト熱意ヲ持タシムルニ非ザレバ容易ニ行ハレ難キモノナ
ルニ拘ラズ現在府縣係官ト關係民トノ接觸ノ機會尠キ爲豫
期ノ成果ヲ擧ケ得ス生産力擴充ニ支障ヲ來シ居レリ

(二) 軍事ニ關スル事項

(1) 徵兵、徵募、召集及徵發事務關係

郡役所廢止ノ結果召集事務ヲ警察署長ニ移管シタルモ現ニ左

ノ如キ不利不便ヲ痛切ニ感ジ居レリ

一、警察署ニ於テハ警察本來ノ職務ヲ有シ召集事務ハ第二次的
扱ヲ受ケ之ガ事務擔任者ノ如キモ專ラ警察本來ノ事務ノ都
合ニ依リ頻繁ニ異動セラレ召集事務ニ付テハ堅實ナル遂行
ヲ期シ難キ憾アリ

二、警察署ノ監督及警察官ノ身分ニ付テハ警察部ノ所管ナルニ
拘ラズ只召集事務ノミハ學務部ノ所管ニ屬スルヲ以テ召集
事務ノ指導監督ハ徹底ヲ缺クコト甚シキモノアリ

三、警察署ニ於テハ專ラ召集事務ノミヲ管掌シ徴兵、徵募事務
ヲ所管セサルノミナラス其ノ權限ノ關係上町村トノ連絡緊
密ナラサルヲ以テ此ノ際兵事事務ニ關スル指揮監督系統ヲ一

元化スルニ非レバ事務遂行ノ完璧ヲ期シ得ザル實情ニアリ

(2) 軍事扶助其ノ他軍事援護關係

イ、軍事扶助事務ハ急速處理ヲ要スルモ出願件數多數ニシテ書
類ノ整備、實地調査等ニ相當ノ日子ヲ要シ現狀ニ於テハ之
ガ事務處理ノ迅速ヲ期シ難キ實情ニアリ

◎扶助申請後決定ニ至ル迄ニハ一週間乃至二ヶ月ヲ要シ居レ
リ（長崎縣）

◎扶助申請後決定ニ至ル迄ニハ一ヶ月乃至三ヶ月ヲ要シ居リ
（徳島縣）

ロ、軍事扶助事務ハ最モ適正公平且周到ナルヲ要スルモ取扱件
數多數ニシテ府縣ヨリハ一々實地ニ就キ調査ヲ盡スノ邊ナ
ク自然之ガ事務ノ取扱ハ消極ニ墮シ形式的書面審理ニ了

ル向多ク扶助決定後ノ監査モ亦十全ヲ期シ難キ爲實情ニ
副ハサル事例尠カラス

ハ、遺家族等ニ對スル授産事業ノ如キモ地方ノ實情ヲ基礎トシ計畫スルヲ
要シ府縣ニ於テ直接之ガ計畫實施ヲ爲スモ容易ニ地方ノ實情ニ即シ難ク結
局不徹底ノモノ尠カラザルモノアルヲ免レ難キ事情ニシアリ

(三) 其ノ他ニ關スル事項

(1) 部落會町内會ノ指導關係
部落會、町内會ハ其ノ數多數ニシテ而モ其ノ會合ノ如キモ多クハ夜間各部落、
町内ニ於テ行ハレルモノナルヲ以テ之ニ對シ府縣廳直接徹底シタル指導ヲ加ヘ
ルコトハ實際不可能ノ狀態ナリ

(2) 國民貯蓄關係

國民貯蓄組合法ノ實施ニ伴ヒ各府縣ニ於テハ數千數万ノ組合ヲ結成セシメザルベ
カラズ、之ガ組合結成ノ普及指導、組合規約、勤務先預入、代表者名義預入等ノ
認可事務ノ處理其ノ他貯蓄實績ノ調査、組合事務ノ指導監督ハ現在ノ府縣廳ノ
機構ヲ以テシテハ到底周到ヲ期シ得ズ

(3) 各種團體ノ連絡調整關係

イ、時局ノ進展ニ伴ヒ農會、產業組合等ノ產業團體ヲ始メ在郷
軍人會、青壯年團、婦人會等ハ極メテ活潑ナル機能ノ發揮
ヲ要請セラレ居レルモ中ニハ其ノ活動充分ナラザルモノア
ルノミナラズ地方的中心指導力ナキ爲相互連絡ヲ缺キ眞ニ
國家の一元的ノ活動ヲ爲スニ至ラザルノ憾アリ之ガ爲團體
ノ機能其ノ眞價ヲ發揮スルニ至ラズ却ツテ地方民ノ團結力
ニ影響ヲ及ボスガ如キ弊ナシトセザル實情ニアリ
ロ、農會產業組合等ハ農產物ノ増産、集荷、配給上極メテ重要ナ
ル役割ヲ負擔セルモノナルニ拘ラズ其ノ活動充分ナラズ中ニ
ハ全ク其ノ機能ヲ發揮シ得ザル貧弱極マルモノアリ、而シテ

此等不振國體ノ厚生ハ相當長期ニ亘リ實地ニ就キ具體的指導ヲ施スノ要アルモ現在ノ府縣廳ノ機構ヲ以テシテハ到底之ニ手ヲ染ムル能ハズ遺憾ナガラ殆ンド之ヲ放置スルノ已ムナキ實情ニアリ

(4) 府縣ト町村ノ事務ノ連絡關係

イ、最近各種事務ニ關シ町村ニ對シ指示ヲ爲シ之ト連絡爲スベキ事項激増シ爲ニ町村吏員ヲ招集シ打合會、研究會等ヲ開催スルコト頻繁ヲ極ムルニ至レリ、固ヨリ各府縣ニ於テハ會合ノ重複ヲ避クルコトニ努メ居レルモ現狀ニ於テハ到底諸會合ノ合理化ヲ徹底スルコト能ハザル實情ニシテ之ガ諸會合ニ出席スル爲府縣職員及町村吏員ハ出張ニ日ヲ追ハレ

事務ノ能率ヲ著シク阻害シ居レリ

◎一ヶ年度中町村吏員諸會合度數

- 一、縣關係 一〇〇回内外
- 二、其ノ他ノ關係 五〇回内外 (長崎縣)

◎郡單位事務打合會度數 (昭和十五年縣招集實績)

打合事務類別	回數	延日數	市町村吏員縣廳職員出席者延人員	備考
兵事關係	二	一一	二七〇	二二
軍事警備關係	二	一三	二七八	七八
稅務關係	二	七	四七九	六四
勞務職業關係	二	九	一六六	二四
貯蓄其ノ他ノ關係	四	四〇	九八	八〇
統計調查關係	八	五二	一四六三	一八四

衛生關係 生産力補充關係 計	衛生關係		生産力補充關係	
	二	二四	二六八	二四
九	五八一	三、二八〇	一、一四五	
三一	七三七	七、〇〇二	一、六二二	

(徳島縣)

ロ、近時、事業關係其ノ他ノ事務ニ付府縣ト町村トノ關係ハ愈々緊密ナル連絡ヲ要スルコトトナル府縣ハ各種打合會等ノ開催ニ依リ極力其ノ連絡ニ努メ居レルモ、尙府縣廳ト打合ヲ要スル事項益々多キヲ加ヘ町村長其ノ他ノ町村吏員ニシテ府縣廳ニ出頭スルモノ日々多數ヲ算スル實情ニアリ、而シテ町村ヨリ府縣廳ニ出頭スル爲ニハ往路ノミニテモ數日ヲ要スル向アリ之ニ要スル費用亦相當多額ニ達シ町村吏員ノ事務能率上及町村ノ財政上好マシカラザルコト甚シキモノ

アリ

(5)統計調査關係

時局關係ノ重要ナル各種統計調査ハ近時益々増加ノ傾向ニアリ、而シテ此等統計調査ハ町村ヲ通ジ或ハ町村ノ協力ヲ得テ取纏メツツアル所ナルモ現状ニ於テハ指導督勵ノ徹底ヲ期シ難ク報告ノ遲延誤謬多ク時ニハ調査ノ重要性ヲ認識セズ極メテ杜撰疎漏ノ報告ヲ爲シ全体ノ取纏メニ支障ヲ及ボスガ如キ事例尠カラズ

◎統計調査報告(町村ヨリ府縣ヘノ報告)ノ遲延(昭和十五年實績)

一、報告期限ヨリ二ヶ月遲延シタルモノ	一〇件
二、三ヶ月遲延シタルモノ	六件
三、六ヶ月遲延シタルモノ	二件

四、	七ヶ月遅延シタルモノ	二件
五、	八ヶ月遅延シタルモノ	四件

計

二四件

(長崎縣)

(3) 會計事務ノ處理關係

最近府縣ニ於ケル支拂事務ハ急激ニ増加シ其ノ取扱件數及金額ハ容易ナラザル數ヲ示スニ至レリ然ルニ之ヲ依然府縣會計課一ヶ所ニ於テ取扱ヒツツアル爲書類輻輳錯雜シ軍事扶助費ノ如ク急速送金ヲ要スルモノニ付テモ書類ノ審査、現金ノ郵送等ニ尠カラザル日子ヲ費スルノ狀況ニシテ之ガ事務處理ハ圓滑ナラザル實情ニアリ

◎特ニ増加シタル支拂事務件數及金額 (昭和十五年度実績)

一、軍事扶助費	五三、七六〇件	八七九七八八圓
二、國民學校教員俸給費	六五、三七六件	三、四六一、四四六圓
三、國民學校教員赴任旅費	三四四件	七四五九圓
四、陸海軍召集諸費	一、六七〇件	一〇、五四六圓

(長崎縣)

◎特ニ輻輳セル支拂事務件數金額

一、軍事扶助費	月五〇〇〇件	七〇、〇〇〇圓
二、國民學校教員給料	月三、八〇〇件	二一〇、〇〇〇圓
三、増殖火災復舊等ノ各種補助費	毎年度	三、五〇〇、〇〇〇圓

(徳島縣)

勅令第百七十三號 (昭和十七年六月十三日公布)

地方官官制中左ノ通改正ス

第一條第一項中「地方事務官 專任五百三十四人」ヲ「地方事務官

專任八百七十三人」ニ、「屬 專任四千七百七十三人」ヲ「屬 專任

四千六百二十九人」ニ改ム

第二條中「屬 專任三千七百人以内」ヲ「屬 專任二千

九百三人以内」ニ改ム

第四十二條ノニ 府縣ノ事務(支廳ノ管轄區域及市ノ區域ニ係ルモ

ノヲ除ク)ノ一部ヲ分掌セシムル爲各府縣管内須要ノ地ニ地方事

務所ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ内務大臣之ヲ定ム

第四十二條ノ三 地方事務所長ハ地方事務官ヲ以テ之ニ充ツ知事ノ

指揮ヲ承ケ其ノ定ムル所ニ依リ地方事務所主管ノ事務ヲ掌理シ部

下ノ官吏ヲ指揮監督ス

附 則

本令ハ昭和十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

現下ノ情勢ニ鑑ミ食糧ノ増産、物資ノ配給、貯蓄ノ奨励、總動員業務ノ實施、徵兵徵發、募集事務、軍事救護事務等第一線行政事務ノ強化完壁ヲ期シ以テ地方行政組織ヲシテ愈々恒久的戰時體制ニ即應セシメ國民生活ノ安定ヲ圖ルノ要アルヲ認メ地方行政機構ヲ改變シ府縣ニ現地實行機關ヲ設置セントス而シテ之ニ要スル人員ハ大部分現在ノ府縣廳所屬ノ官公吏ヲ以テ充テントスモノナク尚不足ヲ免レザルヲ以テ之ガ充足並ニ指導ノ爲此ノ經費ヲ要ス

[illegible]

合	廉	普	指導廉費	内國旅費	高等官	判任官	指導旅費	雜給及雜費	給 恩勞金	廉員給	雜費	職員雜費	指導雜費	計
	一五三	一五三	四六	三四一	三四一	九二				九二		三六五	四七	
	八〇	八〇	一〇〇	六〇〇	四〇〇					四二〇		五〇	四五	
	一〇〇、二四〇	一〇〇、二四〇	〇	五九九、四〇〇	二〇四、六〇〇	三六四、八〇〇	〇	五六七、八九八	七六、六〇八	三八三、〇四〇	一〇八、二五〇	一〇八、二五〇	〇	三三〇、九九八
	七九、七八〇	七九、七八〇	四、六〇〇	四六五、一七六	一五三、四五〇	二七三、六〇〇	三八、一二六	四二八、〇三八	五七、四五六	二八七、二八〇	八三、三〇二	八一、一八七	三、二二五	二、五二七、二二三
	二五、〇六〇	二五、〇六〇	四、六〇〇	一四三、三五〇	五、一二〇	九一、二〇〇	三八、一二六	一四、九六五	一九、一五二	九五、七六〇	二、〇六三	二、一一五	二、一一五	八三、七四五
	四六〇〇	四六〇〇	通信運搬費											
	二五、〇六〇	二五、〇六〇												五〇、〇〇〇

府	縣	支庁管内ノ除キタル	同ノ區域ニ設置スル	地方事務所ノ数	摘	要
三	愛	重	一	一		
愛	知	四	一	一		
岐	同	八	一	一		
長	岡	三	一	一		
山	阜	六	一	一		
瀬	井	九	一	一		
石	川	一	一	一		
富	山	八	一	一		
新	山	八	一	一		
神	河	五	一	一		
東	川	八	一	一		
千	京	三	一	一		
崎	紫	二	一	一		
物	五	九	一	一		
波	馬	一	一	一		
山	木	八	一	一		
山	城	四	一	一		
山	西	一	一	一		
山	形	一	一	一		
山	田	一	一	一		
山	城	一	一	一		
山	手	一	一	一		
山	森	一	一	一		
合	計	五	四	七		

府	縣	支庁管内ノ除キタル	同ノ區域ニ設置スル	地方事務所ノ数	摘	要
三	愛	重	一	一		
愛	知	四	一	一		
岐	同	八	一	一		
長	岡	三	一	一		
山	阜	六	一	一		
瀬	井	九	一	一		
石	川	一	一	一		
富	山	八	一	一		
新	山	八	一	一		
神	河	五	一	一		
東	川	八	一	一		
千	京	三	一	一		
崎	紫	二	一	一		
物	五	九	一	一		
波	馬	一	一	一		
山	木	八	一	一		
山	城	四	一	一		
山	西	一	一	一		
山	形	一	一	一		
山	田	一	一	一		
山	城	一	一	一		
山	手	一	一	一		
山	森	一	一	一		
合	計	五	四	七		

地方事務所設置数ニ關スル調

地方事務所設置二週スル調

府縣	郡ノ數	支庁事務所及支庁數	町村數	町村人口	一地方事務所管平均	町村數	人口	一地方事務所管平均	最多数	最少数	最多人	最少数
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
重	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
慶	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
靜	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
岐	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
長	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
山	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
種	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
石	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
宿	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
新	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
神	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
東	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
千	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
崎	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
堺	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
廣	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
山	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
宮	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
青	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
井	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
府	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

府縣	郡ノ數	支庁事務所及支庁數	町村數	町村人口	一地方事務所管平均	町村數	人口	一地方事務所管平均	最多数	最少数	最多人	最少数
合	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
分	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
本	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
長	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
佐	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
南	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
香	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
山	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
廣	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
島	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
和	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
兵	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
京	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
府	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

道府縣	町村数	支庁数	町村人口	町村数	人口	町村数	人口
北海道	11	1	1,182,000	11	7,500,000	11	1,182,000
青森県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
岩手県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
秋田県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
山形県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
福島県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
茨城県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
栃木県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
群馬県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
埼玉県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
千葉県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
東京都	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
神奈川県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
新潟県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
富山県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
石川県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
福井県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
山梨県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
長野県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
岐阜県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
静岡県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
愛知県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
三重県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
滋賀県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
京都府	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
大阪府	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
兵庫県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
奈良県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
和歌山県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
徳島県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
香川県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
高松県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
愛媛県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
高知県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
福岡県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
佐賀県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
大分県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
熊本県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
鹿児島県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
沖縄県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500

道府縣	町村数	支庁数	町村人口	町村数	人口	町村数	人口
北海道	11	1	1,182,000	11	7,500,000	11	1,182,000
青森県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
岩手県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
秋田県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
山形県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
福島県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
茨城県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
栃木県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
群馬県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
埼玉県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
千葉県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
東京都	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
神奈川県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
新潟県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
富山県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
石川県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
福井県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
山梨県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
長野県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
岐阜県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
静岡県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
愛知県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
三重県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
滋賀県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
京都府	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
大阪府	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
兵庫県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
奈良県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
和歌山県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
徳島県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
香川県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
高松県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
愛媛県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
高知県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
福岡県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
佐賀県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
大分県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
熊本県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
鹿児島県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500
沖縄県	13	1	712,500	13	4,600,000	13	712,500

訓發乙第二七二號

昭和十七年六月二十二日

內務省地方局長

府縣知事殿

地方事務所ノ名稱、位置及管轄區域ニ關スル件

地方事務所ノ位置及管轄區域ニ關シテハ豫テ內定相成居候處今同別紙ノ通其ノ各案ヲ定メ位置及管轄區域ト共ニ來ル七月一日告示可相成ニ付御了知相成度

裏面あり

第七表 外宿手當			
區	分	月	額
上	等	兵	三十三圓
下	等	兵	三十三圓

第七表ノ二 下士官退養賜金			
在營年數	金	在營年數	金
一	百圓	一	百圓
二	百圓	二	百圓
三	百圓	三	百圓
四	百圓	四	百圓
五	百圓	五	百圓
六	百圓	六	百圓
七	百圓	七	百圓
八	百圓	八	百圓
九	百圓	九	百圓
十	百圓	十	百圓
十一	百圓	十一	百圓
十二	百圓	十二	百圓

第九表 增給料			
增給料	其	他	額
一	官制守衛ノ衛兵	十六圓	錢
二	官制守衛ノ衛兵	十六圓	錢
三	官制守衛ノ衛兵	十六圓	錢
四	官制守衛ノ衛兵	十六圓	錢
五	官制守衛ノ衛兵	十六圓	錢
六	官制守衛ノ衛兵	十六圓	錢
七	官制守衛ノ衛兵	十六圓	錢
八	官制守衛ノ衛兵	十六圓	錢
九	官制守衛ノ衛兵	十六圓	錢
十	官制守衛ノ衛兵	十六圓	錢
十一	官制守衛ノ衛兵	十六圓	錢
十二	官制守衛ノ衛兵	十六圓	錢

考由第一號ヲ左ノ如ク改ム
一 附料地方區分及増給料乙額及丙額ノ支給區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム

官報 第四四一號 昭和十七年七月一日 水曜日

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際必要ナル規定ハ陸軍大臣之ヲ定ム
陸軍軍人俸給臨時條例中「別表第一」ヲ「別表第二」改メ第三條ヲ削除シ別表第二ヲ別表第三條ノ第三條改メ第四條ノ三及別表ヲ別表第一及別表第二改メ
臺灣駐留陸軍部隊給與規則中第四條ヲ削除シ別表ヲ別表第一改メ
在樺太陸軍部隊給與令中第六條ヲ削除シ別表ヲ別表第一改メ
在滿洲陸軍部隊給與令中第九條ヲ削除シ別表ヲ別表第一改メ
在滿洲陸軍部隊給與令中第十六條中「第六條及第九條」ヲ「第六條」改メ
(參照)
明治三十二年六月七日勅令第二百二十二號陸軍給與令抄錄
第二條 本令ニ於テ名稱ヲ區別スルコト左ノ如シ
一 軍隊ト稱スルハ步兵、騎兵、戰車、騎兵、搜索、偵察、通信、工兵、鐵道、電信、通信、輜重、兵、飛行及航空、各隊ヲ謂フ
二 營內居住ト稱スルハ屯營、官制及學校內ニ居住スルヲ謂フ
三 外宿ト稱スルハ營外居住者官ノ都合ニ依リ屯營、官制及學校外ニ宿泊スルヲ謂フ
第四條ノ二 本令中俸給トアルハ年功加俸及勤績加俸ヲ給料トアルハ營外加俸ヲ含ムモノトス
第八條 附官准士官下士官兵ニハ左ノ各號ニ依リ加俸ヲ給ス其ノ定額ハ第六表ニ依ル
一 准士官下士官兵ニ任ゼラレタル後勤職十者ニシテ下士官ニ任ゼラレタル後勤職十

二年(憲兵ニ在リテハ憲兵兵長タリシ期間ノ二分ノ一ヲ加算シ勤績年數ヲ定ム)ノ經過シタル者ニハ年功加俸
二 准士官ニシテ准士官ニ任ゼラレタル後勤職三年ノ經過シタル者ニハ勤績加俸
六 營外居住ノ下士官曹長一俸給ノ者ヲ除ク兵ニハ營外加俸
第九條 俸給及給料並ニ外宿手當ハ毎月下旬之ヲ給ス但シ營內居住ノ兵(外宿ノ者ヲ除ク)ハ毎月下旬之ヲ給ス
第十條 准士官以上及下士官以下死亡ノトキ、現役ヲ離レタルトキ又ハ諸生徒ヲ免セラレタルトキハ准士官以上及下士官以下(兵ニ在リテハ營外居住又ハ外宿ノ者ニ限ル)ニ在リテハ其ノ月末日迄ノ俸給及給料並ニ外宿手當ヲ營內居住ノ兵(外宿ノ者ヲ除ク)ニ在リテハ其ノ月末日迄ノ給料ヲ給スルコトヲ得
第十一條 俸給、給料、技術加俸、通譯加俸及外宿手當ノ支給區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム
第十六條 准士官以上及下士官兵並ニ補充兵ニシテ召集中ノ者及部隊ノ職務ニ就ケタル者ニハ在職又ハ現役ニ準シ俸給及給料並ニ外宿手當ヲ給ス但シ年功加俸及勤績加俸ハ召集又ハ就職後當該勤績年數ノ經過シタル者及在職又ハ現役中其ノ支給ヲ受ケタル者ニ限リ給スルモノトシ、俸給及給料並ニ外宿手當ハ其ノ等給ニ數等アルモノニ在リテハ當該召集中其ノ支給ヲ受ケタル者ニ限リ給スルモノトシ、俸給及給料並ニ外宿手當ハ其ノ等給ニ數等アルモノニ在

第七條第一項

陸軍官以上及下士官以下、請願休職病引、
拘禁留置中又ハ他ニ職役電報本隊ヲ離レ又
ハ他方ニ赴キ故ナク歸郷ノ期ニ後レタルト
キ又ハ生死分明ナラサルトキハ俸給及給料
並ニ外宿手當ヲ減却シ又ハ之ヲ停止スルコ
トアルハシ

第七條第二項 五年(外宿ノ期間ヲ除ク)以上
寮内ニ居住シテ下士官タル者ニハ曹長一等
給ヲ受タルニ至リタルトキ、現役満期若ハ現
役免職ノトキ又ハ免官若ハ死亡ノトキ退養
給金ヲ給ス、其ノ定額ハ第七表ノ二ニ依ル
退養給金ノ定額ヲ異ニスル以上ノ地ニ在
居シタル者ニ對スル退養給金ノ算定方法ハ
陸軍大臣之ヲ定ム

第十一條 糧食ハ准士官以上及外居住又
ハ外宿ノ下士官兵ニ在リテハ自辨トシ寮内
居住ノ下士官以下(外宿ノ者ヲ除ク)現役兵
トシテ徴集セラレ入營ノ際特ニ糧食ヲ要ス
ル者糧食自辨ノ者(軍醫ヲ含ム)ニシテ公薪
ノ爲メ徴集ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ病院ニ入ル
モノ及軍隊(教導隊、練習隊、幹部候補生隊
下士官候補者隊、生徒隊、教育隊及教導隊
學生隊ヲ含ム)ノ宿直勤務ニ服スルモノ並
ニ寮内居住ノ下士官以下(外宿ノ者ヲ除ク)
現役ヲ離レ又ハ召集解除ノ際疾病其ノ他ノ
事故ニ因リ歸郷セシメ難キ者ニ在リテハ官
給トス其ノ定額ハ第九表ニ依ル

士官候補生、豫科士官學校生徒、豫備士官學
校生徒、幼年學校生徒、經理學校豫科生徒、戸
山學校甲種下士官學生、教導學校學生、戰車
學校生徒、通信學校生徒、兵器學校生徒、學
習飛行學校、大刀洗飛行學校、龍谷飛行學校、
航空機學校及航空通信學校ノ少年飛行兵
及少年飛行兵ト爲スベキ生徒、水戸飛行學校
ノ少年飛行兵ト爲スベキ生徒、水戸飛行學校
ニハ前項ノ規定ニ依リ糧食官給ノ者
ニハ前項ニ於テ轉地發着中、宮崎守衛ノ衛
兵、機成分遣隊ノ衛兵及陸軍大臣ノ指定スル

衛兵ニハ服務中其ノ日數ニ依リ増額料ヲ給
ス其ノ定額ハ第九表ニ依ル
前二項ノ規定ハ豫科士官學校生徒採用決定
者、幼年學校生徒採用決定者、經理學校豫科
生徒採用決定者、戰車學校生徒採用決定者、
通信學校生徒採用決定者、兵器學校生徒採用
決定者及東京航空學校生徒採用決定者ニシ
テ著陸ノ際特ニ糧食ヲ要スルモノニ第一項
ノ規定ハ戸山學校豫科生徒採用決定者ニシ
テ著陸ノ際特ニ糧食ヲ要スルモノニ之ヲ準
用ス

朕昭和十二年勅令第四百三十四
號支那事變ニ關スル陸軍戰時給
與規則ノ特例ノ件中改正ノ件ヲ
裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十七年六月三十日
內閣總理大臣 東條 英機
陸軍大臣 東條 英機

勅令第六百三號
昭和十二年勅令第四百三十四號中左ノ通改
正ス
同令ニ左ノ題名ヲ附ス
大東亞戰爭ニ關スル陸軍戰時給與規
則ノ特例
「今同ノ支那事變」ヲ「大東亞戰爭」ニ改ム
第二號ヲ第四號、第三號ヲ第五號トシ第一
號ヲ左ノ如ク改ム

一 陸軍戰時給與規則及本令ニ於テ俸給
又ハ給料ト稱スルハ陸軍給與令第四條
ノ二ノ規定ニ依ル俸給又ハ給料ヲ謂フ
二 戰地ニ出發スル者(内地途中ニ在ル
者ヲ除ク)又ハ戰地ニ在ル者ニ對シ陸
軍戰時給與規則第六條第一項又ハ第二
項ノ規定ニ依リ増給スル額ハ准士官以
上ニ在リテハ俸給十分ノ八(尉官又ハ
准士官ニシテ月額百三十圓ニ滿タザル
モノハ月額百三十圓以內)下士官以下
ニ在リテハ給料十分ノ十一以內トシ軍
屬ニ在リテハ軍人ニ準ズ
前項ニ規定スル増給ノ支給區分ハ陸軍
大臣之ヲ定ム

一 支那方面ニ出發スル者内地途中ニ在ル者
ヲ除ク又ハ前方面ニ在ル者ニ對シ陸軍戰時
給與規則第六條第一項又ハ第二項ノ規定ニ
依リ増給スル額ハ在支那方面陸軍戰時給與令
ニ定ムル在動加俸ノ額ニ依ル

御名 御璽

昭和十七年六月三十日
內閣總理大臣 東條 英機
拓務大臣 井野 碩哉
厚生大臣 小泉 觀彥

三 陸軍戰時給與規則第六條第三項若ハ
第四項又ハ第十六條ノ規定ニ依リ増給
スル額年額二百四十圓ニ滿タザル者ニ
ハ年額二百四十圓迄ヲ給スルコトヲ得
左ノ一號ヲ加フ
六 香港占領地總督ノ職ニ在ル中將ノ俸
給ハ年額六千圓トス
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際必要ナル規定ハ陸軍大臣之ヲ
定ム
(參照)
昭和十二年八月十九日勅令第四百三十四號抄
今同ノ支那事變ニ關シ陸軍戰時給與規則ヲ適
用スル場合ニ於テハ左ノ各號ニ掲グルモノニ
限リ同令ニ依ラズ本令ノ定ムル所ニ依ル

勅令第六百四號
船員保險法施行令中左ノ通改正ス
第六條第一項中「保險院長官」ヲ「地方長官
(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同
ジ)ニ改メ同條第三項ヲ削ル
第三十六條第二項及第三項中「保險院長官」
ヲ「地方長官」ニ改ム
第六十一條ニ左ノ一項ヲ加フ
同法第十二條第三項及第四項ノ規定中行
政官廳トアルハ朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ
保險料納納者ノ住所又ハ其ノ者ノ財產
ノ在ル地ヲ管轄スル道知事又ハ州知事若
ハ廳長トス

裏面あり

第六十二條第二項中「第六條第三項ノ場合ハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長トシ其ノ他ノ場合ハ」ヲ削ル

附則

本令ハ昭和十七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

昭和十五年二月二十日勅令第六十六號船員保險法施行令抄録

第六條第一項及第三項

船員保險法第十二條第一項ノ規定ニ依リ保險料納付ノ督促ヲ爲サントスルトキハ保險料納付ハ納付義務者ニ對シ督促狀ヲ發スベシ

船員保險法第十二條第三項及第四項ノ規定中行政官廳トアルハ保險料納付者ノ住所地方又ハ其ノ者ノ財産ノ在ル地方ヲ管轄スル地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)トス

第六十二條第二項

本令中地方長官トアルハ第六條第三項ノ場合ハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長トシ其ノ他ノ場合ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督府通信局長、臺灣ニ在リテハ臺灣總督府交通局長トス

昭和十七年法律第八十五號產業設備營團法中改正法律施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六百五號

昭和十七年六月三十日

昭和十七年法律第八十五號ハ昭和十七年七月二日ヨリ之ヲ施行ス

産業設備營團法施行令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十七年六月三十日

内閣總理大臣 東條 英機
司法大臣 岩村 通世
逓信大臣 寺島 健
商工大臣 岸 信介

勅令第六百六號

昭和十七年六月三十日

産業設備營團法施行令中左ノ通改正ス

第七條中「商工大臣」ノ下ニ「又ハ逓信大臣」ヲ加フ

第十七條中「商工大臣」ノ下ニ「若ハ逓信大臣」ヲ加フ

第三十二條ノ次ニ左ノ如ク加フ

昭和十七年六月三十日

内閣總理大臣 東條 英機
逓信大臣 寺島 健
大藏大臣 賀屋 興宜
商工大臣 岸 信介
内務大臣 湯澤 三千男

第四章 雜則

第三十三條 産業設備營團ノ總裁及副總裁ハ商工大臣及逓信大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ、理事及監事ハ商工大臣及逓信大臣ニ於テ之ヲ命ズ

第三十四條 産業設備營團法第二條、第五條、第十五條、第十六條、第二十四條、第二十六條、第三十二條、第三十四條、第三十五條、第三十八條及第三十九條中政府トアルハ商工大臣及逓信大臣トシ同法第一條、第十七條、第二十條、第二十二條、第二十六條及第三十七條中政府トアルハ船舶、船舶用機關若ハ鐵製品又ハ此等ノモノノ製造若ハ修繕ノ設備ニ關スル事項ニ付テハ逓信大臣トシ其ノ他ノ事項ニ付テハ商工大臣トス但シ同法第三十七條ノ規定ニ基キ監督上ノ命令又ハ處分ニシテ産業設備營團ノ職員、役員、會計及給與ニ關スルモノニ付テハ商工大臣及逓信大臣トス

附則
本令ハ昭和十七年法律第八十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)
昭和十六年十二月三日勅令第四十六號産業設備營團法施行令抄録

第七條 登記スベキ事項ニシテ商工大臣ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可ヲ得テ、到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第十七條第一項
産業設備營團ハ産業設備營團法第十八條第一項ノ規定ニ依リ收用又ハ使用シタル土地ヲ其ノ建設シタル設備ニシテ其ノ土地ノ上ニ存スルモノト共ニスルニ非ザレバ讓渡又ハ貸付スルコトヲ得ズ但シ商工大臣ノ認可ヲ受ケタルトキ又ハ收用シタル土地ニ付其ノ收用ノ時期ヨリ二十年ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

省 令

●大藏省令第五十一號
外國爲替管理法施行規則中左ノ通改正ス
昭和十七年七月一日
大藏大臣 賀屋 興宜

第九十四條中「事項及人」ヲ「事項又ハ人」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ規定ニ依リ事項又ハ人ヲ指定シテ本令ニ定ムル取引又ハ行爲ノ制限ヲ免除シタル場合ニハ大藏大臣必要アルトキハ之ヲ告示ス其ノ廢止又ハ變更ヲ爲シタル場合亦同ジ

第百條中「事項及人」ヲ「事項又ハ人」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ規定ニ依リ事項又ハ人ヲ指定シテ本令ニ定ムル取引又ハ行爲ノ制限ヲ免除シタル場合ニハ大藏大臣必要アルトキハ之ヲ告示ス其ノ廢止又ハ變更ヲ爲シタル場合亦同ジ

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)
昭和十六年三月十四日大藏省令第十號外國爲替管理法施行規則抄録

第九十四條 大藏大臣ハ必要アルトキハ事項及人ヲ指定シテ本令ニ定ムル取引又ハ行爲ノ制限ヲ免除スルコトヲ得

●大藏省令第五十二號
増産金貨上規則中左ノ通改正ス
昭和十七年七月一日
大藏大臣 賀屋 興宜

達

●陸軍第四十號

陸軍武官昇給規則中左ノ通改正ス

昭和十七年七月一日

陸軍大臣 東條 英機

第六條第二項中「新職務ノ命課ハ新所管長官ニ於テ之ヲ」ヲ「新所管長官ハ到署ノ日ヲ以テ新職務ノ命課ヲ」ニ改ム

●陸軍第四十一號

判任文官同待遇者人事取扱要領中左ノ通改正ス

昭和十七年七月一日

陸軍大臣 東條 英機

第五號第二項中「新職務ノ命課ハ新所管長官ニ於テ之ヲ」ヲ「新所管長官ハ到署ノ日ヲ以テ新職務ノ命課ヲ」ニ改ム

●陸軍第四十二號

陸軍武官昇給規則左ノ通改正ス

昭和十七年七月一日

陸軍大臣 東條 英機

第一章 總則

第一條 本規則ハ尉官、准士官及下士官ノ昇給ニ關スル事項ヲ規定スルモノトス

第二條 本規則中所管長官ト稱スルハ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ヲ謂フ

第三條 陸軍大臣直轄ノ官衙又ハ學校ニ在リテハ各其ノ長ハ所管長官ニ該當ス

第四條 昇給命令官ハ素行修マラズ勤務精勵ヲ缺ク等ノ者アルトキハ其ノ事故止ム迄其ノ昇給ヲ停止スルモノトス但シ准士官下士官ニ關シテハ所管長官ノ認可ヲ受メベシ

前項ノ規定ニ依リ昇給ヲ停止スベキ者ヲ生ジタルトキハ關係部隊長ハ直ニ事由ヲ具シ順序ヲ經テ昇給命令官ニ上申スベシ
其ノ事故止ミタルトキ亦同ジ
昇給命令官第一項ノ規定ニ依リ尉官ノ昇給ヲ停止シタルトキハ連ニ其ノ官氏名ヲ陸軍大臣ニ報告スルモノトス爾後之ガ昇給ヲ行ヒタルトキ亦同ジ

第二章 尉官ノ昇給

第四條 初メテ現役尉官ニ任ゼラレタルトキ及現役尉官ニシテ官ヲ進メラレタルトキハ附令ヲ用ヒズ其ノ官ニ於ケル最下級俸ヲ給ス

第五條 現役尉官ノ昇給ハ先任順序ニ從ヒ級ヲ逐フテ之ヲ行フ

第六條 現役尉官ノ昇給ニ要スル在職年月最下限(以下之ヲ昇給停年ト稱ス)、等給定員、等給定員算定區域及昇給命令官ハ附表第一ニ依ル

前項ノ昇給停年ハ現等給ニ於ケル前後ノ在職期間(轉科、復職、役種變更又ハ召集等ノ場合)ヲ通算ス但シ勤務演習召集中ノ期間ヲ除ク

第七條 現役尉官ノ定期昇給ハ毎年一月、四月、九月各末日ニ於テ之ヲ行フ

第八條 前條ノ各昇給期ニ於テ昇給セシムベキ者ノ範圍ニ關シテハ陸軍大臣ノ指示ニ依ル

昇給命令官ハ前項ノ指示ニ基キ昇給範圍内ニアル下現役尉官ヲ昇給セシムルモノトス

第九條 陸軍大臣昇給新制上必要ト認ムルトキハ某兵科部又ハ某階級ヲ限リ一時所定ノ等給定員ヲ増減スルコトアルベシ

第十條 昇給命令官ハ現役尉官在職中傷疾疾病ノ爲死亡シタルトキハ第五條及第六條ニ規定スル昇給順序、昇給停年及等給定員ニ拘ラス其ノ際特ニ之ヲ昇給セシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ昇給停年ヲ超エタル現役尉官ニシテ待命、豫備役又ハ退役ト爲ルベキ者(待命、休職又ハ停職ヨリ轉役スル者ヲ除ク)ニ之ヲ準用ス

前二項ニ依リ昇給ハ死亡又ハ退職ノ日ニ於テ之ヲ行フモノトス

第十一條 前條條ノ規定ハ左ノ各號ノ特例ヲ除クノ外特別志願將校及召集中ノ尉官ニ付之ヲ準用ス

一 特別志願將校及召集中ノ尉官ノ爲等給定員ヲ定ムルコトナシ

二 特別志願將校ト召集將校トハ各等給定員算定區域毎ニ各一團トシテ之ヲ區別シ現役將校ニ準ジテ取扱フモノトス

第三章 准士官下士官ノ昇給

第十二條 現役及召集中ノ勤務演習召集中ヲ除クノ准士官及下士官ノ昇給ハ等給ヲ逐フコトナク下士官初任以後ノ在職年數ニ應ジ之ヲ行フ

第十三條 准士官及下士官ノ等給支給區分及昇給命令官ハ附表第二ニ依ル

第十四條 前條ノ在職年數ノ算定方法ハ左ノ各號ニ依ル

一 在職年數中ニハ待命、休職及停職ノ期間ハ之ヲ算入セズ轉科、復職、再任、役種變更及召集(勤務演習召集ヲ除ク)ノ場合ハ前後ノ在職年數ヲ通算ス但シ憲兵ニ在リテハ憲兵兵長タリシ期間ノ二分ノ一ヲ加算ス

二 豫備役ニ編入ノ當日召集セラルル等引續キ部隊ノ職務ニ就キタル場合ヲ除クノ外下士官初任、待命、休職、停職、復職、轉役、再任、應召、召集解除等就職又ハ退職當月ニ於ケル一月未滿ノ端日數ハ之ヲ切捨ツ

第一號但書ノ規定ニ依リ加算スベキ期間ノ計算上生ズル一月未滿ノ端日數ニ付テモ亦同ジ

三 判任文官ヨリ准士官又ハ下士官ニ轉官シタル者ノ在職年數ハ陸軍ニ就職シタル日ヨリ二年後下士官ニ任官シタルモノト看做シ之ヲ算定ス

第十五條 准士官、下士官ノ定期昇給ハ毎年三月、六月、九月、十二月各末日ニ於テ之ヲ行フ

第十六條 昇給命令官ハ下士官、下士官ニシテ進級スル者アルトキハ發令當日附表第二ニ規定スル在職年數ニ相當スル等給ニ又定期昇給ノ日ニ於テ等給支給區分ニ定ムル上級等給ノ在職年數ニ達シタル者ハ當該等給ニ昇給セシムルモノトス

附則

本達ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本達施行ノ際ニ於ケル准士官及下士官ノ等給ハ附表第二ニ定ムル等給支給區分ニ從ヒ昭和十七年七月一日當該等給ニ發令セラレタルモノト看做ス

附表第一 現役尉官昇給区分表									
階級	等給			等給停年	等給定員	等給定員算定區域	昇給命令官		
	一	二	三						
大尉	一	二	三	毎級一年	各等給現員ノ 概々三分ノ一	兵科ニ在リテハ各 階級毎ニ、各部ニ 在リテハ各官毎ニ 通算ス	所管長官		
中尉	一	二	三	毎級一年	各等給現員ノ 概々二分ノ一	兵科ニ在リテハ各 階級毎ニ、各部ニ 在リテハ各官毎ニ 通算ス	所管長官		
軍樂少尉	一	二	三	毎級一年	各等給現員ノ 概々二分ノ一	兵科ニ在リテハ各 階級毎ニ、各部ニ 在リテハ各官毎ニ 通算ス	所管長官		

附表第二 准士官下士官等給支給区分表									
階級	等給			在職年數	昇給命令官				
	一	二	三						
准士官	一	二	三	十三年以上	所屬部長				
准士官	一	二	三	十一年以上十三年未満	所屬部長				
准士官	一	二	三	八年以上十年未満	所屬部長				
准士官	一	二	三	八年以上	所屬部長				
准士官	一	二	三	六年以上	所屬部長				
准士官	一	二	三	四年以上六年未満	所屬部長				
准士官	一	二	三	三年六月以上四年未満	所屬部長				
准士官	一	二	三	三年六月未満	所屬部長				
准士官	一	二	三	一年以上三年未満	所屬部長				
准士官	一	二	三	二年未満	所屬部長				

告示

●内務省告示第四百九十號

地方官官制ノ規定ニ依ル府縣地方事務所ノ名稱、位置及管轄區域別表ノ通定ム

昭和十七年七月一日

内務大臣 湯澤三千男

(別紙)

名稱

位置

管轄區域

東京府

西多摩地方事務所

西多摩郡青柳町

西多摩郡

南多摩地方事務所

八王子市

南多摩郡

北多摩地方事務所

北多摩郡府中町

北多摩郡

東京都府

京都市

愛宕郡葛野町

愛宕郡

宇治郡宇治町

宇治郡

喜喜郡宇治町

喜喜郡

相模郡木津町

相模郡

相模郡木津町

相模郡

南相模郡

南相模郡

北相模郡

北相模郡

天田郡

天田郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

河東郡

裏面あり

[illegible]

27

裏面あり

北西諸縣地方事務所	都城市	北西諸縣
東陽地方事務所	兒湯郡萬鶴町	東陽郡
東白杵地方事務所	延岡市	東白杵郡
鹿兒島縣所	鹿兒島市	鹿兒島郡
鹿兒島地方事務所	鹿兒島市	鹿兒島郡
掛宿地方事務所	掛宿郡掛宿町	掛宿郡
川邊地方事務所	川邊郡加世田町	川邊郡
日置地方事務所	日置郡伊集院町	日置郡
薩摩地方事務所	川内市	薩摩郡
出水地方事務所	出水郡出水町	出水郡
伊佐地方事務所	伊佐郡大日町	伊佐郡
給良地方事務所	給良郡加治木町	給良郡
肝屬地方事務所	肝屬郡鹿屋市	肝屬郡
那覇市	那覇市	島尻郡
中頭郡宜野灣村	中頭郡宜野灣村	中頭郡
國頭郡名護町	國頭郡名護町	國頭郡

●大藏省告示第三百八十七號
 免除第一號
 外國爲替管理法施行規則第九十四條第一項
 並ニ第百條第一項ノ規定ニ依リ左ニ掲グル
 取引又ハ行爲ヲ爲ス場合ニハ同令ノ制限並
 ニ報告ヲ免除ス
 昭和十七年七月一日
 大藏大臣 賀屋 興宣

●陸軍省告示第三十四號
 昭和十七年陸軍省告示第十一號ニ依リ昭和
 十七年十二月採用スベキ陸軍少年戰車兵學
 校生徒及陸軍少年通信兵學校生徒各志願者
 ノ第一次身體檢査該陸軍野戰砲兵學校生徒
 徒陸軍重砲兵學校生徒及陸軍防空學校生
 徒ノ各志願者身體檢査在期日ハ之ヲ昭和十七
 年七月下旬ヨリ同年八月二十三日止ノ間ニ
 於テ檢査官ノ指定スル日ニ變更ス
 昭和十七年七月一日
 陸軍大臣 東條 英機

●司法省告示第二十六號
 沖繩縣島尻郡伊平屋村役場昭和十七年五月
 十日火災ニ罹リ同役場ニ保存スル戸籍簿、
 除籍簿、寄留簿及寄留手續令第十一條ノ用
 紙全部焼失シタルニ付右再製上必要アルヲ
 以テ左ニ掲グル者ハ昭和十七年九月三十日
 迄ニ同村長ニ對シ左ノ手續ヲ爲スベシ
 一 昭和十七年四月一日ヨリ同年五月十日迄
 ノ間ニ於テ同村長ニ對シ戸籍ニ關スル届
 出、訂正申請報告又ハ請求ヲ爲シタル者
 ハ其ノ事項ヲ更ニ申出ヅルコト

二 歐洲國關東州、泰國、佛領印度支那又ハ戰地
 ニ居住スル帝國軍人又ハ軍屬ニ對シ又ハ其ノ
 爲ニスル外國爲替管理法施行規則第四十五條
 ニ掲グル取引又ハ行爲但シ外國ニ於テ該貸付
 金假拂金又ハ立替金ノ辦濟ヲ受クルモノヲ
 除ク
 ●大藏省告示第三百八十八號
 兵庫縣津名郡山良町紺屋町千二百二十番地
 所在薄雲嘉吉特殊保稅工場ハ昭和十七年六
 月十九日限り廢業ニ因リ特許消滅セリ
 昭和十七年七月一日
 大藏大臣 賀屋 興宣

- (二) 昭和十五年一月以前告示第一號（價格等統制令第七條）規定ニ依ル小麦及小麦粉ノ販賣價格指定（件）中一、小麦最高販賣價格附記ハ付テ削除ス
- (三) 昭和十七年一月農林省告示第三百二十四號（價格等統制令第七條）規定ニ依ル昭和十七年以降產大麦稈麥及小麥ノ最高販賣價格指定（件）附記セテ削除ス
- 四 食糧管理法施行規則第三條但書ノ規定ニ依リ指定スルコト左ノ如シ
 - (一) 當該市町村ノ販賣組合又ハ農業倉庫業者ナキ場合其ノ他同期第三條ノ規定ニ依リ管理米家ヲ選渡シ又ハ販賣ノ委託ヲ爲スコト能ハズル特別ノ事情アル場合ニ於テ地方長官ノ指定スル者ニ當該米家ヲ選渡シ又ハ販賣ノ委託ヲ爲スコトキ
 - (二) 地方長官ノ指示又ハ市農會若ハ町村農會ノ斡旋ニ依リ同一道府縣内ニ居住スル者ニ對シ其ノ種子トシテ選渡ストキ
 - (三) 地方長官ノ承認ヲ受ケ契約栽培ヲ爲シタル醸造用米麥ヲ農會ノ斡旋ニ依リ當該契約ノ相手方ニ選渡ストキ
 - (四) 其ノ他特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキ
- 五 食糧管理法施行規則第二條第一項但書ノ規定ニ依リ指定スルコト左ノ如シ
 - 四ノ（二）乃至（四）場合
- 六 食糧管理法施行規則第四條第一項第二號ノ規定ニ依リ指定スルコト左ノ如シ
 - （一）（四）ノ場合
- （二）地方長官ノ指示又ハ市農會若ハ町村農會ノ斡旋ニ依リ同一道府縣内ニ居住スル者ニ對シ其ノ種子トシテ選渡ストキ
- （三）市農會又ハ町村農會ガ乙管理米家ノミノ割當ヲ爲ス市町村ニ於テ生産セザレタ米麥ヲ市農會又ハ町村農會ノ斡旋ニ依リ選渡ストキ

国立公文書館
National Archives of Japan

裏面あり

除ハル額昭和十六年産及昭和十七年産額ニ付テハ六ノ價格ヨリ十貫兩二十錢ヲ控除シタル額

八 内地精米ニ付テハ昭和十六年農林省告示第六百八十七號昭和十四年農林省令第八號第二項ノ規定ニ依ル内地精米ノ種類、銘柄及等級ニ最高販賣價格指定ノ件附記三ニ掲グル價格ニ六十兩四十錢ヲ加算シタル額

九 昭和十六年以前産内地大麥及裸麥ニ付テハ昭和十五年農林省告示第四號(價格等統制令第七條ノ規定ニ依ル)大麥及裸麥ノ販賣價格指定ノ件附記ニノ額

十 昭和十七年以前産内地大麥及裸麥ニ付テハ昭和十七年農林省告示第三百二十四號(價格等統制令第七條ノ規定ニ依ル)昭和十七年以前産内地大麥及裸麥ノ販賣價格指定ノ件附記一乃至五ニ掲グル額

十一 昭和十六年以前産内地小麥ニ付テハ昭和十五年農林省告示第一號(價格等統制令第七條ノ規定ニ依ル)小麥及小麥粉ノ販賣價格指定ノ件、小麥最高販賣價格中ノ實價者減價額ノ額

十二 昭和十七年以前産内地小麥ニ付テハ昭和十七年農林省告示第三百二十四號附記一乃至五ニ掲グル價格ニ六十兩一貫兩二十錢ヲ加算シタル額

十三 前各號ノ買入價格ハ政府ガ買入代價ヲ證券ヲ以テ交付スル場合ニ於テハ前各號ノ額ニ現金受渡ノ日ヨリ證券償還ノ日迄ノ金利ニ相當スル金額ヲ加算シタル額トス

十四 前各號ノ買入價格ハ現品ノ品價等ノ状況ニ依リテ之ヲ減額スルコトアルベシ

●農林省告示第四百六十二號
食糧管理法施行令第二條第二項ノ規定ニ依リ銘柄及等級左ノ通指定ス
昭和十七年七月一日
農林大臣 井野 碩哉

玄米 北海道三等青森三等岩手三等宮城三等秋田三等庄内三等村山三等福島三等茨城三等栃木三等群馬三等埼玉三等千葉三等東京三等神奈川三等山梨三等長野三等新潟三等富山三等石川三等福井三等静岡三等愛知三等岐阜三等三重三等滋賀三等京都三等大阪三等奈良三等和歌山三等鳥取三等島根三等岡山三等広島三等山口三等徳島三等香川三等愛媛三等高知三等福岡三等佐賀三等長崎三等熊本三等大分三等宮崎三等鹿児島三等鹿兒島三等

●商工省告示第七百三十五號
昭和十六年農工省告示第八百七十六號中左ノ通改正ス
昭和十七年七月一日
商工大臣 岸 信介
農工省工務官東京事務所盛岡出張所ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
新設市本町通七番町千九番地
●商工省告示第七百三十六號
昭和十七年農工省告示第六百四十三號特殊建築ノ最高販賣價格指定ノ件中左ノ通改正ス
昭和十七年七月一日
商工大臣 岸 信介
三ノ附記(ロ)中「仲障子」在リテハ四開上ゲ「ラ割」
四ノ附記中「一〇%上ゲ」「一〇%下ゲ」ニ改ム

五ノ番號七ノ項中幅、見込及概見附ノ欄ヲ左ノ如ク改ム
自(一〇〇八) 至(一〇一〇)
自(一〇一〇) 至(一〇一三)
至(一〇一六)
至(一〇一三)
七ノ(一)ノ項中「本板」ヲ使用シタルモノニシテ「下」ニ附屬材料ニテ「ラ割」ヲ加フ

●商工省告示第七百三十七號
昭和十六年農工省告示第三百八十八號(無水鹽化アルミニウムノ販賣價格指定ノ件)中左ノ通改正ス
昭和十七年七月一日
商工大臣 岸 信介
販賣價格「二八五・〇〇」ヲ「一五三・九四」ニ改メ附記(ロ)中但書ヲ削ル

●商工省告示第七百三十八號
昭和十六年農工省告示第七百十四號(更生絲交織ステープルワイヤー織物ノ最高販賣價格指定ノ件)中左ノ通改正ス
昭和十七年七月一日
商工大臣 岸 信介
二ノ(一)及(二)ヲ左ノ如ク改ム
(一)不合格品
生産者最高販賣價格 合格品ノ生産者最高販賣價格ニ百分ノ九十ヲ乗ジテ得タル額
日本綿スラ織物製造株式會社最高販賣價格 合格品ノ生産者最高販賣價格ニ百分ノ九十九ヲ乗ジテ得タル額
日本綿スラ織物株式會社最高販賣價格 合格品ノ生産者最高販賣價格ニ百分ノ九十九ヲ乗ジテ得タル額
日本綿スラ織物株式會社最高販賣價格 合格品ノ生産者最高販賣價格ニ百分ノ九十九ヲ乗ジテ得タル額
(二)不合格品ノ加工品
日本綿スラ織物株式會社最高販賣價格 合格品ノ生産者最高販賣價格ニ百分ノ九十九ヲ乗ジテ得タル額
日本綿スラ織物株式會社最高販賣價格 合格品ノ生産者最高販賣價格ニ百分ノ九十九ヲ乗ジテ得タル額
日本綿スラ織物株式會社最高販賣價格 合格品ノ生産者最高販賣價格ニ百分ノ九十九ヲ乗ジテ得タル額
日本綿スラ織物株式會社最高販賣價格 合格品ノ生産者最高販賣價格ニ百分ノ九十九ヲ乗ジテ得タル額

●逓信省告示第九百七十一號
郵便貯金法及其ノ附屬法規ノ定ムル所ニ依リ左記郵便貯金切手ヲ發行ス
昭和十七年七月一日
逓信大臣 寺島 健
一名稱及同別 郵便貯金切手(第二回)
二、額面金額種類 二圓
三、發行 額 一千五百萬圓(七百五十萬枚)
四、賣出期間 自昭和十七年七月十五日
五、抽籤期日 昭和十七年七月二十日
六、抽籤方法 七百五十萬枚ヲ十萬枚一組トシテ七十五組ニ分チ一組ノ籤數ニ依リ抽籤ヲ行ヒ其ノ當籤シタル番號ヲ各組ニ適用ス
七、贈 金 發行額一千五百萬圓(七百五十萬枚)ニ付
等別別 贈金額 當籤本數
一等 千圓 三〇〇本
二等 五百圓 一、五〇〇本
三等 二百圓 六、〇〇〇本
四等 一百圓 六、〇〇〇本
計 六六、一八〇本
八、増金額合計 昭和十七年七月三十一日 百九十五萬圓

●逓信省告示第九百七十二號
本日ヨリ左記電信電話取扱所ヲ郵便局ニ改定ス但シ郵便物集配事務ヲ取扱ハズ
昭和十七年七月一日
逓信大臣 寺島 健
名 稱 逓信大臣 寺島 健
入河内電信電話取扱所 高知縣安藝郡市川村大字入河内(大井局郵便局内)

●逓信省告示第九百七十三號
昭和十七年逓信省告示第九百七十二號ノ郵便局ハ逓信官署制第十六條第一項但書ノ規定ニ依リ逓信大臣ノ特ニ指定スル郵便局トス
昭和十七年七月一日
逓信大臣 寺島 健

宣稱 第四四二號 昭和十七年七月一日 水曜日

客通	內閣印刷局技師 長野 昌隆	客通	情報局情報官 小松東三郎	客通	菅 榮次郎	客通	興亞院書記官 長谷川輝彦
五級俸下賜	內閣印刷局技師 佐藤 保雄	客通	尾之上弘信	客通	熊合 巖	客通	興亞院調查官 長久保俊夫
客通	內閣印刷局理事官 田麥 傳	客通	神崎 廣	客通	伊藤萬次郎	客通	興亞院書記官 岩城 重男
七級俸下賜	內閣印刷局書記官 澤 潤一	客通	渡邊 耐三	客通	中村 善六	客通	興亞院理事官 竹內 堪二
八級俸下賜	內閣印刷局書記官 尾添 幣男	客通	技術院參技官 島居直三郎	客通	高桑 春雄	客通	興亞院理事官 佐野 朝男
客通	法制局參事官 佐藤 達夫	客通	川中 宏	客通	今井 尚	客通	興亞院書記官 丁子 尙
三級俸下賜	賞勳局理事官 安藤 三郎	客通	中井 淳	客通	吉岡 守雄	客通	興亞院書記官 寺山 新六
六級俸下賜	企業院書記官 平田 丈松	客通	特許局技師 吉見 義明	客通	宇津城達之助	客通	興亞院書記官 野村市治郎
二級俸下賜	企業院書記官 平田 丈松	客通	小川潤次郎	客通	服部 敏夫	客通	興亞院調查官 數山 英一
客通	同上	客通	橫島 敏介	客通	和山 一雄	客通	興亞院調查官 關野 房夫
客通	同上	客通	藤浪補太郎	客通	北林 保正	客通	興亞院調查官 木下 助男
三級俸下賜	同上	客通	佐藤 榮吉	客通	特許局事務官 柏 哲夫	客通	興亞院事務官 平井 文吉
四級俸下賜	企業院調查官 青柳 確郎	客通	大塚 辰雄	客通	特許局技師 伊藤 健治	客通	興亞院事務官 石岡 實
客通	企業院書記官 林 敬三	客通	下田 進	客通	特許局技師 太田 平一	客通	興亞院電信官 內川清太郎
五級俸下賜	企業院調查官 八卷淳之輔	客通	青山 繁治	客通	同 高山 敏夫	客通	興亞院電信官 藤原治之助
客通	同上	客通	山田 太郎	客通	同 中島 隆	客通	興亞院理事官 新妻 一郎
六級俸下賜	企業院調查官 西水 孜郎	客通	特許局事務官 松本 孝一	客通	中央航空研究所研究官 梅津喜代治	客通	興亞院理事官 植村 正文
客通	同上	客通	三宅 太郎	客通	中央航空研究所研究官 寺田 一彦	客通	興亞院技師 藤島善太郎
七級俸下賜	企業院事務官 關盛 吉雄	客通	千々崎宜男	客通	中央航空研究所研究官 石田 義光	客通	興亞院技師 蘭部 龍一
客通	企業院技師 武內 謙二	客通	山田竹四郎	客通	中央航空研究所研究官 山本 義一	客通	興亞院調查官 八木 五平
客通	同上	客通	大河內守福	客通	中央航空研究所研究官 山本 義一	客通	興亞院調查官 安房喜代平
客通	企業院事務官 森崎 久壽	客通	濱野金三郎	客通	中央航空研究所技師 奥山 恒尚	客通	興亞院調查官 加茂野清喜
客通	企業院調查官 堀 立身	客通	辻 徹	客通	中央航空研究所研究官 森 武治	客通	興亞院調查官 大田 盛三
客通	同上	客通	渡邊 軍治	客通	中央航空研究所技師 入江雄太郎	客通	興亞院調查官 淺井 誠一
客通	同上	客通	池 眞滿	客通	中央航空研究所研究官 森 武治	客通	興亞院調查官 岡本今朝明
客通	同上	客通	神保 辨吉	客通	中央航空研究所研究官 森 武治	客通	興亞院調查官 高橋 友一
客通	同上	客通	伊藤銀之助	客通	中央航空研究所研究官 森 武治	客通	興亞院調查官 大竹増太郎
客通	同上	客通	一級俸下賜	客通	中央航空研究所研究官 森 武治	客通	興亞院調查官 村上 龍助
客通	同上	客通	一級俸下賜	客通	中央航空研究所研究官 森 武治	客通	興亞院調查官 志智嘉九郎
客通	同上	客通	一級俸下賜	客通	中央航空研究所研究官 森 武治	客通	興亞院調查官 江口 康隆
客通	同上	客通	一級俸下賜	客通	中央航空研究所研究官 森 武治	客通	興亞院調查官 金澤 多藏
客通	同上	客通	一級俸下賜	客通	中央航空研究所研究官 森 武治	客通	興亞院調查官 佐藤 孝
客通	同上	客通	一級俸下賜	客通	中央航空研究所研究官 森 武治	客通	興亞院調查官 長谷川善彦
客通	同上	客通	一級俸下賜	客通	中央航空研究所研究官 森 武治	客通	興亞院調查官 小沼 亨

[illegible]

裏面あり

[illegible]

33

国立公文書館
National Archives of Japan

附錄四

34

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

九州帝國大學助教授 松尾 政之 同 田中 武英 同 福島 隆太 同 遠藤 壽一 客通 名古屋帝國大學助教授 宮川 正澄 同 杉山 鉦一 同 古屋 善正 同 榎本 義一 東京工業大學助教授 末澤 慶忠 本俸十級俸下賜 齋川 範行 本俸十級俸下賜 齋川 範行 職務俸金參百六拾圓下賜 東京高等師範學校教授 吉田 章信 一級俸下賜 文部省圖書監督官 各務 虎雄 客通 熊本醫科大學學生主事 魚住 衛 二級俸下賜 熊本醫科大學附屬醫院藥局長 田中 義雄 客通 廣島高等師範學校教授 小野 鐵二 客通 上田露伴專門學校教授 原田 親雄 三級俸下賜 桐生高等工業學校教授 森 平三郎 長崎高等商業學校教授 馬場 誠 第一高等學校教授 關 泰祐 同 竹田 復 第五高等學校教授 大久保保七郎 同 芳賀 武雄 同 三浦 圭三 同 吉村 英太 東京外國語學校教授 宮越健太郎 東京高等體育學校教授 大谷 武一 四級俸下賜 北海道帝國大學教授 宇野 親美 同 田上 政敏 同 山岡 直道 客通 多賀高等工業學校教授 森 正門 同 氣象技師 星川 信吉 五級俸下賜	北海帝國大學助教授 土佐林義雄 廣島高等師範學校教授 河野 通匡 廣島高等工業學校教授 永倉直治郎 客通 安南高等工業學校教授 柏木民次郎 六級俸下賜 廣島高等師範學校教授 永原 敏夫 東京農業專門學校教授 平田 政雄 金澤高等工業學校教授 山口 富雄 濱松高等工業學校教授 田代 勲 客通 安南高等工業學校教授 橋本 俊彦 同 山本 英一 同 森田 辰雄 東京外國語學校教授 星 誠 七級俸下賜 東京工業大學附屬農部教授 河合 紀雄 客通 廣島高等師範學校教授 平松 久一 同 丸山 學 同 西谷登七郎 東京高等農林學校教授 石村 吉甫 附屬專門學校教授 松岡 富治 山形高等學校教授 芦田 弘夫 金澤高等工業學校教授 吉中 末吉 客通 廣島高等師範學校教授 森本彌三郎 八級俸下賜 廣島高等師範學校教授 佐々木一義 同 木坂 千秋 同 小樽高等商業學校教授 岡本 理一 同 第五高等學校教授 山田 昌司 同 大阪高等學校教授 竹林 松二 同 浦和高等學校教授 吉岡 護一 仙臺高等工業學校教授 石井 友次 同 仙臺高等工業學校教授 衛藤 重孝 同 神戶高等工業學校教授 鈴木 重光 客通 廣松高等工業學校教授 深尾 保 客通 安南高等工業學校教授 永井 惣吉 同 長谷川正平 宇部高等工業學校教授 森川 晃卿 九級俸下賜 神宮學部大學助教授 濱口 嘉一 鳥取高等農林學校教授 石谷 類造 客通 廣島高等工業學校教授 藤吉正之進 東京高等體育學校教授 前田 充明 十級俸下賜 京都帝國大學教授 木村 素衛 心理學講座分擔ヲ命ス 分擔講座職務俸金參百六拾圓下賜 九州帝國大學農學部附屬農場長 伊藤 壽刀 補九州帝國大學農學部附屬農場長 澤村 康 九州帝國大學農學部附屬農場長職務俸金五 百參拾圓下賜 依願九州帝國大學農學部附屬農場長ヲ免ス 東京工業大學助教授 相 三衛 同 山村 金保 同 中田 孝 同 栗屋 潔 同 藤岡 通夫 同 鈴木 信一 同 廣藤 幸男 早川 康夫 職務俸金參百六拾圓下賜 熊本醫科大學助教授 橋原 憲章 客通 東京工業大學助教授 林 杵雄 同 水村善太郎 同 橋本 三夫 同 藤田 重文 同 桶谷 繁雄 職務俸金貳百七拾圓下賜	熊本醫科大學助教授 熊谷 浩輝 同 三上 芳雄 同 永水 常輔 職務俸金貳百五拾圓下賜 京都帝國大學助教授 黒田 覺 京都帝國大學評議員ヲ命ス 同 田中 周友 依願京都帝國大學評議員ヲ免ス 師範學校教授兼師範學校舍監 磯崎 優 千葉縣女子師範學校教授兼千葉縣女子師範 學校舍監ニ補ス 師範學校舍監ニ補ス 山崎 進 島根縣女子師範學校舍監ニ補ス 同 北澤 公平 熊本縣女子師範學校舍監ニ補ス 小松 才喜 鹿兒島縣師範學校舍監ニ補ス 公立中學校舍監ニ補ス 小野寺秀國 岩手縣立盛岡中學校舍監ニ補ス 公立高等女學校舍監ニ補ス 越智 文昌 鹿兒島縣立大口高等女學校舍監ニ補ス 公立青葉學校舍監ニ補ス 池田壽左久 鹿兒島縣立市來農藝學校舍監ニ補ス 同 原 八郎 鹿兒島縣立市來農藝學校舍監ニ補ス 公立青葉學校舍監ニ補ス 今井 守 廣島縣立豐後學校舍監ニ補ス 國民學校訓導 保前太次郎 客通 埼玉縣國民學校校長ニ補ス 同 坪井 儀重 同 高木 茂夫 客通 埼玉縣國民學校校長ニ補ス 同 山田 源利 同 堀米助五郎 同 相馬 力 宮城縣國民學校校長ニ補ス
--	---	---

裏面あり

九級俸下賜	同	遠藤 三正	客通	農事試験場技師	本川 哲致	同	川井 武夫	同	片野 良藏
十級俸下賜	同	永田 良胤	三級俸下賜	同	田杉 平司	同	肥田 木司	同	久慈 光吉
一級俸下賜	食糧管理局書記官	矢野 彰	六級俸下賜	同	矢木 博	八級俸下賜	同	同	根岸 徳六郎
三級俸下賜	食糧管理局事務官	長谷川 清	客通	同	近藤 頼巳	客通	同	同	高須 成三
四級俸下賜	同	鶴川 益男	七級俸下賜	同	林 武	一級俸下賜	同	同	内藤 信行
七級俸下賜	同	村田 豊三	客通	同	三井 進午	二級俸下賜	同	同	丸山 政彰
八級俸下賜	同	武田 誠三	十級俸下賜	同	戸刈 義次	客通	同	同	島海 弘次
客通	同	長又 壽夫	九級俸下賜	茶業試験場技師	志村 喬	客通	同	同	瀧川 岩雄
十級俸下賜	食糧管理局理事官	曾我 徹一	一級俸下賜	畜産試験場技師	中江 利郎	五級俸下賜	同	同	石川 利治
五級俸下賜	食糧管理局技師	森 種吉	八級俸下賜	同	三浦 道雄	客通	同	同	遠藤 龍八郎
三級俸下賜	同	酒井 正男	九級俸下賜	同	橋山 精一	六級俸下賜	同	同	和田 軍三
四級俸下賜	同	鈴木 鼎三郎	五級俸下賜	同	大草 秋剣	客通	同	同	佐野 義男
客通	同	野崎 貫一	八級俸下賜	同	近藤 正一	七級俸下賜	同	同	百瀬 凱二
五級俸下賜	同	大島 居典	一級俸下賜	同	榎 一夫	客通	同	同	中村 新一郎
客通	同	下川 正毅	二級俸下賜	同	小國 秀男	八級俸下賜	同	同	春田 三郎
六級俸下賜	同	寺田 庄太郎	四級俸下賜	同	大久保 義夫	十級俸下賜	同	同	林 繁
七級俸下賜	同	五百井 亨	客通	同	川島 秀雄	六級俸下賜	同	同	宮崎 正隆
客通	同	山口 榮太郎	客通	同	入江 良作	三級俸下賜	同	同	天野 一郎
客通	同	中隈 操	八級俸下賜	同	種畜場技師	土屋 修	同	同	寺尾 新
客通	同	今井 嘉重	五級俸下賜	同	種畜場技師	武内 繁	同	同	田内 泰三郎
九級俸下賜	同	上野 浩	四級俸下賜	同	營林局事務官	武内 繁	同	同	中井 信隆

客通	同	東 秀雄	六級俸下賜	工業組合事務官 與志雄	客通	同	佐藤 尚邦	客通	同	伊藤 俊夫
十級俸下賜	同	島津 忠秀	企業局勤務ヲ命ス(商工省)	同	八級俸下賜	同	佐藤 滋	同	同	三田 大吉郎
六級俸下賜	同	露絲試驗場技師 濱田 成義	商工省工務官 萩尾 全一	同	客通	同	長瀬 達吉	同	同	柿原 光信
客通	同	高崎 恒雄	商工省工務官 山本 高行	同	客通	同	日高準之介	同	同	平林 孝夫
客通	同	有賀 久雄	商工省工務官 高行 忠利	同	客通	同	久保 忠雄	同	同	大木 光雄
九級俸下賜	同	雨宮 平	商工省工務官 山本 高行	同	客通	同	及川 逸平	同	同	太田 慶藏
三級俸下賜	同	生絲検査所技師 沖 海治	同	同	九級俸下賜	同	私市 信夫	同	同	淡田 晴一
四級俸下賜	同	松本 茂	同	同	客通	同	千葉 弘毅	同	同	佐藤 清助
客通	同	平開今朝治郎	同	同	客通	同	高島 節男	同	同	足立 英夫
客通	同	田知本秀雄	同	同	客通	同	黒津兆太郎	同	同	後藤 孝
八級俸下賜	同	稻垣 規矩	同	同	客通	同	島田 喜仁	同	同	山崎富士松
九級俸下賜	同	種馬牧場技師 河野 吉祥	同	同	客通	同	今西 清治	同	同	河西 確郎
十級俸下賜	同	茂木 茂三	同	同	客通	同	柿坪 精吾	同	同	立石 茂
客通	同	種馬所技師 中松喬三郎	同	同	客通	同	島田 喜仁	同	同	村瀬鎮之助
客通	同	小松 一清	同	同	客通	同	高嶺 明建	同	同	日比芳治郎
六級俸下賜	同	相馬久三郎	同	同	客通	同	中島 尚文	同	同	高安 俊輔
客通	同	大越 伸	同	同	客通	同	鎌内 義雄	同	同	加藤 貞夫
客通	同	岡井 重雄	同	同	客通	同	黒山 宜雄	同	同	佐藤 正男
七級俸下賜	同	石崎 三郎	同	同	客通	同	二級俸下賜	同	同	清水 頼母
客通	同	東 鳳	同	同	客通	同	四級俸下賜	同	同	安永 茂弘
九級俸下賜	同	久木田睦夫	同	同	客通	同	燃料局事務官 杉村正一郎	同	同	塚本 敏夫
客通	同	小椋 正文	同	同	客通	同	燃料局事務官 吉田 良雄	同	同	奥村 虎雄
六級俸下賜	同	馬事研究所技師 兼松 満造	同	同	客通	同	燃料局事務官 藤原 富一	同	同	燃料局理事官 植木 一平
五級俸下賜	同	米穀利用研究所技師 永原 太郎	同	同	客通	同	燃料局事務官 植木 一平	同	同	
東京府農林技師ニ補ス(農林省)	同	地方農林技師 塩田宗一郎	同	同	客通	同		同	同	

官報 第四六四一號 昭和十七年七月一日 水曜日

裏面あり

一級俸下賜	燃料局技師 加藤宣次郎	同	倉八 正	客通	同	久保 喜六	客通	同	岩本 愛吉
三級俸下賜	後藤 一雄	同	石井 秀平	一級俸下賜	同	細川政之助	客通	同	杉本政治郎
客通	松林 幸三	同	夏目田吉雄	三級俸下賜	同	中村辰五郎	十級俸下賜	同	田代 武夫
客通	佐分利猪之介	同	山崎 隆造	六級俸下賜	同	青 貢	五級俸下賜	同	田中元之進
六級俸下賜	加納 慶徳	同	貿易局技師 高吉 友次	七級俸下賜	同	戸引 達	客通	同	片山 信夫
客通	服部 桂助	同	末次 幸雄	九級俸下賜	同	五神 辰雄	七級俸下賜	同	淵田 隆門
客通	池田 文祐	同	小川 一彌	十一級俸下賜	同	町田 幹夫	八級俸下賜	同	千藤 忠昌
客通	島山 史郎	同	大西 龍	五級俸下賜	同	齋藤末次郎	九級俸下賜	同	佐藤光之助
客通	山本 忠人	同	中西 利英	三級俸下賜	同	荒島 善賢	客通	同	加米 一郎
七級俸下賜	芝原 忠夫	同	川澄巳知雄	四級俸下賜	同	鈴木 二正	二級俸下賜	同	早川 典久
客通	湯本 應利	同	石原 武夫	五級俸下賜	同	澤井 隆義	客通	同	井上 春成
客通	林 常吉	同	熊谷 典文	客通	同	眞田 弘	三級俸下賜	同	杉本 俊三
客通	田邊 常	同	土屋 正雄	六級俸下賜	同	杉本 淳夫	四級俸下賜	同	市瀬 元吉
八級俸下賜	久保 直英	同	物價局事務官 松田 慎三	客通	同	丹澤 龍男	客通	同	綿谷政次郎
客通	河村 貞晴	同	物價局事務官 松田 慎三	客通	同	田中 和美	客通	同	秋吉 三郎
客通	松下 繁盛	同	物價局事務官 松田 慎三	客通	同	井關 政延	客通	同	斯波 之茂
九級俸下賜	相良 長武	同	物價局事務官 松田 慎三	客通	同	中野 剛	客通	同	佐々木一雄
一級俸下賜	貿易局長官 菱沼 男	同	物價局事務官 松田 慎三	客通	同	森本伊佐夫	客通	同	島 五郎
二級俸下賜	貿易局書記官 小笠 公昭	同	物價局事務官 松田 慎三	客通	同	矢島鋼次郎	客通	同	江見 浩一
一級俸下賜	貿易局事務官 最上 章吉	同	物價局事務官 松田 慎三	客通	同	岡原 晴夫	客通	同	伊藤 亮
五級俸下賜	近藤 晴夫	同	物價局事務官 松田 慎三	客通	同	木元 武夫	客通	同	山本 健蔵
客通	今井 善衛	同	物價局事務官 松田 慎三	客通	同	同	客通	同	加藤 二郎
客通	伊藤 繁樹	同	物價局事務官 松田 慎三	客通	同	同	客通	同	中居富太郎
六級俸下賜	朝長 啓一	同	物價局事務官 松田 慎三	客通	同	同	客通	同	仙石 正
客通	樋口 誠明	同	物價局事務官 松田 慎三	客通	同	同	客通	同	藤田 正一
七級俸下賜	針貝 宜一	同	物價局事務官 松田 慎三	客通	同	同	客通	同	田中 健二

裏面あり

39

国立公文書館
National Archives of Japan

裏面あり

国立公文書館
National Archives of Japan

一受驗者ハ氏ノ上ニ記セル番號ヲ前表記載ノ番號ニ對照シ受驗日時ヲ知セラレタシ
 一午前ノ受驗者ハ午前七時三十分迄ニ午後ノ受驗者ハ午後一時三十分迄ニ高等試驗場ニ出頭シ受
 驗時帶票ヲ受ケラレシ
 右指定時間外ノ入場ヲ許サス
 昭和十七年七月

●工場財團
 神奈川縣足柄上郡南足柄町中沼二百十番地富士
 寫眞フィルム株式會社ヨリ同所所在足柄工場既
 設工場財團ニ對シ新ニ他ノモノヲ其財團ニ因
 スヘキモノトシテ變更登記ノ申請アリタルニ因
 リ該動產ニ付權利ヲ有スル者又ハ管理權選擇者
 タハ該廠分ノ債權者ハ本公告ノ日ヨリ三十二日
 ノ期間内ニ其權利ヲ當廳ニ申出ツヘシ
 但シ工場財團ニ屬スヘキモノ、目録ハ當廳ニ
 備付アリ關係者ノ閱覽ニ供ス
 昭和十七年七月一日
 小田原區裁判所松田出張所

●賣拂入札
 一品名數量 古防水布屑外十三點
 一引渡場所 當局大宮庫
 一現品下見 本月六日午後一時ヨリ同二時
 マテ
 一入札開札 本月七日午前十一時
 一品名數量 羽織外百二十二點
 一引渡場所 當局鹽田川用品庫
 一現品下見 本月七日午後一時ヨリ同二時
 マテ
 一入札開札 本月八日午前十一時
 一入札場所 當局經理部
 一公示書類 同部ニテ為覽ノコト
 一入札保證金 各自見積價格ノ百分ノ十以上ニ
 未滿切上
 一契約保證金 契約總代金ノ同上同止
 昭和十七年七月一日 東京鐵道局

●相續財産管理人選任
 本籍岐阜後ノ住所山口縣阿武郡生賣村大字
 生賣中第五百三十八番地
 平民 無職業 被稱職人 七三戸眞藏
 安政六年八月十二日出生
 昭和三十七年二月二十七日 前記最後ノ住所ニ於
 テ死亡
 當裁判所ハ山口縣阿武郡生賣村大字生賣分第
 二百八十九番地 栗原與太郎ノ申請ニ依リ山口

高等試驗委員長 森山 銳一

縣阿武郡生賣村大字生賣中第二百七番地佐々木
 周一ヲ右稱職財産管理人ニ選任シタルヲ
 昭和十七年六月十六日 山口區裁判所

●林野財産宣告
 名古屋市東區下飯田町二丁目十四番地
 申立人 谷口 茂太
 右代理人辯護士 大脇松太郎
 本籍岐阜住所名古屋市東區下飯田町二丁目十
 四番地 被申立人 谷口 孝一
 明治二十九年五月十六日生
 右申立人ヨリ被申立人ニ對シ禁治產宣告申立ア
 リタルヲ以テ當裁判所ハ被申立人ヲ心神喪失ノ
 常況ニ在ルモノト認メ決定スルコト左ノ如シ
 被申立人谷口孝一ノ禁治產ヲ宣告ス
 名古屋區裁判所
 昭和十七年六月十一日 判事 世古件逸郎
 本籍岐阜住所八幡市大字大藏三千二百五十六
 番地 中村 正文
 右ニ對シ福岡縣入幡市大字大藏三千一百五十六
 番地中村ケノ中申立ニ因リ當區裁判所ハ昭和
 十七年六月十五日禁治產ノ宣告ヲ為シタルヲ
 昭和十七年六月十五日 小倉區裁判所

●準禁治產宣告取消
 本籍神戸市兵庫區夙澤町四丁目二番地ノ五
 住所明石市山下町二丁目九百五十番地ノ五
 神原 義雄
 明治四十四年五月二十五日生
 右ニ對シ昭和十六年五月二十五日神戸區裁判所
 ノ宣告シタル準禁治產ハ昭和十七年四月三十日
 神戸地方裁判所ニ於テ言渡サレタル判決ニ依リ
 之ヲ取消セラレタリ
 昭和十七年六月十七日 神戸地方裁判所
 本籍岐阜住所岡山縣上道郡西大寺町西庄三百
 八十二番地ノ二 松嶋壽太郎
 右ニ對シ昭和七年三月三十一日當區裁判所ノ宣
 告シタル準禁治產ハ其ノ後松嶋壽太郎ノ申立ニ因
 リ昭和十七年六月九日之ヲ取消シタルヲ
 昭和十七年六月十八日 岡山區裁判所

丸山
僧侶一念寺住職

丸ノ内相互自動車株式會社

者ニ對シ利害關係人新田定吉ヨリ失

宇都宮區裁判所

● 告中更正

十七年六月五日
高崎區裁判所

シ次男清水金次郎ノ申立ニ因リ當裁判所

昭和十七年六月二十三

十七年六月二十三日
金澤區裁判所

明治二十七年四月二十九日生

五、四一八、九八四、二二二、〇〇〇

政府貸上金	一、四四五、〇一〇・三五
實產ノ部	
總計	
資本金及積立金	七、九九五、〇三〇・四九
其計	
資本金	一、七〇〇、〇〇〇・〇〇〇
預金	四、五五五、〇三〇・四九
積立金	一、七四五、〇〇〇・〇〇〇
政府預金	一、二九八、一六一・五五
政府預金	一、二九八、一六一・五五

今穀當會社昭

月一日ヨリ定時株主總會

登錄及其ノ抹消

六月二十日開僑人臨時校主聯合會。於元寶本館
減少可致コトニ決議相成候ニ就テハ右

年六月二十日開催ノ臨時株主總會ノ決議ニ依

七月一日開臨時株主總會ニ於テ資本金參

2

裏面あり

第六回特別報國債券賣出公告

- 第一、此ノ債券ハ臨時資金調整法ノ規定ニ基キ發行シ總額七百萬圓ヲ七十組ニ分チ賣出ス但シ賣出期間内ニ賣リ了ラザル債券ハ社債原簿ニ於テ之ヲ缺番ト爲スモノトス
- 第二、債券一通ノ券面金額壹圓、此ノ賣出價格壹圓ニシテ無記名券トス
- 第三、昭和十七年七月十六日より同年九月十五日迄當行本支店出張所各地代理店取扱店並ニ内地各郵便局及朝鮮總督府管内、臺灣總督府管内、樺太廳管内、關東局管内、南洋廳管内各郵便局ニ於テ賣出スモノトス但シ期間内ト雖モ賣切レトナルコトアルベシ
- 第四、此ノ債券ハ無利子トシ其ノ元金ハ昭和十七年十一月三十日迄據置キ同年同月償還抽籤ヲ執行シ七十組分ニテ貳拾四萬六千七百五拾圓(債券貳拾四萬六千七百五拾通)ヲ其ノ翌月ニ償還シ昭和十九年十二月迄據置キ全部償還スルモノトス
- 第五、償還抽籤ハ債券一組分ノ籤數ニ依リ執行シ其ノ當籤シタル番號ヲ各組ニ通用ス例ヘバ第百番ニ當籤シタルトキハ一ノ組ヨリ七十ノ組迄各組ノ第百番ノ債券ヲ何レモ當籤トスルガ如シ
- 第六、此ノ債券ハ昭和十七年十二月ノ償還ニ際シ當籤債券ニ對シテ左ノ割増金(七十組分)ヲ添付スルモノトス

等	級	一	二	三	四	計
等	一	七	貳	壹	貳	貳拾四萬六千七百五拾圓
等	二	拾	百	千	拾	
等	三	圓	圓	圓	圓	
等	四	圓	圓	圓	圓	

右割増金添付ノ方法ハ償還抽籤ニ於テ第一番目ニ當籤シタル番號ノ債券(七十組ニテ七拾通)ニ一割増金ヲ、第二番目乃至第五番目(七十組ニテ貳百八拾通)ニ二割増金ヲ、第六番目乃至第二十五番目(七十組ニテ壹千四百通)ニ三割増金ヲ、第二十六番目乃至第三千五百二十五番目(七十組ニテ貳拾四萬五千通)ニ四割増金ヲ添付スルモノトス

宣報 第四四一號 昭和十七年七月一日 水曜日

- 第七、此ノ債券ハ昭和十七年十二月以降ハ壹通壹圓ノ割合ヲ以テ何時ニテモ賣出申ノ五圓以上ノ報國債券又ハ貯蓄債券ニ引換フルコトヲ得(引換ノ際ハ一部現金ヲ充當スルモ差支ヘナキモノトス)
- 第八、償還抽籤ノ場合ニ於テハ當籤番號中缺番ニ該當スルモノアルトキト雖モ所定ノ償還籤數ニ算入スルモノトス
- 第九、割増金ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ國債證券ヲ以テ交付スルコトアルベシ
- 第十、當籤債券ノ元金及割増金ハ各抽籤ノ翌月ヨリ其ノ支拂ヲ開始ス
- 第十一、此ノ債券ノ元金及割増金ハ支拂開始ノ月ヨリ滿十五年後ハ之ガ支拂ノ義務ナキモノトス
- 第十二、商號、株式會社日本勸業銀行

東京市麴町區内幸町壹丁目壹番地
株式會社 日本勸業銀行

割引業債券募集

今般第六回割引業債券募集ニ依リ募集總額貳千萬圓
債券總額 貳千萬圓
各債券ノ金額 壹千圓、五百圓、貳百圓、拾萬圓
割引歩合 日歩八厘貳毛五絲
發行所 東京市麴町區内幸町壹丁目壹番地 日本勸業銀行
償還ノ方法及期限 昭和十八年七月十五日迄償還ス
申込期間 七月壹日より同月參日迄
申込方法 債券發行所ニシテ申込スルコトアルベシ
申込金 債券金額ノ半額ニシテ申込スルモノトス
拂込期限 七月拾五日
利 率 年利拾七厘
募集期間 昭和十七年七月

募集店
日興證券株式會社本支店
野村證券株式會社本支店
小池證券株式會社本支店
共済證券株式會社本支店
日本興業銀行
山一證券株式會社本支店
山本證券株式會社本支店
川島證券株式會社本支店

商號變更公告

當此新舊交替之際，昭和十七年六月二十日，左記之商號，經變更其商號，特此公告。

昭和十七年六月二十日

新商號 上田製菓株式會社

本店 大阪市東區高麗橋

東京支店 東京市日本橋區

町一丁目三番地

左記之商號，經變更其商號，特此公告。

昭和十七年七月一日

關西急行鐵道株式會社

當此新舊交替之際，昭和十七年六月二十日，左記之商號，經變更其商號，特此公告。

昭和十七年七月一日

關西急行鐵道株式會社

當此新舊交替之際，昭和十七年六月二十日，左記之商號，經變更其商號，特此公告。

昭和十七年七月一日

關西急行鐵道株式會社

當此新舊交替之際，昭和十七年六月二十日，左記之商號，經變更其商號，特此公告。

昭和十七年七月一日

關西急行鐵道株式會社

當此新舊交替之際，昭和十七年六月二十日，左記之商號，經變更其商號，特此公告。

昭和十七年七月一日

關西急行鐵道株式會社

當此新舊交替之際，昭和十七年六月二十日，左記之商號，經變更其商號，特此公告。

昭和十七年七月一日

關西急行鐵道株式會社

當此新舊交替之際，昭和十七年六月二十日，左記之商號，經變更其商號，特此公告。

昭和十七年七月一日

關西急行鐵道株式會社

當此新舊交替之際，昭和十七年六月二十日，左記之商號，經變更其商號，特此公告。

昭和十七年七月一日

關西急行鐵道株式會社

當此新舊交替之際，昭和十七年六月二十日，左記之商號，經變更其商號，特此公告。

昭和十七年七月一日

關西急行鐵道株式會社

當此新舊交替之際，昭和十七年六月二十日，左記之商號，經變更其商號，特此公告。

昭和十七年七月一日

關西急行鐵道株式會社

當此新舊交替之際，昭和十七年六月二十日，左記之商號，經變更其商號，特此公告。

昭和十七年七月一日

關西急行鐵道株式會社

當此新舊交替之際，昭和十七年六月二十日，左記之商號，經變更其商號，特此公告。

昭和十七年七月一日

關西急行鐵道株式會社

當此新舊交替之際，昭和十七年六月二十日，左記之商號，經變更其商號，特此公告。

昭和十七年七月一日

關西急行鐵道株式會社

當此新舊交替之際，昭和十七年六月二十日，左記之商號，經變更其商號，特此公告。

增資新株式株式會社名義書換止
六月三十日開會，當此新舊交替之際，昭和十七年六月二十日，左記之商號，經變更其商號，特此公告。

臺灣拓殖株式會社
當此新舊交替之際，昭和十七年六月二十日，左記之商號，經變更其商號，特此公告。

支那事變五周年を迎ふ
大東亞共榮圈と新支那
支那問題の重要性・躍進する
新支那の經濟建設・伸びゆく國民政府
國民政府の外交政策
米本土に深刻な脅威
戰時生産と
産業安全
通風塔

週報

(第一四七) 錢五

週寫眞

(第一四七) 錢十

情報局編輯 (七月一日號)

浙江、江西に作戦進む
北支建設に大きな役割を
果してゐる水路とジャンク
明朗さをます國民政府治下
暗黒化する重慶政權治下
新戰場 離典
廣東 東省
マレー女とニッポン語
タイ國に使用する廣川答禮使節
機械化部隊のお蔭者さん
女の腕でもしつかり空を護らう

定額 一ヶ月 九十錢 二ヶ月 九十錢 三ヶ月 九十錢 四ヶ月 九十錢 五ヶ月 九十錢 六ヶ月 九十錢 七ヶ月 九十錢 八ヶ月 九十錢 九ヶ月 九十錢 十ヶ月 九十錢 一年 九十錢
廣告料 一版 一ヶ月 一十錢 二版 一ヶ月 一十錢 三版 一ヶ月 一十錢 四版 一ヶ月 一十錢 五版 一ヶ月 一十錢 六版 一ヶ月 一十錢 七版 一ヶ月 一十錢 八版 一ヶ月 一十錢 九版 一ヶ月 一十錢 十版 一ヶ月 一十錢
發行所 東京市日本橋區 内閣印刷局
電話 東京 九三五一(内閣印刷局)
支店 東京 九三〇〇(支店)

地方行政ヲテ國家ノ當面セル新事態ニ即應セシムルガ爲ニハ現在ノ府縣廢ノ下ニ府縣ヨリ
小サキ區域ヲ擔當シ原則トシテ法令ニ於ケル獨自ノ權限ハ之ヲ有セズ主トシテ實行
ニ屬スル部分ヲ擔當スル府縣ノ綜合的現地實行機關ヲ設ケ眞ニ牧民的行政ノ實ヲ舉
グルノ要アリト認メラルルヲ以テ別紙要綱ニ依リ原則トシテ郡ノ區域ニ該機關ヲ配置
スルコトト致度キ考ニ有之然ル處現在ノ郡ノ區域ハ地方ニ依リテハ狹小ニ失スルモノ
ルノミナラズ交通、地勢、人情、風俗等ヨリ見ルニ現狀ノ儘ヲ以テレハ各種行政ノ運
用上適當ナラズト認メラルルモノ亦尠カラズ此ノ際適宜郡ノ區域ヲ廢合シタル上該機
關ヲ設置スルノ要アリト存ゼラルルニ付テハ左記標準ニ基キ貴管下ニ於ケル郡ノ廢合
案及實行機關設置個所案作製ノ上九月三十日迄ニ御回報相煩度仍本件ハ各方面ニ
影響ヲ及ボス所多キヲ慮リ特ニ極秘ノ御取扱相煩度

昭和十一年九月十四日

内務省地方局長留岡幸田

記

一、原則トシテ町村數十町村未滿又ハ人口四万未滿ノ郡ハ之ヲ整理スルコト但レ
交通其ノ他特別ノ事情アルモノハ之ヲ存置スルヲ妨ゲサルコト
二、前項該當以外ノ郡ニ付テモ交通、地勢、産業、經濟、人情風俗等ノ狀況、
從來ノ行政區劃ノ沿革等ニ徴シ將來各種行政ノ運轉上廢合ヲ適當トスル
ノハ之ヲ整理スルコト

備考

- (1) 町村數ハ昭和十一年九月一日現在ニ依ルコト
- (2) 人口ハ昭和十年國勢調査現在ニ依リ其ノ後町村ノ廢置ハ合、境界變更等ニ
依リ人口ニ異動アリシル場合ハ市制町村制施行規則第一條第三項ノ規定ニ
依リ府縣知事ノ告示シタル人口ニ依ルコト

府縣連絡部（假需）名稱設定方針

一、郡管轄（他郡ノ一部ヲ併轄スル場合ヲ含ム）ノ場合ハ
郡名ニ依ルコト但シ「郡」ヲ付セズ

設例

管轄區域 北多摩郡

名 稱 北多摩連絡部

三、二郡以上ヲ管轄スル場合ハ左記ニ依ルコト

一、管轄區域ヲ總稱スル既存ノ地名アルトキハ之ニ依ルコト

2、既存ノ地名無キトキハ當該區域ヲ總稱スル適當ナル新名稱ヲ
付スコト

設例

イ、管轄區域 大沼郡及河沼郡

名 稱 両沼連絡部

ロ、管轄區域 南設楽郡及八名郡

名 稱 八美連絡部

3、適當ナル新名稱ナキトキハ郡名ヲ連接スルコト

設例

管轄區域 甲郡及乙郡

名 稱 甲乙連絡部

4、以上各項ニ依リ無キトキ又ハ不適當トスルトキハ連絡部ノ所
在地ノ市町村名ニ依ルコト

備考

大郡ト標メテ小サキ小郡トヲ併轄スル場合ニハ大郡名ニ依ル
モ妨ゲナキコト

地方事務所管轄區域概況

一 地方事務所設置數

四二七

内 譯

- (一) 管轄區域一郡ノモノ
- (二) 管轄區域二郡ニ亘ルモノ
- (三) 管轄區域三郡ニ亘ルモノ
- (四) 管轄區域四郡ニ亘ルモノ

備考

- 一 元郡役所所在地ニ事務所ヲ設置スルモノ
- 二 元郡役所所在地外ニ事務所ヲ設置スルモノ

三三八

七七

九

三

四〇六

二一



府縣現地實行機關設置に伴う職員配當増減表

府縣	事務官	新規配當數	屬	新規配當數	職員	新規配當數	府縣費属又 減員數	備	考
青森		六		九	一	八			
岩手		八		一	二	四			
宮城		九		二	一	八			
秋田		六		九	一	八			
山形		一		四	一	八			
福島		一		四	一	八			
茨城		七		一	一	八			
栃木		八		一	一	八			
群馬		五		一	一	八			
埼玉		九		一	一	八			
千葉		二		一	一	八			
東京		四		一	一	八			
神奈川		一		一	一	八			
新潟		五		一	一	八			
富山		六		一	一	八			
石川		七		一	一	八			
福井		七		一	一	八			
山梨		三		一	一	八			
長野		八		一	一	八			
岐阜		一		一	一	八			
愛知		一		一	一	八			
三重		八		一	一	八			

府縣	事務官	新規配當數	屬	新規配當數	職員	新規配當數	府縣費属又 減員數	備	考
滋賀		七		一	一	八			
京都		四		一	一	八			
大阪		四		一	一	八			
兵庫		七		一	一	八			
奈良		五		一	一	八			
和歌山		五		一	一	八			
鳥取		三		一	一	八			
島根		一		一	一	八			
岡山		九		一	一	八			
広島		七		一	一	八			
山口		六		一	一	八			
徳島		五		一	一	八			
香川		七		一	一	八			
高松		四		一	一	八			
愛媛		二		一	一	八			
福岡		七		一	一	八			
佐賀		二		一	一	八			
長門		二		一	一	八			
熊本		一		一	一	八			
大分		四		一	一	八			
宮崎		八		一	一	八			
鹿児島		三		一	一	八			
沖縄		三		一	一	八			
合計		三 四 一		四 五 六		九 一 二		九 七	

合	仲	鹿	官	大	熊	長	佐	橘	高	慶	香	後	山	廣	岡	島	和	泰	兵	大	京	臨	道	
計	紀	崎	分	本	崎	賀	岡	知	川	島	口	島	山	根	山	歌	良	康	阪	都	賀	府		
五 三 四	九	一 二	九	九	一 二	一 四	八	四	九	一 三	九	八	一 二	一 四	一 三	一 〇	一 七	〇	八	一 七	二	二	九	
五 一 三	〇	一 〇	八	九	一	一	八	四	八	一	九	八	一	一	一	九	七	九	八	一 七	二	二	九	
一 五 七																								
〇 (九)																								
△ (一三)	△		△			△	△		△		△	△					△	△	△					
八 六	×		×		×											×				×	×	×		
三 四 一	三	八	四		一	八	二	七	一	四	七	五	六	七	九	三	八	五	五	七	一	四	八	
四 二 七	三	〇	五	二	〇	四	八	五	五	九	六	七	九	二	六	九	六	六	八	七	七	一	八	

道府縣	地方官官制 ニ依ルモノ	同上ノ内ヨリ 支廳長ヲ 差引タルモノ	即後所廢止ノ 事務官トシテ 増員シタル數	三名減(五名 以下) シテ増員アリ タルモノ	一名減(三名以 下) シテ増員アリ タルモノ	減員數(府縣 廳ノ事務官ヲ 充當スルモノ ノ數)	新規事務官 充當數	總數 即數
青森	一〇	一〇	三			二	八	一〇
岩手	一一	一〇	四			二	九	一一
宮城	一一	一一	三			二	六	一一
秋田	一一	一一	三			二	六	一一
山形	一一	一一	三			二	六	一一
福島	一一	一一	三			二	六	一一
茨城	一一	一一	三			二	六	一一
栃木	一一	一一	三			二	六	一一
群馬	一一	一一	三			二	六	一一
埼玉	一一	一一	三			二	六	一一
千葉	一一	一一	三			二	六	一一
東京	一一	一一	三			二	六	一一
神奈川	一一	一一	三			二	六	一一
新潟	一一	一一	三			二	六	一一
富山	一一	一一	三			二	六	一一
石川	一一	一一	三			二	六	一一
福井	一一	一一	三			二	六	一一
山梨	一一	一一	三			二	六	一一
長野	一一	一一	三			二	六	一一
岐阜	一一	一一	三			二	六	一一
愛知	一一	一一	三			二	六	一一
三重	一一	一一	三			二	六	一一
滋賀	一一	一一	三			二	六	一一
京都	一一	一一	三			二	六	一一
大阪	一一	一一	三			二	六	一一
奈良	一一	一一	三			二	六	一一
和歌山	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三			二	六	一一
高知	一一	一一	三			二	六	一一
佐賀	一一	一一	三			二	六	一一
長門	一一	一一	三			二	六	一一
山口	一一	一一	三			二	六	一一
徳島	一一	一一	三			二	六	一一
香川	一一	一一	三			二	六	一一
高松	一一	一一	三			二	六	一一
愛媛	一一	一一	三					

府縣連絡部處務規程準則

第一條 連絡部ニ總務課、兵事厚生課、經濟課ヲ置ク

第二條 各課ニ左ノ係ヲ置ク

總務課

庶務係

稅務係

會計係

兵事厚生課

兵事係

厚生係

經濟課

指導係

統制係

第三條 總務課ノ分掌事項左ノ如シ

庶務係

一 官印及商印ノ管守ニ關スル事項

二 職員ノ身分及服務ニ關スル事項

三 文書ノ往復及記錄編纂ニ關スル事項

四 町村ノ指導及土地墾拓ニ關スル事項

五 町村常會、部落會町內會等ノ整備指導ニ關スル事項

六 國民貯蓄獎勵ニ關スル事項

七 大政翼賛運動其ノ他國民運動ニ關スル事項

八 壯青少年團ノ指導其ノ他社會教育ニ關スル事項

九 庫內債關係ノ主管ニ關セザル事項

稅務係

一 府縣稅ノ賦課徵收及滞纳處分ニ關スル事項

二 稅外諸收入ノ徵收ニ關スル事項

三 町村ニ於ケル府縣稅事務ノ指導監督ニ關スル事項

會計係

一 國府縣費ノ收支ニ關スル事項

二現金、證券、物品等ノ出納保管ニ關スル事項
三庫中取締ニ關スル事項

第四條 兵事厚生課ノ分掌事項左ノ如シ

兵事係

一徵集、徵募ニ關スル事項
二軍事扶助軍人授護ニ關スル事項

厚生係

一各種救護、救助、保護其ノ他社會事業ニ關スル事項
二人口増強ニ關スル事項
三体育及武道ニ關スル事項
四移殖民獎勵ニ關スル事項

第五條 經濟課ノ分掌事項左ノ如シ

勸業係

一食糧其ノ他重要農林水産物ノ増産ニ關スル事項
二農林水産物ノ集荷供出ニ關スル事項

三肥料、農器具其ノ他農林水産業生産資材ノ供給ニ關スル事項
四農漁山村ノ勞力ノ調整ニ關スル事項
五分村計畫其ノ他經濟厚生ニ關スル事項
六農會、産業組合等各種農林團體ノ指導監督ニ關スル事項
七其ノ他農林水産業ノ指導獎勵ニ關スル事項

統制係

一生活必需物資其ノ他消費資材ノ配給統制ニ關スル事項
二中小商工業者ノ轉廢業指導ニ關スル事項
三中小商工業組合其ノ他中小商工業ノ指導ニ關スル事項
第六條 必要アルトキハ連絡部長ハ知事ノ許可ヲ受ケ係ヲ分合シ又ハ其ノ分掌事項ヲ變更スルコトヲ得
第七條 各課ニ課長ヲ置ク課長ハ副又ハ主事、主事補、技師、技手ノ中ニ就キ連絡部長之ヲ命ズ
課長ハ連絡部長ノ命ヲ承ケ係ヲ指揮シ課ニ屬スル事務ヲ處理ス
第八條 係ハ連絡部長之ヲ命ズ上司ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

上司ノ命アルトキハ係ニ拘ラズ其ノ命ヲ承ケ事務ニ従事スベシ

第九條 連絡部長不在ナルトキハ総務課長其ノ事務ヲ代行ス

連絡部長及総務課長共ニ不在ナルトキハ連絡部長ノ指定シタル職員連絡部長ノ事務ヲ代行ス

課長不在ナルトキハ課長ノ指定シタル課員其ノ事務ヲ代行ス

前三項ノ規定ニ依リ代行シタル事項ハ後開ヲ受クベシ

第十條 連絡部長ノ専決處理スベキ事項ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 前各條ニ規定スルモノノ外必要ナル事項ニ關シ連絡部長

ニ於テ應務規則ヲ定メ知事ノ承認ヲ受クベシ

備考

一 視學係ヲ置クトキハ左記ニ依ルコト

(一) 第二條中「庶務係」ノ次ニ「視學係」ヲ加フ

(二) 第三條中「庶務係」ノ次ニ左ノ事項ヲ加フ

視學係

一 學事觀察其ノ他教育事務ノ指導監督ニ關スル事項

二 土木課ヲ置クトキハ左記ニ依ルコト

(一) 第一條中「經濟課」ノ下ニ「土木課」ヲ加フ

(二) 第六條トシテ左ノ一條ヲ加ヘ第六條ヲ第七條トシ以下順次

繰下グ

第六條 土木課ノ分掌事項左ノ如シ

土木係

一 國府縣道ノ修理並ニ管理ニ關スル事項

二 河川ノ管理ニ關スル事項

三 國府縣費ヲ以テ補助スル土木事業ノ指導監督ニ關スル

事項

四 公有水面ノ埋立ニ關スル事項

五 其ノ他土木ニ關スル事項

耕地係

一 國府縣費ヲ以テ補助スル水利事業ノ指導監督ニ關スル
事項

二 耕地整理事業及耕地整理組合ノ指導監督ニ關スル事項
三 開墾事業ニ關スル事項
四 其ノ他耕地事業ニ關スル事項

一、鑒於前次

風

會計係屬一登記	稅務係屬一登記二	庶務係兼屬一主事補一登記二
---------	----------	---------------

臺記五
計九名

二、兵部軍民司
(司長) 關

屬

兵事係兼屬一書記一
厚生係主事補二

周記
一
主
補
二

三、經濟課
(課長) 屬二

風

勸業	勸業
關係	關係
衆屬	衆屬
主事補又八技手四	主事補又八技手四

主計七名

職員數二〇名（屬六、主事補又八、技手八、登記六）

外二連絡部長 事務官

府縣現地實行機關ヲシテ取扱ハレムル事務ノ概目

總務部關係

- 一、町村ノ綜合指導ニ關スル事項
- 二、町村常會、町内會、部落會ノ整備指導ニ關スル事項
- 三、選挙南正ニ關スル事項
- 四、大政翼賛運動具他國民運動ニ關スル事項
- 五、國民貯蓄奨励ニ關スル事項
- 六、國民學校教員俸給具他現地實行機關ニ於テ支拂ハレムルヲ便宜トスル府縣費ノ支拂ニ關スル事項
- 七、府縣ノ財政出張所等ニ於テ取扱ヒツツアル事項
- 八、各種團體施設ノ連絡調整ニ關スル事項

學務部關係

- 一、徵集、徵募ニ關スル事項
- 二、召集、徵發ニ關スル事項
- 三、軍事扶助、軍事救護ニ關スル事項
- 四、各種救護、救助、保護具他社會事業ニ關スル事項ニシテ現地實行機關ヲシテ取扱ハレムル適當トスルモノ
- 五、人口増強ニ關スル事項

二

經濟部關係

- 六、体育及武道ニ關スル事項
 - 七、青少年團ノ指導等社會教育ニ關スル事項ニシテ現地實行機關ヲシテ取扱ハレムルヲ適當トスルモノ
 - 八、移殖民奨励ニ關スル事項ニシテ現地實行機關ヲシテ取扱ハレムルヲ適當トスルモノ
- 經濟部關係
- 一、生活必需品資材ノ消費資材ノ配給ニ關スル事項
 - 二、食糧具他重要農林、水産物資ノ増産ニ關スル事項
 - 三、農林、水産物資ノ集荷配給、軍需品ノ供出等ニ關スル事項
 - 四、肥料、農器具具他農林、水産業生産資材ノ配給ニ關スル事項
 - 五、農漁山村勞力ノ調整ニ關スル事項
 - 六、農林、水産具他各種産業ノ指導奨励ニ關スル事項
 - 七、農漁山村ニ於ケル分村計畫具他經濟更生ニ關スル事項
 - 八、中小商工業者ノ轉業業指導ニ關スル事項
 - 九、産業關係ノ各種駐在員及出張所等ノ取扱ノ事項ニシテ現地實行機關ニ統合スルヲ適當トスルモノ
 - 十、主トシテ町村以下ノ區域ヲ地區トスル各種産業團體ノ指導監督ニ關スル事項

愛知縣連絡部職員配當表

一九

目次

- 一、愛知縣連絡部職員配當人員總括表
- 二、愛知縣連絡部設置に伴ふ職員配當計畫表
- 三、愛知縣知多連絡部組織案 (一)
- 四、愛知縣知多連絡部組織案 (二)

愛知縣連絡部職員配當人員總括表

區分	現在職員中配當人員			新規増員	合計	一連連絡部 平均配當員数
	總務部	學務部	經濟部			
區長	三三	一五	八	二六	八二	大三一
書記	(一五) 一三	二	(一七) 一三	(一七) 一三	(一七) 一三	(一〇・七) 一〇・〇
指導主事補						一〇・〇
社會教育主事補		九		九	九	〇・六九
社會事業主事補		(三八) (三三)		(三八) (三三)	(三八) (三三)	(一・三) (一・三)
農林主事			四	四	四	〇・三
農林技師			一三	一三	一三	一・〇
技師			(一四) (一〇)	(一四) (一〇)	(一四) (一〇)	(一・〇) (一・〇)
農林技手			(二三) (一九)	(二三) (一九)	(二三) (一九)	一〇・〇〇 (九・一五)
商工技手			(一六) (一三)	(一六) (一三)	(一六) (一三)	一〇・三三 (一〇・三三)
農林主事補			(三五) (三三)	(三五) (三三)	(三五) (三三)	二・六九 (二・六九)

備考

括弧内ノ数字ハ出張ノ職員、駐在職員等ニシテ連絡部ニ配當スベキ人員ヲ
内書シタルモノナリ

計	大一 (一〇)	四四 (一一)	二二〇 (一一)	三二五 (一七)	二六 (一)	三二五 (一七)	二七・〇〇 (一三・三)
---	------------	------------	-------------	-------------	-----------	-------------	-----------------

愛知縣連絡部設置に伴う職員配置計畫表

[illegible]

社會事業主事	社會教育主事	技手	社會事業主事補	農林主事	農林技師	農林技師及防疫醫	農林主事補	地方小作官及小作官補	商工主事及商工主事補	商工技師	商工技師	科	
二五四	六一	一九三	一七七	五八	一	三	五	四四	一三三	三八	一	三	五
五八一	四二	大	二三	三	八一	二六〇	一三〇	五七	一	一	四	二	四
二二〇	一六	二	三	四	八一	二六〇	一三〇	五七	一	一	四	二	四
三六一	二六	大	二三	三	八一	二六〇	一三〇	五七	一	一	四	二	四
一〇一二	四二	大	二三	三	八一	二六〇	一三〇	五七	一	一	四	二	四
三三三	一六	二	三	四	八一	二六〇	一三〇	五七	一	一	四	二	四
六八七	二六	大	二三	三	八一	二六〇	一三〇	五七	一	一	四	二	四

愛知縣知事連絡部組織案 (一)

一、總務課
(課長) 屬一

庶務係	主事補 三
稅務係	屬一
會計係	屬一
書記	一
屬三	主事補 三
書記	一
計	七名

二、兵事厚生課
(課長) 屬一

兵事係	主事補 一
厚生係	主事補 一
屬一	主事補 二
計	三名

三、經濟課
(課長) 屬一

勸業係	主事補 二
統制係	屬一
技師	一
技手	二
屬二	技師 一
技手	一
計	一七名

職員數二七名 (屬六 技師一 主事補七 技手一二 書記一)
外二連絡部長 事務官一

愛知縣知多連絡部組織案 (二)

一、總務課

主事 三
主事 一
主事 三
計 七

庶務係

- 主事 一
一、官印及廳印ノ管理ニ關スル事項
- 主事 一
二、廳員ノ身分及服務ニ關スル事項
- 主事 一
三、文書ノ往復及記録編纂ニ關スル事項
- 主事 一
四、町村ノ指導及實地監査ニ關スル事項
- 主事 一
五、廳内地關係ノ主管ニ屬セサル事項
- 主事 一
六、國民貯蓄獎勵ニ關スル事項
- 主事 一
七、金屬類ノ回收ニ關スル事項
- 主事 一
八、選舉刷新ニ關スル事項
- 主事 一
九、大政翼賛運動其他國民運動ノ指導統制ニ關スル事項
- 主事 一
十、各種團體トノ連絡ニ關スル事項
- 主事 一
十一、町村常會ノ指導ニ關スル事項
- 主事 一
十二、町村下部組織ノ指導ニ關スル事項
- 主事 一
十三、青少年團ノ指導其他社會教育ニ關スル事項

稅務係

- 書記 一
一、縣稅及之ニ伴フ諸收入ノ賦課徵收ニ關スル事項
- 書記 一
二、督促米穀布、帶約處分並賦課處分ニ關スル事項
- 書記 一
三、徵收場稅及食稅ニ關スル事項
- 書記 一
四、町村ノ稅務事務ノ指導監督ニ關スル事項
- 主事 一
一、檢稅ニ關スル事項
- 主事 一
二、縣稅賦課資料調査ニ關スル事項
- 主事 一
三、及別割評定賃貸徵稅調査ニ關スル事項
- 主事 一
四、縣稅徵收及付金ニ關スル事項
- 主事 一
五、所管歲入ノ決算ニ關スル事項

會計係

- 主事 一
一、國民學校教員俸給、全年功加俸、其他府縣費ノ支拂ニ關スル事項
- 主事 一
二、國費支拂ノ補助ニ關スル事項
- 主事 一
三、現金、證券、物品等ノ出納保管ニ關スル事項
- 主事 一
四、傳入ノ傳入解雇及其ノ監督並ニ給與ニ關スル事項
- 主事 一
五、廳中取寄ニ關スル事項

一 兵事厚生課

主事 補
計 三二一

兵事係
主事 補

属

主事 補

- 一 徵集ニ関スル事項
- 二 海軍志願兵ノ徵募ニ関スル事項
- 三 海軍兵士ニ関スル事項
- 四 町村ノ兵事事務ノ督励ニ関スル事項
- 五 捕軍ニ関スル事項
- 六 英靈ノ出迎、合同慰靈祭其ノ他慰殯者ニ関スル事項
- 七 兵事ニ関スル表彰ニ関スル事項
- 八 勲章年金等ニ関スル事項
- 九 靖國神社、護國神社、遺家族会等ニ関スル事項
- 一〇 軍事思想普及ニ関スル事項
- 一一 軍事扶助ニ関スル事項
- 一二 軍人救護會ノ指導監督ニ関スル事項
- 一三 戦後奉公會ノ指導監督ニ関スル事項
- 一四 傷病軍人會ノ指導監督ニ関スル事項
- 一五 軍人救護教育事務及職業指導ニ関スル事項
- 一六 遺家族育英及職業指導ニ関スル事項
- 一七 傷病軍人ノ療養ニ関スル事項
- 一八 傷兵院法ノ施行ニ関スル事項

厚生係
主事 補

- 一 少年救護及兒童虐待防止ニ関スル事項
- 二 救護及母子保護ニ関スル事項
- 三 罹災救護及戦時災害保護ニ関スル事項
- 四 社会事業及方面委員ニ関スル事項
- 五 行旅病人及死七人ニ関スル事項
- 六 醫藥保護ニ関スル事項
- 七 衛生會ニ関スル事項
- 八 産婦母子児童及乳幼児保護ニ関スル事項
- 九 地方体育改進ノ指導獎勵ニ関スル事項
- 一〇 町村体育委員ニ関スル事項
- 一一 体育運動資料ノ配給及其ノ監督ニ関スル事項
- 一二 郡單位体育武進行事ノ開催ニ関スル事項
- 一三 滿洲開拓青少年義勇隊ニ関スル事項
- 一四 滿洲開拓青少年義勇隊ニ関スル事項

二 經濟課

技師 二
主査 二
技手 二
計 一

一 農産物ノ増産供出計畫ノ調整ニ關スル事項
二 各種農産生産資材ノ配給調整ニ關スル事項
三 町村農地委員会ニ關スル事項
四 町村農林委員会ニ關スル事項
五 農林中心人物養成ニ關スル事項
六 石油其他農産用資材ノ配給ニ關スル事項

技師 (水産関係)
一 水産物増産ニ關スル事項
二 漁業組合及漁業共同組合ノ指導監督ニ關スル事項
三 漁業技術ニ關スル事項
四 漁業取締ニ關スル事項
五 一級水産官ノ指導監督ニ關スル事項

技手 (河)
一 船舶保險其他漁船ニ關スル事項
二 出航規制組合其他町村單在水産團體ノ指導監督ニ關スル事項
三 水産物資ノ供出ニ關スル事項

技手 (農林関係)
一 主要食糧増産指導ニ關スル事項
二 病虫害防除指導ノ指導監督ニ關スル事項
三 肥料資材ノ指導監督ニ關スル事項
四 農事実行組合ニ關スル事項
五 林業ニ關スル事項

勸業課
技師 一
技手 二
主査 二

技手 (同)
一 農産努力調整ニ關スル事項
二 農業生産統制ニ關スル事項
三 農村共同經營ノ指導監督ニ關スル事項
四 農産物資配給調整ニ關スル事項
五 肥料資材ノ指導監督ニ關スル事項
六 農産努力調整ニ關スル事項

技手 (畜産関係)
一 畜産努力調整ニ關スル事項
二 家畜防疫ニ關スル事項
三 家畜衛生防疫ニ關スル事項
四 各種畜産團體ノ指導監督ニ關スル事項
五 飼料其他畜産用資材ノ配給ニ關スル事項
六 畜産物資ノ供出ニ關スル事項

技手 (同)
一 單用保護馬ノ檢定検査ニ關スル事項
二 馬ノ移動調査ニ關スル事項
三 畜産努力調整ニ關スル事項

統制係
属
一

属

- 一 主要食糧品ノ配給指導並ニ消費規正ニ関スル事項
- 二 生鮮並加工食糧品ノ配給ニ関スル事項
- 三 一般消費品用燃料(木炭豆炭等)ノ配給ニ関スル事項
- 四 一般生活必需品ノ供給状況調査ニ関スル事項
- 五 商業組合及工業組合ノ指導監督ニ関スル事項
- 六 商工會ノ指導監督ニ関スル事項
- 七 資源回收及代用品奨励ニ関スル事項

技手
外ニ補助技手
(並ニ業務)

- 一 桑園ノ改良ニ関スル事項
- 二 養蚕ノ改良奨励ニ関スル事項
- 三 産繭處理ノ改善奨励ニ関スル事項
- 四 養蚕實行組合ノ指導監督ニ関スル事項

主事補

- 一 産業組合ノ指導監督ニ関スル事項
- 二 農林倉庫指導奨励及監督ニ関スル事項

主事補

- 一 農林負債整理ニ関スル事項
- 二 経済更生ニ関スル事項
- 三 分村計畫ニ関スル事項
- 四 司業奨励ニ関スル事項

技手

- 一 商工業者ノ指導監督ニ関スル事項
- 二 戦後商工業者ノ生業援護ニ関スル事項
- 三 繊維製品業其ノ他中小工業ノ指導監督ニ関スル事項
- 四 一般消費品用綿製品ノ配給ニ関スル事項
- 五 地下足袋等ノ配給ニ関スル事項

千葉縣連絡部職員配當表

目次

一、千葉縣連絡部職員配當人員總括表

二、千葉縣連絡部設置に伴う職員配置計畫表

三、千葉縣長生連絡部組織案 (一)

四、千葉縣長生連絡部組織案 (二)

千葉縣連絡部職員配當人員總括表

區分	現在職員中配當人員			新規増員	合計	一應終部費 平均配當員數
	總務部	學務部	經濟部			
局	(二五)	一二	九	(二六)	(二八)	六・一八
社會教育主事補		九		九	九	〇・八二
社會事業主事補		四		四	四	〇・三六
農林主事補			二	二	二	二・〇〇
貯蓄獎勵主事補	七			七	七	〇・六三
農林技手			五	五	五	五・〇〇
商工主事補			五	五	五	〇・四六
寄託	(四八)	三		(五一)	(五一)	四・六三
所務主事	(五五)			(五五)	(五五)	〇・四六
計	(八五)	二八	九一	(二〇四)	(二六三)	二〇・五四

備考 括弧内ノ數ハ出張所ノ職員、駐在職員等ニテ連絡部ニ配當スベキ人員ヲ内書シタルモノナリ

千葉縣國稅部設置三件ノ職員配置計畫表

職名	部名	現任	増設	現任	増設	現任	増設	現任	増設	合計
属	課務主事	七	七	二	五	四	一	二	九	二
地方統計主事及主事補		七	五	二	七	一	二	二	九	二
地方獎勵主事補		九	七	二	七	一	二	二	九	二
記		七	一	二	三	二	三	二	九	二
地方視察官及視察		八	九	三	九	二	四	二	九	二
学校衛生技師及書記		九	三	九	二	二	四	二	九	二
地方技師		九	三	九	二	二	四	二	九	二
社會教育主事補		九	三	九	二	二	四	二	九	二
社會主事及主事補		九	三	九	二	二	四	二	九	二
地方農務官及農務官補		九	三	九	二	二	四	二	九	二

林育運動主事補	一	二								
實業教育主事	一	二								
農林技師	一	二								
農林主事	一	二								
技手	一	二								
農林主事補	一	二								
農林技手	一	二								
地方小作官及小作官補	一	二								
地方商工主事及主事補	一	二								
地方商工技師	一	二								
計	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二
一六九										
八五										
八四										
八七										
二八										
五九										
二六	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二
九一										
一七〇	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二
五二七	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二
二〇四										
三一三	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二

千葉縣長生連絡部組織案 (一)

總務課
(課長) 屬一
庶務係 屬一 主事補 二
稅務係 屬一 書記 二
會計係 屬一 書記 一
屬三 主事補 二
書記 三
計 八名

三、兵事厚生課
(課長) 屬一
兵事係 主事補 一 書記 一
厚生係 主事補 一
屬一 主事補 一
書記 一 主事補 一
計 三名

三、經濟課
(課長) 屬一
勸業係 主事補 一 主事補 二 技手 五
統制係 屬一
屬二 主事補 二
技手 五
計 九名

職員數 二〇名 (屬六 主事補 五 技手 五 書記 四)
外二連絡部長事務官 一
備考 町村數 二六 人口 九二、〇九一

千葉縣長生運絡部組織案(二)

一、總務課
 主事補 三
 書記 八
 計 三

- 庶務係
 主事補 三
 書記 二
- 一、官印及庶務ノ掌持ニ關スル事項
 - 二、庶務ノ身分及職務ニ關スル事項
 - 三、文書ノ往復及記録簿籍等ニ關スル事項
 - 四、町村ノ指導及調査ニ關スル事項
 - 五、縣内他課等ノ主管ニ關スル事項
 - 六、大政實業運動及他國民運動ノ指導統制ニ關スル事項
 - 七、各種團體ノ指導ニ關スル事項
- 主事補
 一、國民貯蓄奨励ニ關スル事項
 二、金屬類ノ回收ニ關スル事項
- 主事補
 一、選舉刷新ニ關スル事項
 二、町村常會ノ指導ニ關スル事項

- 稅務係
 主事補 三
 書記 二
- 一、町村下部組織ノ指導ニ關スル事項
 - 二、青少年團、少年俱樂部、他社會教育ニ關スル事項
 - 三、縣稅及之に伴フ諸收入ノ賦課徵收ニ關スル事項
 - 四、督役收發布、布納金及他損失分ニ關スル事項
 - 五、徵收漏稅及反稅ニ關スル事項
 - 六、町村ノ稅務事務ノ指導監督ニ關スル事項
- 書記
 一、檢稅ニ關スル事項
 二、縣稅賦課資料調査ニ關スル事項
 三、反別割計算定貨貸價格調査ニ關スル事項
- 書記
 一、縣稅徵收支付金ニ關スル事項
 二、所管歲入ノ決算ニ關スル事項
 三、使用料干渉并其他稅外諸收入ノ徵收ニ關スル事項
- 屬
 一、國民學校教員俸給、同年功加俸、其、他府縣費ノ支拂ニ關スル事項
 二、國費支拂ノ補助ニ關スル事項
 三、現金、證券、物、品等ノ出納保管ニ關スル事項
 四、備入、備入解雇及兵ノ監督並ニ給與ニ關スル事項
 五、縣中取締ニ關スル事項
- 會計係
 主事補 二
 書記 一
- 一、轉貸資金ノ回收ニ關スル事項
 - 二、縣有財產管理及處分ニ關スル事項

二 兵事厚生課

主事補
書記
計

兵事係
書記
主事補
計

書記
主事補
計

- 一 徵集ニ関スル事項
- 二 海軍志願兵ノ徵集ニ関スル事項
- 三 簡閱兵ノ簡閱ニ関スル事項
- 四 所村ノ兵事事務ノ督勵ニ関スル事項
- 五 簡閱兵ノ簡閱ニ関スル事項
- 六 兵隊ノ出迎ニ合同慰問兼其地戰死者ニ関スル事項
- 七 兵隊ノ簡閱ニ表彰ニ関スル事項
- 八 勲章ノ授與ニ関スル事項
- 九 諸國神社該國神社道家族族列等ニ関スル事項
- 一〇 軍事思想普及ニ関スル事項
- 一一 軍事扶助ニ関スル事項
- 一二 軍人後援會ノ指導監督ニ関スル事項
- 一三 統後奉公會ノ指導監督ニ関スル事項
- 一四 傷病軍人會ノ指導監督ニ関スル事項
- 一五 軍人後援教育事務職業指導ニ関スル事項
- 一六 遺族教育及職業指導ニ関スル事項
- 一七 傷病軍人ノ療養ニ関スル事項
- 一八 傷兵院法ノ施行ニ関スル事項

厚生係
主事補
書記
計

- 一 少年救護及兒童虐待防止ニ関スル事項
- 二 救護及母子保護ニ関スル事項
- 三 罹災救護及戰時災害保護ニ関スル事項
- 四 社會事業及方面委員ニ関スル事項
- 五 行旅病人及死し人ニ関スル事項
- 六 醫藥保護ニ関スル事項
- 七 國民徵用者ノ扶助及救護ニ関スル事項
- 八 衛生會ニ関スル事項
- 九 壯丁豫備檢診ニ関スル事項
- 一〇 妊産婦母子児童及乳幼児保護ニ関スル事項
- 一一 農村養老指導等其ノ他國民運動ニ関スル事項
- 一二 地方体育施設ノ指導監督ニ関スル事項
- 一三 町村体育委員ニ関スル事項
- 一四 体育運動施設ノ施設及具ノ監督ニ関スル事項
- 一五 郡單位體育或は進行事ノ指導ニ関スル事項
- 一六 滿洲開拓農林移民ニ関スル事項
- 一七 滿洲開拓青少年義勇隊ニ関スル事項

三 經 濟 課

主 事 附
技 手
九 又 二 二

屬 (課長兼)

- 一 農産物ノ増産供出計畫ノ調整ニ關スル事項
- 二 各種農産生産資材ノ配給調整ニ關スル事項
- 三 農村中心人物養成ニ關スル事項
- 四 石油其ノ他農産用資材ノ配給ニ關スル事項
- 五 水産物増産及供出ニ關スル事項
- 六 漁業組合及漁業共同組合ノ指導監督ニ關スル事項
- 七 漁業取締ニ關スル事項

技 手 (普通農)

- 一 主要食糧増産指導監督ニ關スル事項
- 二 病虫害防除指導ノ指導監督ニ關スル事項
- 三 農産物ノ出荷統制ニ關スル事項

技 手 (同)

- 一 農業勞力調整ニ關スル事項
- 二 農業生産統制ニ關スル事項
- 三 農業經營調整ニ關スル事項
- 四 農村共同經營ノ指導監督ニ關スル事項
- 五 農業金融ニ關スル事項

勸 業 係

主 事 附
技 手
八

技 手 (同)

- 一 國產農産物改良獎勵ニ關スル事項
- 二 肥料増産獎勵並ニ配給統制ニ關スル事項
- 三 農具ノ利用及配給ニ關スル事項
- 四 農業用外金鐵線其ノ他農業用資材ノ配給ニ關スル事項
- 五 各種畜産團體ノ指導監督ニ關スル事項
- 六 飼料其ノ他ノ物資ノ配給ニ關スル事項
- 七 畜産物ノ供出ニ關スル事項
- 八 軍用保護馬ノ檢定検査ニ關スル事項
- 九 馬ノ移動調査ニ關スル事項

技 手 (同)

- 一 桑園ノ改良ニ關スル事項
- 二 養蚕ノ改良獎勵ニ關スル事項
- 三 産繭處理ノ改善獎勵ニ關スル事項
- 四 養蚕實行組合ノ指導監督ニ關スル事項

技 手 (同)

- 一 木炭其ノ他林産物ノ増産ニ關スル事項
- 二 林産物ノ供出其ノ他出荷統制ニ關スル事項
- 三 公有及私有造林獎勵ニ關スル事項
- 四 荒廢林復舊ニ關スル事項
- 五 林業共同施設ニ關スル事項

主 事 附

- 一 産業組合ノ指導監督ニ關スル事項
- 二 農業倉庫ノ指導獎勵及監督ニ關スル事項
- 三 町村農會ノ指導監督ニ關スル事項
- 四 農事實行組合ニ關スル事項

主事官

- 一 農地委員會及農林計畫委員會ニ關スル事項
- 二 農林局員調整ニ關スル事項
- 三 經濟更生ニ關スル事項
- 四 分村計畫ニ關スル事項
- 五 副業奨励ニ關スル事項

統制係一局

- 一 主要食糧品ノ配給指導並消費額正ニ關スル事項
- 二 生鮮並加工食糧品ノ配給ニ關スル事項
- 三 一般消費財燃料(木炭豆炭等)ノ配給ニ關スル事項
- 四 一般生活必需品ノ配給状況調査ニ關スル事項
- 五 商工組合及工業組合ノ指導監督ニ關スル事項
- 六 商工會ノ指導監督ニ關スル事項
- 七 貨源回收及代用品奨励ニ關スル事項
- 八 商工業者ノ轉業指導ニ關スル事項
- 九 戦後商工業者ノ生業援護ニ關スル事項
- 一〇 一般消費財綿製品ノ配給指導ニ關スル事項
- 一一 公物地下足袋等ノ配給指導ニ關スル事項

山梨縣連絡部職員配當表

目次

一、山梨縣連絡部職員配當人員總括表

二、山梨縣連絡部設置に伴ふ職員配置計畫表

三、山梨縣東八代連絡部組織案 (一)

四、山梨縣東八代連絡部組織案 (二)

山根縣連絡部職員配置人員總括表

區分	現在職員中配置人員			新増職員	合計	一連密初年度平均配置員數
	總務部	學務部	經濟部			
屬	一七	一一	四	一六	四八	六・〇〇
社會教育主事補		二			二	〇・五〇
社會事業主事補			一		一	〇・二五
農林主事補			三		三	一・六三
經濟獎勵主事補	五				五	〇・六二
拓務主事補			三		三	〇・三六
農林技師			二		二	〇・二五
農林技手	一七		四 (三七)		一七	二・八六 (二・八六)
書記	三九	一六	一 (三九)	一六	一四 (三一)	一・六六 (一・五五)
計						

備考 括弧内ノ數ハ出張所ノ職員、駐在所職員等ニシテ連絡部ニ配置スベキ人員ヲ内書シタルモノナリ

山梨縣連絡部設置に伴う職員配置計畫表

職名	部名	現	移	残	現	移	残	現	移	残	合	計
視學	學務部	四九	一七	三二	三七	一	二六	二四	四	二〇	一一〇	五
農業技術師及技手	農業部	三		三	二		二			五		
農林技手	農林部							九四	四七	四七		
商工技手	商工部							一一	四七			
貯蓄奨励主事補	貯蓄部											
統計主事及主事補	統計部	九	五		二							
体育運動主事及主事補	体育部											
社會教育主事及主事補	社會部											
社會事業主事及主事補	社會部											

農林主事	三六											
商工主事	一七											
拓務主事補	一九											
農林主事補												
商工主事補												
學技術主事補												
農林技師	二											
商工技師												
書記												
計	一〇二	三六										
	三九	一七										
	六三	一九										
	七一	五		二								
	一七											
	五四	五		二								
	二一八	三	一	二七	四	三九	五	二	八			
	六九			二		一三	三					
	一四九	三	一	二五	四	二六	二	二	八			
	三九一	四四	一	二七	二	四	三九	五	二	八		
	一二五	一七		二		一三	三					
	二六六	二七	一	二五	二	四	二六	二	二	八		

山梨縣東八代連絡部組織案 (一)

一、總務課

庶務係	兼屬一	主事補二
稅務係	屬一	書記一
會計係	屬一	屬三 書記一 主事補二 六名

二、兵事厚生課

兵事係	兼屬一	書記一
厚生係	主事補一	屬一 書記一 主事補一 三名

三、經濟課

勸業係	兼屬一	主事補二 技手五
統制係	屬一	屬二 技手五 主事補二 九名

職員數 一八名 (屬六 主事補五 技手五 書記二)
外二連絡部長 事務官一
備考 町村數 一九 人口 五七、二五四

山梨縣東八代連絡部組織案 (二)

一、總務課
主事 書記
大 一 二 三

庶務係
主事 書記
三 二 一

- （課長）
- 一、官印及帳簿ノ管理ニ関スル事項
 - 二、職員ノ身分及服務ニ関スル事項
 - 三、文書ノ往復及記録簿籍ニ関スル事項
 - 四、町村ノ指導及實地監査ニ関スル事項
 - 五、縣内他課係ノ主管ニ属セザル事項
 - 六、大政翼賛運動其ノ他國民運動ノ指導統制ニ関スル事項
 - 七、各機關団体ノ連絡ニ関スル事項
 - 八、町村長常會其ノ他聯合會ニ関スル事項
- 主事
- 一、國及地方獎勵ニ関スル事項
 - 二、金庫預金其ノ他貯蓄資金ノ回収ニ関スル事項
- 主事補
- 一、選舉刷新ニ関スル事項
 - 二、町村常會ノ指導ニ関スル事項
 - 三、町村下部組織ノ指導ニ関スル事項
 - 四、青少年團ノ指導其ノ他社會教育ニ関スル事項

稅務係
主事 書記
二 一 一

會計係
主事 書記
一 一 一

- 主事
- 一、縣稅及之件ノ精收入ノ賦課徴收ニ関スル事項
 - 二、暫定賦課率、郡納金分配徴收處分ニ関スル事項
 - 三、徵收漏脱及反税ニ関スル事項
 - 四、町村ノ稅務事務ノ指導監督ニ関スル事項
- 書記
- 一、稅稅ニ関スル事項
 - 二、縣稅賦課率算出調査ニ関スル事項
 - 三、反對割算定貨價額調査ニ関スル事項
 - 四、縣稅徵收支付金ニ関スル事項
 - 五、所管收入ノ決算ニ関スル事項
 - 六、使用料手数料其ノ他外諸收入ノ徵收ニ関スル事項
- 屬
- 一、國民學校教員俸給、同年功加俸其ノ他府縣費ノ支拂ニ関スル事項
 - 二、國費支拂ノ補助ニ関スル事項
 - 三、現金證券、物名等ノ由納保管ニ関スル事項
 - 四、借入ノ借入解在及其ノ監督ニ關與ニ関スル事項
 - 五、縣中取締ニ関スル事項
 - 六、轉貸資金ノ回收ニ関スル事項
 - 七、縣有財產管理（林野ヲ除ク）及處分ニ関スル事項

二、兵事厚生課
 主事補
 書記
 三

兵事係
 書記
 補
 二

- 書記
- 一、傷兵二週以上之事項
 - 二、傷兵三週以上之事項
 - 三、傷兵四週以上之事項
 - 四、傷兵五週以上之事項
 - 五、傷兵六週以上之事項
 - 六、傷兵七週以上之事項
 - 七、傷兵八週以上之事項
 - 八、傷兵九週以上之事項
 - 九、傷兵十週以上之事項
 - 十、傷兵十一週以上之事項
 - 十一、傷兵十二週以上之事項
 - 十二、傷兵十三週以上之事項
 - 十三、傷兵十四週以上之事項
 - 十四、傷兵十五週以上之事項
 - 十五、傷兵十六週以上之事項
 - 十六、傷兵十七週以上之事項
 - 十七、傷兵十八週以上之事項
 - 十八、傷兵十九週以上之事項
 - 十九、傷兵二十週以上之事項
 - 二十、傷兵二十一週以上之事項
 - 二十一、傷兵二十二週以上之事項
 - 二十二、傷兵二十三週以上之事項
 - 二十三、傷兵二十四週以上之事項
 - 二十四、傷兵二十五週以上之事項
 - 二十五、傷兵二十六週以上之事項
 - 二十六、傷兵二十七週以上之事項
 - 二十七、傷兵二十八週以上之事項
 - 二十八、傷兵二十九週以上之事項
 - 二十九、傷兵三十週以上之事項
 - 三十、傷兵三十一週以上之事項
 - 三十一、傷兵三十二週以上之事項
 - 三十二、傷兵三十三週以上之事項
 - 三十三、傷兵三十四週以上之事項
 - 三十四、傷兵三十五週以上之事項
 - 三十五、傷兵三十六週以上之事項
 - 三十六、傷兵三十七週以上之事項
 - 三十七、傷兵三十八週以上之事項
 - 三十八、傷兵三十九週以上之事項
 - 三十九、傷兵四十週以上之事項
 - 四十、傷兵四十一週以上之事項
 - 四十一、傷兵四十二週以上之事項
 - 四十二、傷兵四十三週以上之事項
 - 四十三、傷兵四十四週以上之事項
 - 四十四、傷兵四十五週以上之事項
 - 四十五、傷兵四十六週以上之事項
 - 四十六、傷兵四十七週以上之事項
 - 四十七、傷兵四十八週以上之事項
 - 四十八、傷兵四十九週以上之事項
 - 四十九、傷兵五十週以上之事項
 - 五十、傷兵五十一週以上之事項
 - 五十一、傷兵五十二週以上之事項
 - 五十二、傷兵五十三週以上之事項
 - 五十三、傷兵五十四週以上之事項
 - 五十四、傷兵五十五週以上之事項
 - 五十五、傷兵五十六週以上之事項
 - 五十六、傷兵五十七週以上之事項
 - 五十七、傷兵五十八週以上之事項
 - 五十八、傷兵五十九週以上之事項
 - 五十九、傷兵六十週以上之事項
 - 六十、傷兵六十一週以上之事項
 - 六十一、傷兵六十二週以上之事項
 - 六十二、傷兵六十三週以上之事項
 - 六十三、傷兵六十四週以上之事項
 - 六十四、傷兵六十五週以上之事項
 - 六十五、傷兵六十六週以上之事項
 - 六十六、傷兵六十七週以上之事項
 - 六十七、傷兵六十八週以上之事項
 - 六十八、傷兵六十九週以上之事項
 - 六十九、傷兵七十週以上之事項
 - 七十、傷兵七十一週以上之事項
 - 七十一、傷兵七十二週以上之事項
 - 七十二、傷兵七十三週以上之事項
 - 七十三、傷兵七十四週以上之事項
 - 七十四、傷兵七十五週以上之事項
 - 七十五、傷兵七十六週以上之事項
 - 七十六、傷兵七十七週以上之事項
 - 七十七、傷兵七十八週以上之事項
 - 七十八、傷兵七十九週以上之事項
 - 七十九、傷兵八十週以上之事項
 - 八十、傷兵八十一週以上之事項
 - 八十一、傷兵八十二週以上之事項
 - 八十二、傷兵八十三週以上之事項
 - 八十三、傷兵八十四週以上之事項
 - 八十四、傷兵八十五週以上之事項
 - 八十五、傷兵八十六週以上之事項
 - 八十六、傷兵八十七週以上之事項
 - 八十七、傷兵八十八週以上之事項
 - 八十八、傷兵八十九週以上之事項
 - 八十九、傷兵九十週以上之事項
 - 九十、傷兵九十一週以上之事項
 - 九十一、傷兵九十二週以上之事項
 - 九十二、傷兵九十三週以上之事項
 - 九十三、傷兵九十四週以上之事項
 - 九十四、傷兵九十五週以上之事項
 - 九十五、傷兵九十六週以上之事項
 - 九十六、傷兵九十七週以上之事項
 - 九十七、傷兵九十八週以上之事項
 - 九十八、傷兵九十九週以上之事項
 - 九十九、傷兵一百週以上之事項

厚生係
 主事補

- 一、少年救護及兒童虐待防止ニ関スル事項
- 二、救護及母子保護ニ関スル事項
- 三、罹災救護及臨時災害保護ニ関スル事項
- 四、社会事業及方面奉仕ニ関スル事項
- 五、融和事業及協和事業ニ関スル事項
- 六、行旅病人及死体ニ関スル事項
- 七、醫療保護ニ関スル事項
- 八、國民徵用者ノ扶助及救護ニ関スル事項
- 九、衛生會ニ関スル事項
- 十、壯丁療養所ニ関スル事項
- 十一、妊産婦母子健康及乳幼児保護ニ関スル事項
- 十二、農村榮養指導并其他健康運動ニ関スル事項
- 十三、地方体育施設ノ指導獎勵ニ関スル事項
- 十四、町村体育委員ニ関スル事項
- 十五、体育運動資料ノ配給及其ノ監督ニ関スル事項
- 十六、郡單位体育施設行事ノ開催ニ関スル事項
- 十七、滿洲開拓農業移民ニ関スル事項
- 十八、滿洲開拓青少年義勇隊ニ関スル事項

三、經濟課
 主事 屬
 技手
 九五二二課

- (林務課)
 一、農產物ノ附産供給計畫ノ調整ニ関スル事項
 二、各種農業生産資料ノ供給調整ニ関スル事項
 三、町村農舍ノ指導監督ニ関スル事項
 四、産業組合ノ指導ニ関スル事項
 五、水産ニ関スル事項

- (畜産課)
 一、主要食糧増産指導監督ニ関スル事項
 二、病虫害防除防疫ノ指導監督ニ関スル事項
 三、農産物ノ出納統制ニ関スル事項

- (同) 技手
 一、國産農産物改良奨励ニ関スル事項
 二、肥料増産奨励ニ関スル事項
 三、農機具ノ利用及配給ニ関スル事項
 四、農業用外金鉄線ノ他農業用資材ノ配給ニ関スル事項
 五、各種畜産團體ノ指導監督ニ関スル事項
 六、飼料具ノ他、物資ノ配給ニ関スル事項
 七、畜産物ノ供出ニ関スル事項
 八、軍用保護馬ノ檢査檢査ニ関スル事項
 九、馬ノ移動調査ニ関スル事項

勸業係
 主事 屬
 技手
 八五二一係

- (林務課)
 一、桑園ノ改良ニ関スル事項
 二、養蠶ノ改良奨励ニ関スル事項
 三、蚕繭處理ノ改善奨励ニ関スル事項
 四、養蠶組合、養蠶実行組合、其他養蠶團體ノ指導監督ニ関スル事項
 五、蚕繭統制法施行ニ関スル事項

- (同) 技手
 一、木炭炭ノ他林産物ノ増産ニ関スル事項
 二、林産物ノ供出、其他出納統制ニ関スル事項
 三、公有及民有造林奨励ニ関スル事項

- (同) 技手
 一、林業團體ノ指導監督ニ関スル事項
 二、林業共同施設ニ関スル事項
 三、農林復興ニ関スル事項

- (主事) 主事
 一、農業勞力調整ニ関スル事項
 二、農業生産統制ニ関スル事項
 三、分村計畫ニ関スル事項
 四、農村共同經營ノ指導監督ニ関スル事項
 五、自作農削減ニ関スル事項
 六、農業倉庫ノ指導監督ニ関スル事項

主事務

- 一、農地委員會及農地計畫委員會ニ関スル事項
- 二、農地委員會議決事項ノ他農業金融ニ関スル事項
- 三、經濟更生ニ関スル事項
- 四、農業經營調查ニ関スル事項
- 五、副業獎勵ニ関スル事項
- 六、自作農制改正ニ関スル事項

統制係

係

- 一、主要食糧品ノ配給指導等並消費規正ニ関スル事項
- 二、生鮮並加工食糧品ノ配給ニ関スル事項
- 三、一般消費財用燃料（小炭、豆炭等）ノ配給ニ関スル事項
- 四、一般生活必需品ノ供給状況調査ニ関スル事項
- 五、商工組合及工業組合ノ指導監督ニ関スル事項
- 六、商工會ノ指導監督ニ関スル事項
- 七、資源回收及代用資源獎勵ニ関スル事項
- 八、商工業者ノ指導監督ニ関スル事項
- 九、統制商工業者ノ指導監督ニ関スル事項
- 一〇、一般消費財用物資品ノ配給指導等ニ関スル事項
- 一一、公配地下足袋等ノ配給指導等ニ関スル事項

官文九九號

昭和十七年五月十一日

文部大臣官房文書課長

内務省地方局長殿

府縣現地實行機關設置ニ關スル件

最ニ各省連絡會議ニ於テ標記要綱案ニ關シ御照會相成リタル處當省ノ意見左記ノ通ニ有之ニ付可然御配意相煩度

記

一「府縣現地實行機關設置要綱案」第四組織ニ關シ視學及社會教育主事補ヲ現地實行機關ニ配置スルハ可ナルモ勅クトニ各二名以上本廳ニ設置スルヲ要ス

一「府縣現地實行機關ヲレテ取扱ハシムル事務ノ概目案」中ニ左ノ各項ヲ挿入セ

ラレ度

○總務部關係

青年學校施設同兼任教員俸給補助、就學兒童獎勵金、低度實業學校補助其ノ他地方學校補助等ノ支拂及決算ニ關スル事項

○學務部關係

町村ノ教育事務ノ指導監督ニシテ現地實行機關ヲレテ取扱ハシムル適當トスル事項（但學事ノ觀察監督ハ現地實行機關ニ配屬セラレタル視學及社會教育主事補ヲレテ行ハシムルコト）

（理由）

國民學校並ニ青年學校教育義務制ノ強化ニ伴ヒ兒童生徒ノ保護、就學ノ督励等ニ關シ一層適切ニシテ周到ナル指導監督ヲ爲スト共ニ教育事務處理ノ正確迅速ヲ圖ルハ極メテ緊要ト認メラル

局長第一八七號

昭和十七年四月十五日

内閣統計局長 川島孝彦

内務省地方局長 成田一郎 殿

府縣現地實行機關ニ關スル意見

三月十八日内務大臣官印ニ於テ府縣現地實行機關設置ニ關スル御計畫御長
示相成候處右ニ付當局ノ意見左ノ如ク附陳致候條條御長御考慮相煩シ度候
行政事務ノ敏活徹底ヲ圖ル爲メ郡ヲ單位トスル中間機關ヲ府縣廳ノ下ニ設ケ
ラルル御趣旨ハ當局ニ於テ又同意見ニ有之候然レドモ此ノ中間機關ニ國勢調査、
資源調査并ニ他ノ統計事務ヲ取扱ハレタルコトハ却テ統計事務ノ滯滞不徹底ヲ
來レ適當ナラズト思考致候其ノ詳ハ左記ノ如ク統計ノ特殊ノ性質ニ基クモノ
ニシテ現在ノ如ク計畫的行政ノ時代ニアリテ其ノ重要性益々加重レツツアル統計

事務が障害ヲ蒙ルコトハ甚イテ施政ノ各方面ニ其ノ惡影響ヲ及ボスニ至ルベシト
存ゼラレ候條統計事務ハ現行通り府縣廳ニ於テ取扱ハレメ府縣廳ヨリ直接市
町村ノ統計事務ヲ指揮監督スルノ制度トシ中間機關ニハ其ノ事務ヲ取扱ハレメ
ナル採致度此段意見及提出候
臣等農林商工兩省ノ統計事務當局ニ於テ又本件ニ關シテハ小官ト同意見ニ有之
候條中條候

記

一、統計調査事務ハ統計作成ノ爲メノモノニシテ近年政府ノ企畫が緻密トナリ且
綜合的ニ廣汎ノ分野ニ亘ルニ伴ヒ國家統計ハ其ノ内容複雑ヲ加ヘ來レルが就中
肝要ナルコトハ統計表ニ現ハサル其ノ區分が明確ニシテ具ノ内容純粹ナルコトナリ
例ヘバ工業者トシテ表ハサレタル數量ノ中ニ商業者又農業者ニ屬スベキ者が混入スルが如
キコトアラシカ此ノ數ヲ以テ企畫ノ計算ヲ立ツルコトハ頗ル困難ヲ感ズルノミナラス
實行ノ際計畫ニ齟齬ヲ生スナリ然ルニ調査ニ際シテハ此ノ區分ノ判斷ニ迷フが如キ

事例ニ遭遇スルコト頗ル多シ之ヲ一定ノ方向ニ整頓セシムルコトハ甚ダ困難ナルコト
ニシテ調査ノ第一線ニ活動スル調査員ニ對シ調査計畫ノ内容ヲ十分ニ存心マシムルヲ
要ス然ラザレバ同一ノ事物ニ關シ各個ノ調査員ノ判断夫々異リ之ヲ集計シタル統計
ハ單ニ無意味ナル數字ノ羅列ニ止マリ現代統計ノ用ヲナサザルニ至ル而シテ遠般ノ事
情ハ複雑ナル統計が要ムセラルレバセラルル程顯著ニ現ハルモノニシテ現代ノ統計調査
ハ全調査關係者が一体トナリ特ニ第一線ノ職員が調査計畫者ノ意圖ヲ具體的詳細ニ
亘リテ瞭解スルヲ要スル特別ノ性質アリ此ノ點普通ノ許可、認可、指導獎勵ノ
事務ノ如ク中央指令者ノ大体ノ方針ニ沿ヒ地方現地ノ實情ニ應ズル適宜ノ措置ヲ
執ル事務ト其ノ趣ヲ異ニスルモノナリ從テ從來中央官廳―府縣廳―市町村役
場ノ段階ヲ以テ施行シ來リシモノニ新ニ中間機關ヲ挿入スルトキハ中間ノ媒介者ヲ一
ツ増加スル大ケ調査計畫者ノ意圖ノ徹底ヲ缺クコトトナル實際統計調査ノ事務中
最も多キハ調査事務執行中ニ起リ來ル各種ノ具體的問題ノ疑義ニ付テ調査員ニ
對シ調査計畫ニ當面マル決定ヲ指示スルコトニシテ之が爲メニ八成ルマク傳達段階ヲ少

クスルヲ適當トス

二、統計調査ハ中央ヨリ命令シタル方法ニ依リ一級國民が申告ヲナスモノナル故政府が一ノ
事業ヲナスナリ國民ノ協助ヲ監督シ又ハ規制スルニ非ズ即チ所謂助長行政ニ監督行
政ニモアラサル官廳ノ業務ナリ故ニ調査計畫當局ノ意圖、方針ハ下級官廳ヲ通シテ國民
ニ達シ之ニ依リテ國民がナレタル申告ノ結果が逆ニ中央ニ還リ其ノ材料ニ依リテ統計表
ヲ作成スルニ於テ初メテ當初ノ目的ヲ達ス從テ調査用紙其ノ他ノ調査材料ヲ中央ヨリ
事務ノ末端ニ配付シ又ハ國民ノ申告シタル所ヲ集メテ中央ヘ送り返スガ如キ特殊ノ
業務アリ而シテ右ハ迅速ニ運行セラルルヲ要スルガ中間機關ノ手ヲ經ルトキハ時日ヲ費
シテ而モ十分ナル檢閲ヲ爲シ得ザル缺點ヲ生ズ

三、統計調査ハ將來益、廣範圍、多數ノ國民ニ對シテ施行セラルベシ申告者が多ケレバ多キ
程些細ノ誤謬ニ累積シテ統計上大ナル瑕瑾トナルヲ以テ中間機關ニ事務ヲ取扱ハシム
ル爲メノ缺陷ハ之ヲ忽ニスベカラザルナリ

四、要スルニ統計調査が時勢ノ要求スルトコロニ從ヒ急、複雑ヲ加フル傾向ニ在ル最近ニ於テハ

其ノ中央統計調査機關ノ指揮命令が最モ迅速明確ニ調査機關ノ未端迄徹底スルヲ要ス又、取扱者ノ主観、判断、理解、能力等ノ相違ノ爲メ不知不識ノ間ニ調査ノ結果ニ夾雜物が混入シ又ハ必要ナル資料ヲ脱漏スルカ如キ危険ヲ特ニ警戒セザルベカラズ斯クシテ克ク調査ノ結果ノ純一性ト統一性トヲ確保スル爲メハ統計調査機關ノ組織ハ成ルベク簡明直截ナルヲ要シ中間的機關ノ介在ハ成ルベクサキヲ可トス即チ國、府、縣、市町村トイフ現在ノ統計調査ノ系統ノ上ニ更ニ府縣連級部ナル中間機關ヲ介在セシムルコトハ現行制度ニ比シ却テ統計調査事務ノ迅速正確ナル處理ヲ妨クル虞アリ但シ府縣現地實行機關ヲシテ地方統計調査事務ノ直接ノ内容的部分殊ニ指揮命令等ニ干渉セシメズ單ニ統計關係者ノ招集ノ際ニ會場ノ提供其ノ他ノ便宜供與等ニ關係セシムルコトハ別ニ支障ナシ

又、統計調査ハ其ノ本質上施策ノ實行ニ直接干渉セズ中立的地位ニ立テ公平中正ノ立場ヲ有スル機關ニ依リテ取扱ハレテコソ始メテ被調査者側ノ信頼ヲ得、正確ナル結果ヲ得ルノ特殊性ヲ有ス又現時ノ如ク國又ハ府縣ノ行政が各部門ノ綜合的

計畫ヲ要求セラルルニ當リテハ府縣廳ノ各種ノ統計調査が單一ノ中心部課ニ依リテ綜合的ニ規制セラルルコト所要ナリシカノミナラズ現在市町村ニハ各方面ヨリ統計調査ノ要求後現到集シ市町村ハ殆ド其ノ負担ニ堪ヘザラントスル實情ナルガ如ク調査が府縣廳ノ手ヲ經ルニ際シ廳内各課ヲ別ニ通過シ府縣ニ於テ之ヲ集約スル作用不十分ナルニ原因ス故ニ統計上ヨリ見レバ中間機關ニ事務ヲ移スヨリテ府縣廳内ニ於テ統計事務組織ヲ集中強化スルヲ以テ國家將來ノ爲メナリト思料ス仍テ現地實行機關ノ新設ニ伴ヒ府縣廳内ノ部課統合ノ行ハルルカ如キ場合ニ於テ府縣ノ統計課ハ現在通り之ヲ存續セラレムコトヲ希望ス

一七考第三號

昭和十七年四月二十八日

商工大臣官房 考查課長

内務省地方局行政課長殿

府縣現地實行機關設置要綱案ニ關スル件ニ對スル當省意見別紙ノ通
此致申進候也

府縣現地實行機關設置要綱ニ關スル件意見

一、府縣連絡部ニ於テ取扱フべき事務中ニ左ノ事項ヲ加ヘラレタキコト

中小商工業者ノ轉廢業指導ニ關スル事項

一、府縣連絡部ニ於テ取扱フべき事務中生活必需品其ノ他ノ消費資材ノ配給ニ關スル事項ニ付テハ該物資ノ配給狀況・配給機構等ヨリ見て府縣連絡部ヲシテ取扱ハレタルヲ不適當トスルモノアルヲ以テ斯ルモノニ付テハ從來通府縣ニ於テ取扱フコトトセラレタキコト

一七文第一五二號

昭和十七年四月二十四日

農林大臣官房 文書課 長

内務省地方局長 殿

府縣連終部設置ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ當省意見別紙ノ通ニ有之候條御了知ノ上可然御取計相成
度此段申進候也

府縣連絡部設置ニ關スル件

一、府縣連絡部ハ農林行政ニ關シテハ重要農林水産物ノ増産其ノ他各級ノ農林政策ノ現地ニ於ケル指導督励等其ノ現地處理ニ付地方長官ノ補助機關ヲラレムルヲ其ノ運営ノ根本方針トスルコト

二、前項ノ方針ニ基キ府縣連絡部ニ對シテハ原則トシテ許可、認可等ノ行政處分ノ權限ヲ移讓セザルコト

生活必需品資其ノ他農林水産物資ノ集荷配給ニ關スル行政事務ニシテ府縣ノ全額的計畫數量ニ影響ヲ及ボサザル程度ノ極メテ輕微ナル事項ニ關スル地方長官ノ許可、認可等ノ權限ヲ府縣連絡部ニ移讓スルハ當該府縣ノ實情ニ依リ之ヲ認ムルモ此ノ場合ニ於テハ其ノ旨直ニ農林大臣ニ報告スルコト

農林大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ地方長官ノ權限移讓ニ付必要ナル指示ヲ爲スコトアルベキコト

三、米麥ノ集荷検査、收買ニ關スル現地機構ハ必要ニ依リ府縣連絡部ト別途ニ考慮

スルコト

四、府縣連絡部ノ事務處理ニ當リテハ郡區域ノ農業團體トノ連繫ニ特ニ留意スルコト

五、重要農産物ノ供出等ニ關シテ郡ブロックノ弊ヲ招來セザル採特ニ運用ニ留意スルコト

六、農林統計ニ關スル事務ハ府縣連絡部ヲシテ取扱ハシメザルコト

官文第一九號

昭和十七年四月十五日

拓務次官 植場 鐵 三

内務次官 山崎 巖 殿

地方行政連絡會藏ニ明スル件

首題ノ件ニ關シ三月二十四日附内務省發地第三〇號ヲ以テ御申越ノ件當省ノ意見別紙ノ通ニ付此段回答ス

府縣現地實行機關ノ設置運管ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ當省ノ意見左ノ通

記

一、府縣現地實行機關ヲレテ取扱ハレタル事務ノ概目母ニ學務部關係

六、移植民獎勵ニ關スル事項トアルヲ

六、移植民ニ關スル事項ニレテ現地實行機關ヲレテ取扱ハレタル適當トスルモノ

ト訂正セラレタキコト

經濟部關係

六、農漁山村經濟更生ニ關スル事項トアルヲ

六、農漁山村ニ於ケル分村計畫並其ノ他經濟更生ニ關スル事項ト訂正セラレタキ

コト

二、附帶意見

大東亞戰爭下滿洲開拓民事業ハ國防上産業上其ノ他ニ於テ特殊ナル重要意

義ヲ有スルト共ニ大東亞共榮圈建設ノ模範ヲ培養確立スルヲメ凡ユル障害ヲ排

除シテ漸行スルヲ要スルコトハ言ヲ俟タザルトコロニレテ之最ニ滿洲開拓第二期五ヶ年

計畫要綱ノ明確決定ヲ見タル所以ナリ日滿兩國ノ重要國策タル本事業ヲ強力ニ

推進スルト共ニ亦近キ將來ニ於ケル東亞共榮圈内南方移民ノ實施ニ備ヘンガタメ

地方拓務行政機構ノ整備擴充ハ急務ニ解決スベキ喫緊事項ナリ

拓務省ニ於テハ昭和十五年度ニ於テ先ヅ樞要地方ニ縣ヲ選ビ之ガ專管課タル

拓務課ヲ設置セル處其ノ成績頗ル良好ニシテ當該縣ニ於ケル本事業ノ伸展著シキ

モノアルニ鑑ミ更ニ昭和十七年度ニ於テモ又府縣ニ増設スル豫定ノ外逐年之ヲ増加

シ早急ニ全國ニ及ボサント企圖シツツアリ

然ル處近ク地方現地實行機關ノ設置サルニ伴ヒ移植民ニ關スル事務ノ一部ヲ該機關

ニ移讓セラレントスルニ當リ地方ニ於ケル本機關機構ノ改善ノ問題漸次生スルヤモ圖ラ

レザルモ斯ル場合ニ於テ拓務課ノ他課ヘノ統合ニヨル廢止等ノコトアランカ右ハ必然的

ニ移植民行政機構ノ退步ヲ招來シ又一級國民ニ對シテ之移植民行政ニ付テハ政府ノ退步的

意圖トシテ直ニ反影シ大東亞戰爭下日本民族海外發展ノ膨脹タル劃期的氣運
ヲ排除スルノ虞レ大ナルモアリ國家百年ノ大計上斷ジテ然ルベカラサル儀ト存ゼラル
ルヲ以テ右ノ如キハ絕對ニ避クベキ計ナリト信ズ依而地方中間機關設置ノ際ニ於テ
地方本廳機關ノ改正等アル場合ニ於テハ特段ナル措置方ヲ要望ス

府縣現地實行機關ヲシテ取扱ハシムルヲ適當ト認メ
ラルル事項ノ細目

(厚生省意見)

軍事扶助、軍人援護ニ關スル事項

府縣視地實行機關ヲ設テ取扱ハ
シテ適當ト認メラルル事項

軍事扶助法關係

- (1) 扶助ノ許可ノ決定
- (2) 扶助金ノ支給地ニ據算ノ經理

二、軍人援護事業

- (1) 事業ノ實施地ニ部内ノ監督指導
- (2) 援護金品ノ支給

三、召集解除者生活援護事業

- (1) 事業ノ實施地ニ部内ノ監督指導
- (2) 援護金品ノ支給

四、召集解除者援護指導等事業

- (1) 部内事業ノ實施地ニ監督指導

五、軍人援護團體ニ關スル事項

- (1) (恩賜) 軍人援護會本部ノ中間ノ組織ヲ設クルヲ要ス

- (2) 統後奉公會ノ監督指導地ニ事業ノ助成事業

六、遺族職業指導事業ニ關スル事項

- (1) 委託指導

出願ニ對スル許可否地ニ委託方法(指導方法ノ詳細、期間、經費等)ノ決定及之ニ要スル經費ノ支拂

- (2) 學資給與

出願ニ對スル許可ノ決定及之ニ要スル經費ノ支拂

七、遺兒育英事業ニ關スル事項

學資補助額ノ許可否地ニ補助方法ノ決定及之ニ要スル經費ノ支拂

(備考) 府縣ニ存置セシムル適當ト認メラルル事項

- (1) 監督指導

- (2) 扶助費撥算ノ經理

- (1) 企業助成地ニ監督指導

- (2) 撥算ノ配付

- (1) 企業地ニ監督指導

- (2) 撥算ノ配付

- (1) 企業實施地ニ監督指導

- (1) (恩賜) 軍人援護會本部ノ監督指導地ニ事業ノ助成

- (2) 統後奉公會其他軍人援護事業ノ監督指導地ニ事業ノ助成

- (3) 法人ニ關スル事項

- (1) 方針決定地ニ指導監督

- (2) 職後指導ニ對スル 部下賜品地ニ祭料傳達ニ關スル事項

- (3) 遺族家族指導指導地ノ任見及給與ニ關スル事項

- (4) 軍人遺族家族指導事業ノ統制ニ關スル事項

方針決定及指導監督

八、傷疾軍人子女育英ニ關スル事項

學費補助額ノ許否並ニ補助方法ノ決定及之ニ要スル經費ノ支拂

九、施設教育事業ニ關スル事項

(1) 市町村長其ノ他関係機關ヨリノ具申ニ基キ

教育ヲ行フ可キヤ否ヲ決定スルコト

(2) 教育方法ノ決定及教育費ノ支拂

一〇、町村軍事施設相扶所ニ對スル助成金ノ決定並ニ

其ノ支拂(中間機關ニハ中央相扶所ノ文所ヲ

置ク)

一一、傷疾軍人ニ對スル鐵道運賃割引證ノ交付

一二、傷疾軍人ノ指導事務

(1) 大日本傷疾軍人會分會及班ノ指導

(2) 傷疾軍人ノ結營肄施

方針決定及指導監督

教育方針ノ決定並ニ指導監督

指導監督

(1) 大日本傷疾軍人會支部ノ指導及精神指導

講師ノ選考

(2) 幹旋機關ノ連絡調整

又

一三、軍人後援教育事務

實施及指導

一四、國民ノ教化指導事務

下部組織ニ對スル指導

一五、表彰事務

ナレ

一六、雇傭制度ニ關スル事項

雇傭委員會ノ申合及決議事項等ノ實行

一七、職業指導及就職後援ニ關スル事項

(1) 職業相談指導

退院者ニ對スル職業相談指導

(2) 就職後援指導

(3) 傷疾軍人職業輔導ノ實施

(4) 傷疾軍人職業輔導担当者ノ指導

監督指導

綜合的指導

表彰事務

企画並ニ運営

在院者及重度傷疾者並ニ特殊障礙者ノ職業相談指導

(1) 傷疾軍人職業輔導方針ノ樹立及傷疾軍人職業輔導委員會ノ統括指導

(2) 傷疾軍人後援會並ニ府縣支部ノ監督指導實施情勢並ニ願書ノ進達

八、生業助成ニ関スル事項

九、傷兵院法ノ施行ニ関スル事項

五、滋養療養ニ関スル事項

實情調査並ニ願書經由

二、他ノ主管ニ属セザル事項

除役退院患者調査票ノ處理實情調査並ニ保護ノ實施

三、職業再教育

(1) 職業再教育ヲ要スル傷兵軍人ノ指導保護

並ニ職業再教育手續ノ指導

(2) 府縣ニ於ケル傷兵軍人委託職業再教育ノ指導監督

(3) 職業再教育終了者ノ就職斡旋並ニ就職自營後ノ輔導

(1) 介護要具ノ支給

(2) 給與ノ決定

(3) 統括連絡並ニ監督

(4) 再教育願ノ進達

(5) 府縣區署ノ職業再教育ノ實施並ニ職業再教育ノ委託ノ決定

(6) 傷兵軍人國民學校教員ノ養成並ニ卒業者ノ就職斡旋

(7) 傷兵軍人中等學校教員養成所卒業就業者ノ監督輔導

(8) 學費給與ヲ受ケル傷兵軍人在學中ノ監督指導

三、失明傷兵軍人ノ保護ニ関スル事項

(1) 失明傷兵軍人教育願ノ手續ノ指導

(2) 失明傷兵軍人就職、自營後ノ輔導並ニ其ノ他ノ指導保護

三、義肢及作業補助具ニ関スル事項

義肢ヲ必要トスル傷兵軍人ノ作業義肢(補助具ヲ含ム)ノ配給手續並ニ義肢修理手續ノ指導

三、委託療養及居宅醫療ニ関スル事項

(1) 委託、居宅ノ決定並ニ實施

(2) 實施指導並ニ状況ノ監督

三、療養所入所申請並ニ連絡ニ関スル事項

(1) 療養所ニ對スル入所申請進達

(2) 入所者ノ家庭ヘノ指導及進達

(1) 失明傷兵軍人教育願ノ進達

(2) 失明傷兵軍人教育所師範部卒業者ノ就職斡旋並ニ就職後ノ輔導

(3) 作業義肢配給並ニ義肢修理願ノ進達

(4) 府縣ニ於ケル義肢修理事業ノ實施

(5) 總括事務

(6) 連絡部相互間ニ於ケル調整事務

(7) 療養所ニ對スル連絡

(8) 入所者ニ對スル一般の援助

各種救護、救助、保護其他社會事業ニ関スル事項

- 一、少年救護法施行ニ関スル事項中少數救護委員ノ指導連絡並ニ法律八條第三項ニ依ル規案處分ニ関スル事項
- 二、児童虐待防止法施行ニ関スル事項中法律三條ノ處分決定ニ関スル事項
- 三、母子保護法施行ニ関スル事項中扶助事務ノ指導監督ニ関スル事項
- 四、季節保育施設ノ指導獎勵並ニ監督ニ関スル事項

五、方面委員令關係

方面委員ノ指導訓練ニ関スル事項（但し總括的ノ計畫及實施ヲ除ク）

- 一、少年救護法施行ニ関スル事項中法律八條第一項ニ依ル處分、法律十條假退院、復院ノ處分、法律十二條ニ依ル監院、并ニ他地方長官ノ制限ニ属スル事項
- 二、児童虐待防止法施行ニ関スル事項中前號以外ノ地方長官ノ制限ニ属スル事項
- 三、母子保護法施行ニ関スル事項中法律九條ニ依ル施設ノ認可并ニ他地方長官ノ制限ニ属スル事項
- 四、妊娠婦、母子、児童、乳幼児保護施設ノ指導監督ニ関スル事項
- (1) 方面ノ設定ニ関スル事項
- (2) 方面委員ノ定數決定ニ関スル事項
- (3) 方面委員ノ給衛、任命、解任ニ関スル事項

4

六、戰時災害保護法關係

- (1) 救助ノ實施
- (2) 扶助

七、救護法關係

- (1) 道府縣長担ニ属スル救護者ノ救護費、市町村長替文辭並ニ補償ニ関スル事項
- (2) 救護事務ニ関スル市町村長救護施設、方面委員等ノ指導監督
- (3) 救護法第二十六條乃至第二十七條ノ二ノ規定ニ依リ道府縣ニ依ル救護費ノ徵收又ハ償還ニ関スル事項
- (4) 救育所ニ在ル孤兒ノ後見職務ニ関スル法律第二條第三項ノ規定ニ依ル後見人ノ職務ヲ行フべき者ノ指定

- (2) 方面事業ノ連絡、統制並ニ調査ニ関スル事項
- (3) 法律七條乃至第十條ノ職權
- (4) 法律十一條乃至第十四條ニ定ムル給與金ノ支給
- (5) 市町村ニ於テ救護施設ヲ設置セントスル場合ニ於ケル設備及私人ニ於テ救護施設ノ設置ニ関スル認可
- (6) 救護法第七條第三項ニ依ル救護施設ノ認可取消
- (7) 救護法施行令第十一條、第十三條、第十八條、第二十條及第二十一條ニ依ル救護費支出ノ限度決定ニ関スル事項
- (8) 救護費ニ對スル國庫及道府縣補助ニ関スル事項

- (六) 救護所ニ在ル孤兒ノ後見職務執行ニ關スル
特別(明治三十二年勅令第一四四號)
及第二條ノ規定ニ依リ地方長官ガ後
見人ノ職務ヲ行フ場合其ノ職務
市町村ガ方面委員ニ救護事務ヲ行フ場
合其ノ他ノ給與ヲ爲ス場合給與額、給與方
法等ノ認可

救護法關係諸統計報告書ノ作成事務

- 八、醫療保護法關係
- (一) 醫療保護法第八條ノ規定ニ依ル當該管轄
區域内ノ統制連絡ニ關スル事務
- (二) 醫療保護法第二十三條ノ規定ニ依ル道府縣ニ
係ル醫療保護費ノ徵收又ハ償還ニ關スル事
務
- (三) 醫療保護法第二十五條ノ規定ニ依ル事業費
ノ監督事務
- (四) 醫療保護法施行規則第二十五條ノ規定ニ依

- (六) 救護法施行規則第六條ニ依ル救護施設ノ居出
及入ニ關スル事項
- (七) 府縣連絡部經由ノ救護法關係諸統計報
告書集計及報告ニ關スル事務

- (一) 醫療保護法第十七條ノ規定ニ依ル醫療券
ノ割當ニ關スル事項
- (二) 醫療保護法第十八條ノ規定ニ依ル道府縣
内ノ總括的連絡統制事務
- (三) 醫療保護法施行電令八條第一項及第九
條ノ規定ニ依ル醫師等ノ指定事務
- (四) 醫療保護法第六條及第七條第一項ノ規定
ニ依ル限度ノ決定

- (五) 指定醫師等ノ監督
- (六) 醫療保護事務ニ關スル市町村長方面委員
施設醫師等ノ指導

九、臨時濟生會關係
同會ノ醫療券ニ依ル救護者ノ入院、手術
看護人等ノ取扱ニ關スル事項

- (一) 醫療保護費ニ對スル國庫及道府縣補助金
ノ交付ニ關スル事項
- (二) 醫療保護法施行規則第四條及第五條ノ
規定ニ依ル施設又ハ附帶事業ノ經費又ハ償
還承認事務
- (三) 同規則第十五條及第十二條ノ規定ニ依ル居出
ノ受理
- (四) 同規則第十五條及第十七條ノ規定ニ依ル寄
附金募集又ハ寄附金處分ノ許可ニ關スル事
項
- (五) 同規則第十六條ノ規定ニ依ル報告及理
由
- (六) 醫療券ノ審查ニ關スル事項
- (七) 施設ノ經營事務
- (八) 事業計畫ニ關スル事務
- (九) 委託醫療費ノ支拂事務

二、罹災救助基金法関係

- (1) 救助ノ實施
- (2) 罹災救助ニ關スル諸統計及報告作製ニ關スル事項

三、社會事業法関係

社會事業ニ關スル諸統計及報告事項ノ作製ニ關スル事項

三、行旅病人及行旅死亡人取扱法関係

- (1) 行旅病人及行旅死亡人取扱費ノ辨償ニ關スル事項
- (2) 行旅病人、行旅死亡人及同伴者ノ救護並ニ取扱方策又條第三項ニ依ル引取ニ關スル事項
- (3) 行旅死亡人ヲ火葬ニ附スル許可
- (4) 行旅病人、行旅死亡人取扱費限度外支出承認
- (5) 其他行旅病人、行旅死亡人取扱事務ニ關スル諸報告、諸統計ノ作製其他事務

(1) 基金ノ管理又ハ補充ニ關スル事項

(2) 基金ノ運用ニ關スル事項

(3) 基金ノ充當ニ關スル事項

(4) 市町村罹災救助資金中ニ補助ニ關スル事項

(5) 社會事業ノ開始若ハ廢止局ノ受理ニ關スル事項

(6) 社會事業經營者ニ對スル要保護者ノ收容委託ニ關スル事項

(7) 社會事業施設ノ改良命令並ニ之ヲ禁止又ハ制限ニ關スル事項

(8) 寄附金ノ募集並ニ處分ニ關スル事項

(9) 社會事業監督者ニ對シテ事業報告、書類保存ノ提出命令及ハ實地調査ニ關スル事項

(10) 地方社會事業委員會ノ設置並ニ運営ニ關スル事項

事項

(1) 法第十四條第三項ノ費用及費用ノ限度並ニ之ニ關シテ要スル事項ノ決定ニ關スル事項

(2) 「外國人タル行旅病人行旅死亡人及同伴者ノ救護並ニ取扱ニ關スル特別」第一條第三項、第三項ノ連絡ニ關スル事項

一、生活必需品資材、他消費資材ノ配給ニ關スル事項

人口増強ニ

一、結婚奨励ニ關スル事項

二、妊娠婦、母子、児童及乳幼児保護事業中輕易ナル事項

体育及武道ニ關スル事項

一、地方体育、武道ノ指導奨励ニ關スル事項

二、市町村体育委員ニ關スル事項

三、郡單位体育、武進行事ノ開催ニ關スル事項

市町村体育、武道施設ノ普及改善ニ關スル事項

五、体育運動ノ資材配給及其ノ監督ニ關スル事項

一、産業經濟ニ關スル事項

(一) 醫藥品及衛生材料ノ配給事務ハ生活必需品資材、他消費資材ノ配給ニ關スル事項中ニ含メザルコトトシ現在道府縣廳々々取扱フ爲メコト

開スル事項

一、妊娠婦、母子、児童及乳幼児保護事業中重要ナル事項

陸普第三四。五號

府縣現地實行機關設置三件ノ兵事關係事務ノ移管ニ

關スル件回答

昭和十七年五月二十三日

陸軍次官 木村兵太郎

内務次官 山崎 巖殿

五月十一日附内務省發地第五四號ニ依ル首題ノ件別紙ノ通回答ス

(別紙)

府縣現地實行機關設置ニ伴フ兵事關係事務ノ移管ニ關スル件四答

一、徵兵關係ノ業務移管ノ時期ハ昭和十七年十二月一日

徵兵業務ノ主務者ニ對スル教育ニ付テハ特ニ考慮相成度

二、召集及徵發關係ノ業務移管ノ時期ハ現時局ニ於ケル業務ノ特性上左記各
規ノ實施ヲ條件トスベキヲ以テ改メテ協議致度

1、召集業務ノ實施ニ遲滞ナカラシムル如ク聯隊區司令部及町村ヘノ通信連
絡ヲ整備スベキコト之カ爲メ府縣連絡部ヲ警察電話ニ加ヘシメ所要ニ應
ジテ利用ス尚師團及聯隊區司令部ノ現ニ加ヘシアル警察電話ハ依然之ヲ利用セ
ル等ニ付考慮スベキコト

2、兵事關係者ニ所要ノ教育ヲ實施スヘキコト之カ爲メ特ニ之ニ關スル豫算ヲ考慮ス
ヘキコト

3、兵事關係者ノ人員數ハ其ノ業務遂行ニ支障ナカラシムル如ク特ニ之カ專任者

ヲ充實セシムヘキコト尚其ノ人選ハ成ルヘク經驗者ヲ充ツル如ク考慮スヘキ
コト

官房第三三九一號ノ二

昭和十七年五月二十九日

海軍次官

内務次官 殿

府縣現地實行機關設置ニ伴フ兵事關係事務ノ移管ニ關スル件回答

貴省發地第五四號照會ノ旨趣ノ件海軍志願兵徵募ニ關スル事項ハ本年八月二十日
英ノ他ノ事項ハ昭和十八年四月一日ヲ希望致候尚右移管ノ爲府縣中央ニ於ケル
兵事事務部課ノ陣容ヲ弱化スルコトハ此ノ際極力避ケラルル様配慮ヲ得度

(終)

發第 一一九 號

昭和十七年六月二日

内務省 國土局長

府、縣知事宛

土木出張所（又ハ工區等）ヲ府縣連絡部ニ統合ニ關スル件内牒

府縣連絡部設置ニ關シテハ種々御準備中ノコトト存候處土木出張所（又ハ工區等）ヲ該連絡部ニ統合スルコトニ關シテハ伺出ノ向ニ有之候條右ハ左記ニ依リ御取扱相成様致度

記

一、土木出張所（又ハ工區等）ノ區域ハ郡ノ區域ト準シモ一致セズ其ノ事務モ亦現場的性質ヲ有スルヲ以テ府縣連絡部ニ之ヲ統合スルヤ否ハ各地方ノ實情ニ委シルニ付充分ナル検討ヲ遂ゲ萬遺憾ナキ措置ヲ講ズルコト

二、若シ土木出張所（又ハ工區等）ヲ府縣連絡部ニ統合スル場合ハ本年五月十九日地方局長内牒ノ別紙府縣連絡部規程草案則、備考ノ分掌事項ニ付テハ必シ之耕地面積ト合併スルヲ要セザルノミナラズ其ノ各事項ニ付テモ充分ノ考究ヲ遂ゲ土木事務ノ能率低下、又ハ複雑化ヲ避クル様措置スルコト

三、府縣連絡部ハ市ノ區域ニ之ヲ設置セザル趣旨ナルモ土木出張所（又ハ工區等）ヲ連絡部ニ統合シタル場合ニハ市ノ區域ニ於ケル土木關係事務ハ府縣連絡部ニ於テ管掌シ文障ナキコト

貯第五二七號

昭和十七年六月二十二日

國民貯蓄獎勵局總務課長

縣總務部長 殿

國民貯蓄主事及同主事補ノ地方事務所配置ニ關スル件

本日貯第五二六號ヲ以テ地方長官宛還牒有之候標記ノ件ニ關シ左ニ其ノ趣旨ヲ敷衍シ説明致候

國民貯蓄主事同主事補ノ制度ハ大東亞戰爭勃發以降ニ於ケル膨大ナル國民貯蓄目標額カ舊來ノ如キ貧弱ナル陣容ヲ以テシテハ到底達成

シ得ラレサルヘキニ鑑ミ中間機關設置ノ問題トハ別個ニ本年三月末制定セラレタルモノナル處之ヲ本廳ニ止メ置クノ建前ヲ執リタルハ貯蓄目標額ノ劃期的増大ニ伴ヒ國民貯蓄ニ科學性計畫性ヲ賦與スルノ要愈々切ニシテ之カ企畫等ニ關スル諸般ノ事務ノ飛躍的ニ増加スヘキコト別紙「道府縣ニ於ケル國民貯蓄事務調査」及昭和十七年度國民貯蓄増強方策要綱等ニヨルモ明瞭ニシテ且府縣ニ於ケル貯蓄増進ヲ重點的ニ進ムルノ見地ヨリスルモ之ヲ本廳ニ止メ置クヲ可トスル等ヨリ出テタルモノニシテ其ノ後知事又ハ總務部長等ヨリ之カ中間機關ヘノ配置ニ付積極的ナル意見ノ開陳アリタルモ當局トシテハ農村方面ニ對スル貯蓄ノ推進ハ既に相當徹底セルモノアリ今ヤ其ノ都市トノ不均衡ニ付テハ非難ノ聲漸ク喧シカラントスルトキ之カ中間

機關ヘノ配置ハ其ノ開キヲ一層大ナラシムルノ虞多シト認メ從來ノ方針ヲ變更スルコトナク其ノ儘推移シ來リタル處愈々今般地方事務所ノ正式ニ設置セラルルニ當リ俄ニ増員停止ノ命下リ各府縣ニ於テハ之カ人事ノ調整ニ苦慮セラルルノ狀況ヲ知り當局トシテモ當初ノ助成方針ヲ持續スルニ忍ビズ茲ニ本日ノ通牒ト相成タル次第ニ有之候從ツテ主事主事補ノ配置ニ關スル考ヘ方ニ變改ヲ加ヘタルモノニ無之仍テ各府縣ニ於テモ此ノ間ノ事情ヲ諒トセラレ農村ト都市トノ權衡ヲ失セザル點ニ付特ニ留意セラレ一律的ニ之ヲ地方事務所ニ配置セントスルガ如キ措置ヲ避ケ例ヘハ都市多キ府縣ニ於テハ其ノ大部分ヲ依然本廳ニ止メ置キ又其ノ相當部分ヲ地方事務所ニ配置セントスル向ニアリテハ從來以上ニ廳内部局課ノ動員ヲ圖リ以テ企畫ニ

都市ノ推進ニ萬遺憾ナキヲ期セラルル様致度此段及内牒候

追而地方事務所ニ配置スル國民貯蓄主事同主事補ニ對シテモ助成ヲ受ケントスル向ニアリテハ申出ノ際左記事項ヲ添付相成度

一、地方事務所ノ數

二、地方事務所ニ配置セントスル國民貯蓄主事及同主事補ノ數

三、本廳ニ於テ貯蓄ノ事務ニ從事スベキ職員ノ陣容詳細（事務官、

主事、屬、主事補、書記、屬、囑託其ノ他ニ分テ專任兼任ヲ區

分ノ上各人員ヲ記載スルコト）

道府縣ニ於ケル國民貯蓄事務調 國民貯蓄獎勵局

第一 國民貯蓄增強方策ニ關スルコト

一、道府縣ニ於ケル國民貯蓄增強ニ關スル根本方策ノ樹立及其ノ遂行ニ關スルコト

二、道府縣ニ於ケル國民貯蓄增強ニ關スル各種特殊方策ノ企畫及其ノ遂行ニ關スルコト

三、市町村其ノ他ニ於ケル國民貯蓄增強ニ關スル具體的方策ノ指導監督ニ關スルコト

四、國民貯蓄獎勵地方委員會ニ關スルコト

五、國民貯蓄增強ニ關係アル他ノ事務トノ調整ニ關スルコト

第二 貯蓄増加目標額ニ關スルコト

一、道府縣ニ於ケル貯蓄増加目標額ノ設定ニ關スルコト

二、市町村ニ對スル貯蓄増加目標額ノ配分ニ關スルコト

三、道府縣ニ於ケル國民貯蓄組合ノ貯蓄増加目標額ノ設定及其ノ市町村ニ對スル配分ニ關スルコト

四、道府縣ニ於ケル國債、臨時債券ノ消化目標額ノ設定及其ノ市町村等ニ對スル配分ニ關スルコト

五、道府縣ニ於ケル各種金融機關ノ資金吸收目標額ノ樹立ニ關スルコト

第三 國民貯蓄組合法ノ施行ニ關スルコト

一、國民貯蓄組合ノ整備擴充ニ關スルコト、

二、國民貯蓄組合ニ對スル指導監督ニ關スルコト

三 國民貯蓄組合法ニ基ク認可ニ關スルコト

四 國民貯蓄組合規約ノ審査ニ關スルコト

五 國民貯蓄組合ノ検査ニ關スルコト

六 國民貯蓄組合臺帳ニ關スルコト

七 國民貯蓄組合ニ關スル諸届出及諸報告書等ノ處理ニ關スルコト

第四 國民貯蓄増強ノ推進ニ關スルコト

一 各種適正貯蓄標準ノ設定ニ關スルコト

二 會社工場債山、股販産業、高額所得者方面等ニ對スル個別的實

地推進ニ關スルコト

三 目標額達成上影響アルヘキ事情等ノ調査及之ガ對策樹立ニ關スルコト

四 市町村其ノ他ニ對スル實地指導ニ關スルコト

五 市町村其ノ他ニ於ケル有益ナル施設事例ノ推廣普及ニ關スルコト

ト

六 貯蓄心ヲ阻害スルカ如キ言動等ノ取締ニ關スルコト

七 各種團體及中央團體地方支部トノ連絡ニ關スルコト

八 金融統制組合及地方金融協議會トノ連絡及各種金融機關ノ動員

ニ關スルコト

九 國民貯蓄獎勵實行委員ニ關スルコト

一〇 各種報道機關トノ連絡ニ關スルコト

一一 國民貯蓄指導者等ノ懇談會、協議會、打合會等開催ニ關スルコト

ト

第五 臨時資金調整法第十條ノ二ノ施行ニ關スルコト

一 土地等買収若又ハ收用者ノ報告書受理ニ關スルコト

二 土地等買収又ハ收用ノ情報蒐集及調査ニ關スルコト

三 證券購入ノ勸奨ニ關スルコト

四 證券購入（保有）命令ノ稟請ニ關スルコト

五 證券購入（保有）命令ノ執行ニ關スルコト

六 本法施行狀況及成績ノ調査、取極、報告等ニ關スルコト

第六 國債及戰時債券ノ消化ニ關スルコト

一 賣捌機關トノ連絡協調ニ關スルコト

二 發行期別ノ券面別消化計畫ノ樹立ニ關スルコト

三 市町村其ノ他ニ對スル證券配布ノ斡旋ニ關スルコト

四 隣保消化ニ關スルコト

五 報償金交付ノ斡旋ニ關スルコト

六 賞與金ノ國債支給ニ關スルコト

七 國債、債券ノ利用方善及ニ關スルコト

八 國債、債券ノ街頭賣出ニ關スルコト

第七 國民貯蓄ノ統計、調査、報告等ニ關スルコト

一 國民貯蓄增加実績ノ調査ニ關スルコト

二 中央官廳及市町村等トノ連絡ニ關スルコト

三 中央官廳ニ對スル定期及臨時諸報告ニ關スルコト

四 國民貯蓄ニ關スル各種ノ統計資料ノ蒐集及各種調査研究ニ關ス

ルコト

三市町村其ノ他ニ於ケル貯蓄獎勵運動ノ狀況調査ニ關スルコト

第八 國民貯蓄獎勵ノ一般宣傳ニ關スルコト

一宣傳用各種印刷物ノ刊行ニ關スルコト

二講演會、映畫會其ノ他一般宣傳用各種集會ノ開催ニ關スルコト

三前二號ノ外國民運動展開ニ必要ナル各種宣傳方法ノ立案及實施

ニ關スルコト

四國民貯蓄獎勵強調週間ノ企畫及實施ニ關スルコト

第九 助成金ノ交付ニ關スルコト

一道府縣ニ對スル助成金ノ經理ニ關スルコト

二道府縣ニ對スル助成金ノ使用濟報告書ニ關スルコト

三市町村、國民貯蓄組合其ノ他ニ對スル助成金ノ交付ニ關スルコト

ト

四市町村等ニ對スル助成金ノ經理監督ニ關スルコト

第十 貯蓄功勞者ノ表彰ニ關スルコト

一貯蓄功勞者等ノ表彰ニ關スルコト

二貯蓄ニ關スル美談等ノ調査蒐集ニ關スルコト

第十一 其ノ他

一金集中ニ關スルコト

發文一〇一號

昭和十七年六月十八日

文部大臣官房文書課長

殿

地方事務所設置方ニ關スル件

地方事務所ノ開設ニ關シテハ五月十九日附地發乙第二二二號内務省
地方局長通牒ノ次第モ有之說意御達抄ノコトト存スルモ特ニ左記事
項御含ミノ上御措置相成様致度得貴意候

追而本件ニ關シテハ内務省ト打合濟ニ付爲念申添候

記

一、地方事務所ニ對スル視學、社會教育主事補ノ配屬

地方事務所ニ對シ視學、社會教育主事補等ヲ配屬スル場合ニ於テ
ハ交通、定員其ノ他ノ事情ニ依リ必スシモ全地方事務所ニ配屬ス
ルコトヲ要セス本廳在勤ノ職員ヲシテ其ノ事務ヲ掌ラシムルコト
ヲ得ルコト

二、地方事務所ノ分縣ト教育事務

視學、社會教育主事補等ヲ地方事務所ニ配屬スル場合ニ於テハ實
情ニ應ジ地方事務所長ノ直屬トシ或ハ學務及社會教育等ヲ併セ一
縣ヲ構成スルヲ適當トスルコト

三、學事ノ觀察及監督及人事ニ關スル事務

青年學校、國民學校、國民學校ニ準スル學校及幼稚園等ニ於ケル
學事ノ觀察、監督ニ關スル事務ハ視學又ハ社會教育主事補ヲシテ
之ニ當ラシメ人事ニ關シテハ本廳ニ於テ行ヒ地方事務所ノ視學社
會教育主事補ノ意見ヲ徵スルコトアルヘキモ地方事務所長ヲシテ
之ニ干與セシメサルモノトスルコト但青年學校指導員（教練科指
導員ヲ除ク）國民學校助教、保母免許狀ヲ有セサル保母ノ任免、
懲戒及職員ノ出張、賜暇ニ關スル事務ニ付テハ地方事務所長ニ委
任シ其ノ監督ノ下ニ視學又ハ社會教育主事補ヲシテ行ハシムルコ
トヲ妨ケサルコト

一七文第二一四號

昭和十七年六月十九日

農林大臣官房 文書課 長

内務省地方局長 殿

地方事務所設置ニ伴フ農林關係職員ノ取扱等ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ農林次官ヨリ別紙寫ノ通地方長官宛通牒致置候條此段
及通知候也

昭和十七年六月十九日

農林次官 石 黒 武 重

縣 知 事 殿

地方事務所設置ニ伴フ農林關係職員ノ取扱等ニ關スル件

地方事務所ノ設置ハ近ク實現ノ見込ヲ以テ之ガ準備ノ爲目下關係諸事項ニ付夫々御考慮中ノコトト存候處之ガ設置ニ付テハ時局下農林行政ノ最大要請ノ一ナル食糧増産確保並ニ生活必需品其ノ他農林水産物ノ集荷配給上最も其ノ效果ヲ期待シ居ル所ニ有之六月四日附地發乙第ニ四六號ヲ以テ府縣連綴部農林省所管事項ノ取扱ニ關シ地方局長ヨリ通牒セラレタル次第ニ有之地方ニ於テ又既に夫々御配意ノコトトハ存候ヘ共左記事項御留意ノ上適切ナル方途ヲ講セラレ度依命此致及通牒候也

追而本件ハ内務省トモ打合済ニ付申候

記

一 地方産業職員ノ取扱

國庫助成ニ基ク地方産業職員ニシテ特ニ管内全般的ノ事務ニ専従セラルノ要アルモノニ付テハ地方事務所ニ直接配置又ハ兼務セシメザルコトトシテ管内全般ノ事務遂行ニ遺憾ナキヲ期スルコト

二 農業團體職員ノ取扱

(一) 郡農業團體ノ長ヲ地方事務所ノ長ニ於テ兼務スルコトニ付テハ兼務セラルノ方針ヲトルコトナク兼務スルノ必要アル場合ニ於テハ當該團體ノ實情ニ付慎重考慮ヲ拂ヒ以テ農業團體ノ機能發揮ニ努ムルコト

(二) 農業團體ノ職員ヲシテ地方事務所ノ職員ヲ兼ネセラルハ農業團體職員ヲシテ其ノ力ヲ割カレル結果本務タル團體ノ職務完遂上支障アル場合ナキニ非ザルヲ以テ特ニ團體ノ當省助成職員ニ付テハ之ガ設置ノ趣旨ニ鑑ミ原則トシテハ

之ヲ兼務ヲ爲サシメザルコト但シ本務ニ支障ナキ限りニ於テ當該團體ノ事
業ト密接ナル關聯ヲ有スル事務ニ從事セシムル爲兼務セシムルヲ特ニ適切ト認
メラルル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラザルコト

三 其ノ他

耕地事業ニ付テハ之ヲ地方事務所ニ統合スルコトニ依リ技術ノ分散ヲ來サシメザ
ル様特ニ留意セラレ度キコト



昭和十七年五月二十三日

人事課長
地方局長

地方長官宛

府縣連絡部長ニ補セラルベキ地方事務官ノ特別任用ニ關スル件

豫内課セル府縣連絡部ノ設置ニ關シテハ着々御手腕中ノ事ト存候處本日ノ閣議ニ於テ府縣連絡部設置ニ關スル地方官官制ノ改正勅令案（別紙一參照）及其ノ長ニ補セラルベキ地方事務官ノ特別任用ニ關スル勅令案（別紙二參照）決定セラレ更ニ必要ナル手續ヲ經テ不日公布ノ運ニ至ルベク被存候處今四新ニ増員セラルベキ地方事務官屬及雇員ノ各府縣ニ對スル割當ハ別紙三ノ豫定ニ有之候條七月一日設置ヲ目途トシ至急諸般ノ實施計畫ヲ進メラルル様致度

而レテ府縣連絡部長ニ補スベキ地方事務官ノ人選ニ關シテハ高等試験委員ノ銓衡等

三

ノ關係ニ有之特ニ速ニ進行セラル要可有之ト被存候ニ就テハ府縣連絡部長ニ補スベキ地方事務官トシテ文官任用令第五條、委任文官特別任用令第一條及第七條ノ規定又ハ今回新ニ制定セラルベキ「府縣連絡部長ニ補セラルベキ地方事務官ノ特別任用ニ關スル勅令」（別紙二參照）ニ依リ任用セラルベキ者竝ニ「現ニ地方事務官ノ職ニ在ルモノニシテ新ニ其ノ段ニ補セラルベキ者」ヲ至急御銓衡ノ上六月十日迄ニ到達スルヤウ人事課長宛内申相成度此致及内附候也

尚府縣連絡部ノ設置ハ多年ノ要望ニ係ルモノナリミナラス其ノ成績如何ハ社會ノ齊レク注目スル所ニシテ而之が目的ヲ達成スルヤ否ハ一ニ連絡部長ノ人選宜シキヲ得ルヤ否ヤニ係ルモノト被認候ニ付テハ連絡部長ニハ特ニ當該地方ノ指導的地位ニ立ツニ足ル人格、手腕、力量ヲ充分具フル者ヲ選ハレ度「連絡部長ニ補ス可キ地方事務官ノ特別任用ニ關スル勅令」ヲ特ニ制定セラレントスル趣旨ニ茲ニ存スルモノナルニ付爲念

昭和十七年六月五日

内 務 次 官

府 縣 知 事 宛 (東京府ヲ除ク)

(一) 現地實行機關ノ爲貴廳ニ増員セラルル事務官ハ一
ニ付其ノ長ニ補スベキ事務官トシテ新ニ任用ヲ要スルモノ竝ニ現
ニ事務官ノ職ニ在ルモノニシテ其ノ長ニ補セラルベキモノヲ至急
銓衡ノ上遅クモ六月十五日迄ニ内申登持参セシメラレ度
(二) 銓衡資格ノ範圍ニ付テハ特別ノ任用令ハ設ケラレザルモ特別任用
令第四條ニ該當スル者ノ如キハ事務官トシテ任用ノ上現地機關ノ

長ニ補セラルベキ見込

(三) 現地機關ノ設置ハ社會ノ注目スル所ニシテ之ガ成績如何ハ其ノ長
ノ人選ニ係ルコト多キニ付豫テ指示セル如ク特ニ人選ニ深甚ノ考
慮ヲ拂ハシ度

昭和十七年六月二十日

人事課長

府縣知事宛

郵方事務所長ノ任命ハ上奏御裁可ヲ經タル上直チニ内定ノ通知ヲ發
スベキニ付御含ミアリタシ但シ貴府縣新聞記者ニ對シテハ六月二十九
日以後ニ内示シ七月一日ノ朝刊ニ一齊ニ掲載セシメ同日以前ニハ絶
對ニ掲載セシメザルヤウ取計ハレタシ

地方事務所長トナルベキ者ノ種別

地方事務官ヨリ轉出	一	二
地方警視ヨリ轉出	五	一
待遇職員ヨリ轉出	七	三
屬ヨリ昇格（視學二人ヲ含ム）	〇	二
町村長ヨリ昇格	二	九
市助役、主事ヨリ昇格	二	六
府縣吏員ヨリ昇格	二	四

内譯

元地方事務官	三
元地方警視	一
元屬	四
元村長	三
府縣吏員	一
元待遇職員	二

其ノ他ヨリ任用

一
四

内譯

元地方事務官	四
元地方警視	四
元待遇職員	二
元視學	二
元村長	二

計

四
二
七

内務省訓第七二一號

府 縣

地方事務所設置ノ趣旨トスル所ハ時局ノ推移ニ伴フ地方行政ノ現状ト趨向トニ鑑ミ現行ノ府縣機構ヲ改編シテ府縣廳ノ分身文體タル補助的機關ヲ各現地ニ配置シ以テ地方行政ノ敏捷通實ナル處理ト施政ノ渗透徹底トヲ期セントスルニ在リ地方事務所ノ運営ニ當リテハ其ノ本旨ニ則リ之ヲ十全ノ機能ヲ發揮セシメ苟モ事務ノ煩瑣滯滞ノ幾ヲ生スルガ如キコトナカラムルト共ニ職ヲ地方事務所ニ奉ズル者ハ克ク牧民ノ本義ニ徹シ地方民ノ要望冀求スル所ヲ洞察シ誠意ト親切トヲ盡シテ人ニ接シ事ニ當リ愈々官ニ對スル國民ノ信頼ヲ深メシメ以テ官民融合ニ致大東亞競爭完遂ニ邁進スルノ氣運ヲ昂揚シ國內態勢ノ強化充實ヲ期スルヤウ萬全ノ配意アルヲ要ス

右訓令ス

昭和十七年七月一日

内務大臣 湯澤三千男

内務省發地第六〇號

昭和十七年六月九日

内務次官

府縣知事 殿

地方事務所（府縣現地實行機關）設置ニ關スル件依命通牒

來ル七月一日ヨリ各府縣管内ニ府縣知事ノ補助的行政機關トシテ別紙要綱ニ依リ地方事務所ヲ設置スルコトト相成近ク其ノ位置、名稱及管轄區域ヲ決定告示スルコトト可相成候處右ハ豫メテ指示セル如ク府縣機關ニ一新生面ヲ開ケル組織ニシテ其ノ趣旨トスル所ハ時

三九

局ノ推移ニ伴フ地方行政ノ現状ト其ノ趨向ニ鑑ミ國政ノ滲透徹底ト行政事務ノ適實敏活ナル處理トヲ期スルニ在ルモ其ノ運営ノ適否ハ獨リ行政事務ノ振否ニ關係スル所アルニ止マラズ今後ノ地方行政ノ發展ニ至大ノ影響ヲ及ボスモノアルベキヲ以テ之ガ實施ニ關シテハ周到ナル注意ヲ加ヘ殊ニ地方事務所ノ組織及之ニ取扱ハシムベキ事務ノ範圍及程度、職員ノ配置及人選ニ就テハ本機關設置ノ目的達成ニ遺憾ナキ様充分配意セラルルト共ニ苟モ本機關設置ノ爲ニ重行政ノ弊ヲ來スガ如キコトナキ様留意セラルルハ勿論南方建設ノ爲多數ノ行政人員ヲ必要トスル所柄内地ノ行政組織ハ出來得ル限り簡素トシ之ヲ補フニ能率ノ倍加ヲ以テスルヲ當面ノ要請トスルニ鑑ミ本機關設置ニ當リテモ高等官列任官吏職員等ヲ通シ行政總要員ハ

之ヲ増加セシメズ且地方事務所設置後ノ府縣廳關係部ノ機構ハ成ル
可ク簡素ニセラルル様考慮相成度尙本機關ノ設置及事務ノ移管ニ際
シテハ周到ナル用意ノ下ニ適確ナル實施計畫ヲ策定シ苟モ施措其ノ
當ヲ失シ事務ノ運行ヲ礙滯セシムルガ如キコトナキ様萬全ノ準備ヲ
整ヘ新制度ノ施行ニ萬遺算ナキヲ期セラレ度此段依命及通牒候也

追而昭和十五年十二月二十七日內務省發地第一一四號內務次官依
命通牒（地方廳總務部ノ機構改正ニ關スル件）ハ地方事務所ノ設
置ニ伴ヒ自然消滅相成タル義ト御了知相成度

内務省發第第六〇號

昭和十七年六月九日

内務省地方局長

府縣知事殿

地方事務所（府縣現地實行機關）設置ニ關スル件

標記ノ件ニ關シテハ本日內務次官依命通牒有之候ヘトモ尙左記事項御留意相成度爲念

一、地方事務所ノ設置ハ全國一率ニ七月一日トシ同日付ヲ以テ事務所長ノ任命可相成候ヘトモ事務所ニ於ケル事務ノ開始ハ必ズシモ同

日タルヲ要セズ事務ノ移管開始ニ件ヒ事務ノ發達ナカラシムル如ク萬全ノ準備整ヒタル上之ヲ行ハレ度キコト

ニ、官制ニハ地方事務所長ニ知事ノ權限ヲ委任スベキ規定無キヲ以テ事務所長ヲシテ許可認可等ノ處分ヲ行ハシムルハ專決（所謂代決）ノ方法ニ依ラシメラレ度キコト

三、郡ノ名稱境界變更ノ勅令案ハ當分留保ト相成タルニ付地方事務所ノ管轄區域ト郡ノ區域ノ一致セザル向ニ在リテハ郡ヲ區域トスル各種團體ハナル可ク地方事務所ノ管轄區域ニ依ラシムル様逐次指導ヲ加ヘラレ度キコト

地方事務所設置手續ノ經過概要

一、中央各廳トノ關係

(一) 官制等ノ制定關係

1. 四月一日地方官官制改正案ヲ法制局ニ送付スルト共ニ地方事務所長ニ稱セラルベキ者ノ特別任用ノ範圍ノ解釋ヲ擴張スル採擇諮議シタルヲ(奏任文官特別任用令第三條ノ關係)困難トシコトニ別ニ特別任用命令ヲ發スルコトニ應内定ヲ見タリ

2. 管轄區域ノ決定等ト關係シ郡ノ名稱及區域變更ニ關スル勅令案ヲ法制局ニ提出シ關係各省ヨリ意見ノ提示ヲボメタルモ農林省ヨリ協議セラレタキ旨ノ申出デマリタル外他ノ省ニ意見ナシ

3. 五月十四日 次官會議ニ於テ次官ヨリ要旨ヲ説明ス

4. 五月十九日 大臣ト總理ト懇談セラル

5. 六月四日 午前總理、内務大臣、四長官、内務次官會同ノ上人員ヲ增加スルコト

ナク實施スルコトニ方針決定ス

6. 六月四日午後 内務大臣ミリ地方事務所設置ノ根本方針ニ關シ上開ニ達シタリ

7. 六月五日ノ閣議ニ於テ四月ノ會議ニ於テ決定セル事項ノ諒解ヲボメ新方針ニ

基キ内務大臣談ヲ發表ス

8. 六月四日ノ會議ノ方針ニ基キ諸種ノ關係上特別任用令及郡ノ名稱及區域變更ノ

勅令ノ制定ヲ見合スコトナリ地方官官制ノ改正ノミニ止ムルコトナリ

9. 六月九日ノ閣議ニ於テ地方官官制ノ改正案決定セラレ原案中ニ合マレタル地方事務所ニ對スル權限委任ノ規定ハ削除セラレ名稱モ府縣連絡部トアリシヲ地方事務所トスルコトナリタリ。而レテ豫算ニ計上セラレタル地方事務官三四一名、屬九一二名ノ増員ハ之ヲ行ハサルコトトシ官制第三條ノ所謂府縣實支辨屬ノ定員ノ内三四一名ヲ地方事務官ニ、四五六名ヲ第一條ノ國費支辨屬ノ定員ニ昇格又ハ振替フルコトトシ官制總定員ニハ増減ナカラシムルコトナリタリ

10. 六月二十六日閣議ニ於テ設置ニ關スル中間報國ヲ爲ス

11. 七月一日位置、名稱及管轄區域ノ公布、地方事務所長ノ發令、地方事務所ノ遷
營ニ關スル大臣訓令發セラルル豫定ナリ

(二) 關係各省トノ關係

三月十八日地方行政連絡會議ヲ開催シ地方局長及行政課長ヨリ府縣現地實行
機關ノ設置要綱ヲ説明シ意見ノアル省ハ四月十五日頃迄ニ申出デラレ度キ旨要
望セリ其ノ結果數次ノ折衝ヲ重キタル省アルモ概キ意見ノ一致ヲ見タルヲ以テ
地方廳ニ示度レタリ

其ノ結果次ノ如シ

1. 農林省

許可認可ノ權限ヲ原則トシテ委譲セサルコトトセラレ度キ旨申出タルモ斯ノ如キ
ハ設置ノ趣旨ニ反スルヲ以テ地方廳ハ單ニ之ヲ參考意見トシテ考慮スル様通牒
シ「取扱フベキ事務ノ概目」中ニ掲記セラレアル事項ニ關スル限りハ差引ナキ限リ
積極的ニ移譲セラルコトトセリ

2

尚補助職員ノ關係ニ就テハ概キ兩省ノ意見一致シ別項ノ如キ通牒(六月十
九日一七文第ニ一四号)ヲ發スルコトニ同意レタリ

2. 大藏省

當初國民貯蓄主事及同主事補ノ轉出ヲ強ク拒否シ其ノ旨再度ニ宣リ地方廳
ニ國民貯蓄獎勵局次長ヨリ通牒セリ。其ノ後大藏省ニ諸般ノ事情ヲ考慮
シタル上別項ノ如キ通牒(六月二十二日貯第ニ二六号及貯第ニ二六号)ヲ地方廳ニ
發シ之ヲ訂正レタリ

3. 陸軍省

徵兵事務ハ徵兵年度更改ノ十二月一日ヨリ移管スルコトナリタルモ召集徵發
事務ハ通信機關、担任職員等ノ關係ヨリ移管ニ付積極的ナラズ、明年四月一
日ノ勤員年度更改期以後ニ於テ更ニ協議スルコトトナリタリ

4. 海軍省

八月二十日ヨリ海軍志願兵徵募事務ヲ移管スルコトトシ地方事務所長ヲ地方

機務官ト爲スコトニ意見一致セリ

5. 文 部 省

視察事務ニ就テハ人事内申權ノ運用問題ヲ除キ移管スルコトニ積極的態度ヲ示レタリ。別項ノ如キ通牒（六月十八日發文第一〇二號）ヲ地方廳ニ發シタリ

6. 厚 生 省

特ニ内務省ノ方針ニ積極的ニ協力シ詳細ナル移管事務ノ細目ヲ示レ來タリタリ。唯現行法ニテハ軍事扶助費ヲ地方事務所ニ於テ支出セラルル途ナキ爲之ガ取扱ニ關シ目下折衝中ナリ

7. 統 計 局

國勢調査及資源調査ニ關スル事項ヲ移管セントシタル處統計局ハ統計ノ純粹性、統一性ヲ保持スル見地ヨリ強硬ニ反對シタルヲ以テ内務省トシテ統計事務ノ特殊性ニ鑑ミ今回ハ之ヲ取扱ヘシメザルコトセリ

8. 商工省及拓務省ハ關係事務ノ移管ニ賛意ヲ表セルモ拓務省ハ青森縣警察

3

ノ廢止セラレザランコトヲ希望シタリ

9. 國土局トハ土木出張所ノ統合問題ニ付協議シタル結果別項ノ如キ國土局長通牒ヲ發シタリ

10. 進修省ニ對シテハ電話整備方ニ付特ニ依頼シタリ

11. 神祇院トハ神社事務ノ統合ハ地方長官ノ判斷ニ任スルコトニ協議済ナリ

二、地方廳トノ關係

(一) 二月二十三日總務部長會議ニ於テ行政課長ヨリ「府縣現地實行機關ノ設置ニ關スル件」(別項參照)ニ基キ詳細設置準備手續ヲ説明ス

(二) 三月四日地方長官會議ニ於テ現地實行機關ニ關スル大臣ノ訓示アリ更ニ次官ヨリ設置ノ方針ヲ説明ス

(三) 位置及管轄區域ニ付四月十五日迄ニ協議セラルコトトシ設置箇所及總數ヲ一應決定シタルモ未定ノモノ其ノ後變更セルモノ等アリ六月二十日ニ至リ結局四百二十七ヶ所トナル

- 四 名稱ニ就テハ別項名稱設定方針ニ基キ再三折衝シ六月二十日最後の決定ヲ見タリ
- 五 五月十四日東海地方連絡協議會ヲ最初トシ六月三十一日北陸地方連絡協議會ヲ最後トシテ地方連絡協議會ヲ開催シ設置方針ノ具體的説明ヲ爲シタリ
- 六 五月十九日地務乙第三三三號ヲ以テ担任事務ニ就テハ關係各省ヨリノ申出ヲ示達スルト共ニ七月一日開府ヲ目途トシ兵ノ設置準備方督勵ノ地方局長内通牒ヲ發ス
- 七 六月五日地方事務所長ノ人選方針ヲ人事課長ヨリ通達シ六月十二日迄ニ内申セシムルコトトセリ
- 八 六月九日次官ノ依命通牒及地方局長ノ通牒ヲ發シ職員ニ關スル當初ノ方針變更ノ趣旨ヲ明ニシ正式ニ設置準備ヲ爲サレムコトトセリ
- 九 六月三十一日内定セル位置、名稱及管轄區域ヲ内報ス
- 十 六月三十一日七月一日發セラルベキ内務大臣訓令ヲ内報ス

附

六月十二日 府縣總務部機構ノ改定ニ關シ行政課長ノ内輪ヲ發セリ

三 趣旨ノ徹底方途

- (一) 六月二十四日ノ週報ニ「地方事務所トハ何カ」ノ記事ヲ登載ス
- (二) 六月二十六日「地方事務所ノ開設」ト題シ内務次官ノラジヲ放送ヲ行フ
- (三) 新聞、内務厚生時報、自治研究、地方行政、自治機關並ニ週刊朝日等ノ雜誌ニ關係記事ヲ登載ス

四 新聞ニ十部ヲ購入シテ地方廳ニ配付ス

五 七月一日地方事務所ノ運営ニ關スル内務大臣談話セラルル等

四 今後處置スベキ事項

- (一) 海軍志願兵令（七月中）及兵役法施行令ノ改正（十月中）
- (二) 地方事務所整備状況ノ觀察（七月十五日以後）
- (三) 大政翼賛會受部等トノ調整（可及的速ニ）
- (四) 地方常會
- (五) 地方事務所委員

府縣現地實行機關ノ設置及運営ニ關スル地方行政連絡會議ニ於テ
内務次官説明資料

本日ハ御多用ノ處ヲ御參集下サイマシテ有難ウ存ジマス。本日各位ノ御協議ヲ願ヒ
度イト存ジマスノハ近ク地方ニ設置ヲ致シ度イト思ツテ居リマス府縣ノ現地實行機關
ニ就テデアリマス。御承知ノ如ク今次議會ニ於キマシテ府縣現地實行機關設置ニ關ス
ル經費ガ可決確定セラレマシタデ來ル七月一日ヨリ開廳ノ運ニ致シ度イト存ジ目下地方廳
ヲ奮勵シ着々準備ヲ進メテ居ル次第デ御座イマス。申ス迄モナク府縣知事ハ第一次綜
合地方行政官廳トシテ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ部内ノ行政事務ヲ管理致シテ居ルデ
アリマスルガ今次支那事變勃發シ次デ大東亞戰爭ノ段階ニ入リマスルヤ其ノ管掌致シ
マスル行政事務ハ質的ニ著シク變化致シテ餘リマシタデナク其ノ分量モ亦尨大ヲ極ム
ルコトト相成リマシタデ從來ノ如ク府縣本廳ヨリ直接管下數百ノ町村ヲ統率致シマスノ
ミデハ到底時局下重要ナル國政事務ノ敏活徹底ヲ期スルコトガ困難トナツテ致ツタノデ
リマス。從ツテ中央ニ於テ如何ニ周到適切ナル計畫ヲ樹立セラレマシテモ愈々其レガ實行

ノ段階ニ入リマスルヤ仲々地方第一線ノ町村及其ノ下部組織等ニ至ル迄十分ニ浸透徹底
致シ難イデアリマス。本機關ハ斯ノ如キ地方行政ノ實情ニ鑑ミマシテ各般ノ經濟統制ノ
運営、國民運動ノ展開、各種ノ軍事ニ關スル事務ノ處理等府縣ニ於ケル時局下重要
ナル行政事務ノ敏活徹底ヲ圖ルコトヲ主眼トシテ運営致シ度イト存ズルノデアリマスガ之
ト共ニ郡ノ地域的組織トシテノ機能ヲ十分ニ地方行政ノ運営上ニ活用致シ度イト存ジマシ
テ概ネ之ヲ各郡ノ區域ニ設置スルコトヲ致シテ居ルノデアリマス。

大体以上ノ趣旨ニ基キ本機關ヲ設置致シ度イト存ズルノデアリマスガ本機關ノ設置及運営ハ
府縣及各省ニ關係ガアリマスデ之等ノ矣ニ關シテ十分御意見ヲ拜聴致シ之ガ實施ニ際シテノ參
考ニ致シ度ク考ヘマシタデ今日御參集中ニモ拘ラズ特ニ御參集ヲ煩ハレタ次第デ御座イマス。
何卒御腹藏ナク御意見ノ程ヲ申出デ願ヒ度イト存ジマス。尚本機關ノ設置及運営ニ關ス
ル具體的ノ事項ニ付キマシテ行政課長ヨリ説明セシメタイト存ジマス。

府縣現地實行機關ノ設置ニ就イテ

(昭和五、六、四内務大臣上奏案)

政府ハ最近ノ地方行政ノ現状ト趨向ニ鑑ミマシテ國政ノ遂行徹底ト行政ノ適實敏捷ナ
ル處理トヲ期シマスル爲メ府縣ト町村ノ中間ニ知事ノ現地輔佐機關ト致シマシテ概ネ各
郡ノ區域ニ地方事務所ノ御設置ヲ仰キ度ク豫メテ計畫ヲ進メテ參リマシタカ此ノ後漸
ク實施案ヲ得ルニ至リマシタノデ上聞ニ達シ度イト存ジマス。

(趣旨目的)

府縣ト町村トノ間ニ適當ナ中間機關ヲ必要トスルト云フコトハ大正十五年ノ郡役所
廢止以來機會アル毎ニ關係方面カラ唱導セラレテ參ゾノデ御座イマス其ノ趣旨ト致
シマスル所ハ府縣ガ其ノ下ニ數百ノ町村ヲ擁スル狀態ニ於キマシテハ到底地方行政事務
ノ合理的徹底的且敏捷ナ遂行ヲ期スルコトガ出来ズ又情味アル行政ヲ行フニ缺クル所
ガアルト云フニ在ツタノデ御座イマス。乍然郡役所ノ廢止ハ行政事務ノ簡捷ト財政
ノ節約ヲ圖ル目的ヲ以テ行ハレタモノデアリ且當時ト致シマシテハ充分ナ社會的理由
ノ有リテ居リマシタノデ斯ルモリ再ビ設置スルガ如キハ慎重ニ考慮致ス可キコトアリ

マシテ餘程緊切ナ理由ノ伴ハナイ限りハ之ヲ復舊スベキニ非ラズト考ヘテ參ゾクノデ御座イマス。
然ルニ支那事變ニ入り亞大東亞戰事トナリマスルヤ地方行政事務ハ其ノ量ニ於キマシテ著
シク増嵩ヲ來シマシタノミナラス其ノ質ニ於キマシテモ非常ナル變化ヲ來シマシテ殊ニ軍事
扶助軍人保護事務、食糧ノ増産、生活必需品其其他各種資材ノ消費ノ規正、之ガ集
積配給、人口ノ増強勞力職業ノ調整配分、貯蓄ノ奨励、各種國民組織ノ整備指導等
ニ於テ特ニ然ルヲ見ルノデ御座イマス。而シテ之等地方行政事務ガ眞ニ其ノ成果ヲ舉ゲマ
スルコトハ時局下最モ緊要事ト考ヘル次第デ御座イマス。現在ノ如ク管下數百ノ町村
ヲ直接ニ統率致シテ居リマスル府縣行政ノ仕組ミヲ以テマシテハ斯ル行政ノ成果ヲ充分
ニ舉ゲマスコトハ困難デ御座イマス。大凡郡ノ區域ヲ管轄區域ト致シマスル知事ノ補
佐機關タル地方事務所ヲ設ケマシテ時局下必要ナル行政ノ敏捷ニシテ適實ナル處理ト國
ノ浸透徹底トヲ圖リ度イト存スル次第デ御座イマス。

(配置)

而シテ地方行政運営ノ上ニ於キマシテハドウシテモ地方民ノ生活感情ノ中ニ牢固タル地歩

ヲ占メテ居リマスル郡ノ地域的國民組織トシテノ機能ヲ十分ニ活用致サネバナリマセン
ノデ、本機關ヘ之ヲ概テ各郡ノ區域ニ設置致シマシテ今後ノ地方行政ノ円満ナル發展
ニ備ヘタイト存ジテ居ルノデ御座イマス。併シテナカラ所村數、人口等ノ少イ郡ニ就マシ
テハ二郡乃至四郡ノ區域ヲ併セ管轄セシメル豫定アリマシテ、只今デハ一應四ニセケ所ト
漸次致シテ居リマス。

現在支廳ノ管轄區域ヲ除キマシテ郡ノ數ハ五十四デ御座イマスカラハ七郡ハ他ノ郡ト
併轄セラルルワケデ御座イマス。

(組織)

地方事務所ノ長ニハ地方事務官ヲ以テ充テ、其ノ他ノ職員ハ属、主事補、技手、府縣
吏員等ヲ以テ構成シ、其ノ員數ハ二事務所大凡三十名乃至三十名前後ニ相成ルコトト
考ヘマスガ之等ノ職員ハ現在ノ府縣廳ノ所屬職員ヲ以テ充當致ス計畫デ御座イマス、
尤モ事務官ハ現在ノ數ヲ以テハ不足ヲ見レマセヌノデ三四一名ヲ属ヨリ振り替ヘ充當致
シ度イ考ヘデ御座イマス。

本事務所設置ニ伴ヒマシテ現在ノ府縣廳ニ於キマシテハ課ノ廢合ヲ行ヒマシテ其
ノ組織ヲ出來得ル限リ簡易化セシメ府縣本廳及地方事務所ヲ通ジ行政ノ簡易強
力化ヲ圖リ度イト存ジマス。

(性質及取扱フ事務)

本機關ハ府縣知事ノ補助的行政機關トシテ知事ノ指揮ヲ承ケ知事ノ定ムル所ニ
依リマシテ現地ニ於テ之ヲ輔佐スル機關ト致シ度イ考ヘデ御座イマシテ、現在ノ
府縣支廳或ハ從前ノ郡長ノ如キ獨立ノ綜合行政官廳トシテノ機能ヲ有セシメナイ
考ヘデ御座イマス。

コレハ行政ノ複雜ト小地域割據ノ弊ヲ避ケ專ラ知事ノ責任ニ於テ其ノ行政ノ徹
底ト適當ヲ期セシメントスル趣旨ニ依ルモノデ御座イマス。

而シテ本機關ノ取扱ヒマスル事務ハ先ニ申シテマシタモノヲ主ト致スノデ御座イマス
ガ之ヲ大別致シマスルト産業經濟ニ關スル事項、軍事ニ關スル事項、其ノ他時局事
務ニ關スル事項ニ分レマスルガ其ノ概目ハ關係省トモ打合セマシテ其レニ基キ各府縣

ハヤテ具体的ニ決定セシメ度イト存ジテ居ル次第デ御座イマス。
以上本機關ノ梗概ニ就キ御説明ヲ申ヒゲタ次第デ御座イマスが何ト申レマシ
モ、本機關ノ設置ハ地方行政運営ノ上ニ於キマスル新組織デアリマシテ其ノ運営
ノ如何ハ今後ノ地方行政ノ歸趨ニ至大ノ影響ヲ及ボシマスルデ、之ヲ指導ニ付
キマシテハ充分ノ注意ヲ拂ヒマシテ遺憾ナキヲ期シ度キ所存デ御座イマス。

地發乙第二一九號

昭和十七年五月十八日

各府、縣知事宛

内務省地方局長

府縣連絡部ノ位置及管轄區域ニ關スル件依命通牒

案ニ地方長官會議及總務部長事務打合會ニ際シ御協議致候標記ノ件
別紙ノ通内定相成候條右ニ依リ準備方可然御配意相成度

而本件ニ關スル發表ハ貴官ニ於テ適宜御取計相成標致度申添候

地發乙第二七二號

昭和十七年六月二十二日

内務省地方局長

府、縣知事宛

(沖縄ハ電致ス)

地方事務所ノ名稱、位置及管轄區域ニ關スル件

地方事務所ノ位置及管轄區域ニ關シテハ豫テ内定相成居候處今別紙ノ通
具ノ名稱ヲ定メ位置及管轄區域ト共ニ來ル七月一日告示可相成ニ付御了
知相成度

地發乙第ニニニ號

昭和十七年五月十九日

各府、縣、長官、宛

内務省地方局長

府縣現地實行機關設置準備方ニ關スル件

府縣現地實行機關ノ設置ニ關シテハ着々御準備中ノコトト存候處當省ニ於テモ目下關係官制案等ニ就キ法制局其ノ他ト折衝中ニシテ近ク最後ノ決定ヲ見タル上速ニ何分ノ義指示相成コトト被存ス最ニ總務部長事務打合せニ於テ御協議中ニ候事項外左記事項御参考上七月一日開庭ヲ自途トシ至急諸般ノ準備ヲ進メラルル採致度此段又内牒候

記

一、府縣連綿部處務規程準則（別紙ノ通）

二、各省トノ協議ノ結果「府縣現地實行機關」ヲ取扱ハレタル事務ノ概目「中別紙ノ通

一部変更ヲ爲シタルコト

三、教育事務ノ指導監督ニシテ現地實行機關ヲ取扱ハレタル適當トスル事項ハ

四六

之ヲ取扱ハレタル支障ナキコト但シ學事ノ觀察監督ハ本機關ニ配屬セラレタル視學及社會教育主事補ヲ行ハレタルコト（本件ハ文部省ト打合齊ナリ尙文部省ニ於テハ視學及社會教育主事補ヲ令機關ニ配置スルハ可ナルモ數クトモ各ニ名以上本機關ニ配置セシ度希望ニ付爲念）

四、府縣現地實行機關ヲ取扱ハレタル事務ノ概目中ノ細目又ハ之ニ伴フ權限ニシテ本機關ニ委任スベキモノ具體的事項ハ特ニ指示セラレザル等ナルモ概目中ニ掲記セラレタル事項ハ成ルベク全面的ニ取扱ハレタルト共ニ之ニ關係アル權限ニ成ルベク委任セラレ本機關ノ活動ヲ爲ル分ナラレタル標配意セラレ度キコト

五、本機關ノ長ヲ海軍志願兵令ニ依ル地方徵募官ト爲スハ八月四、兵役法施行令ニ依ル兵事官ト爲スハ十二月四ノ豫定ナルコト

召集徵募事務ノ移管ハ其ノ後ニ行ハルル豫定ナルコト

六、支廳ヲ本機關ニ振リ替フル時機ハ本機關ノ長ヲ兵事官ト爲スト同時ノ豫定ナルコト

七、本件ニ關シテ地方連絡協議會ノ開催セララル場合ニ在リテハ成ルベク係官ヲ派遣致スベキニ付豫メ打合相成度キコト

府縣現地實行機關ト職業指導トノ統合要綱(案)

一、職業指導所官制ヲ廢シ職業指導所ニ關スル事項ハ地方官官制中ニ規定スルコト

二、職業指導所ノ管轄區域ハ次ノ如クシ(イ)、(ロ)ノ場合ハ其ノ長ハ現地實行機關ノ長又ハ支廳長ヲ以テ之ニ充ツルコト

(イ) 府縣現地實行機關又ハ支廳長ノ管轄區域

(ロ) 府縣現地實行機關又ハ支廳長ノ管轄區域及之ト密接ナル關係ヲ有スル市ノ區域トヲ合セタル區域

(ハ) 市又ハ市ノ一部ノ區域

以爲使 用之得 天	新築ヲ 要スルノ	増築ヲ 要スルノ	修繕ヲ 要スルノ	修繕
-----------------	-------------	-------------	-------------	----

[illegible]

139

府縣現地實行機關ニ關スル説明

府縣ト町村トノ間ニ適當ナル中間機關ヲ設ケテ國政ノ徹底ヲ期スルノ要アリトノ要望ハ大正十四年ノ郡役所廢止以來機會アル毎ニ關係方面ヨリ唱導セラレテ參ツタノデアリマシテ其ノ趣旨トスル所ハ府縣が其ノ下ニ直接數百ノ町村ヲ擁スル狀態ニ於テハ到底地方事務ノ合理的徹底的ナル遂行スルコトが出来ナイト言フニ在ツタノデアリマス。然レ乍ラ内務省ト致

地方局

シマシテハ一旦政府が國策トシテ決定シメ機關ヲ再ビ設置スルが如キハ慎重ニ考慮ヲ加フベキデアツテ餘程緊切ナ理由ノ伴ハナイ限り之ヲ復治ムベキモノニアラズト考ヘテ參ツタノデアリマス。然ルニ今次事變ニ入ルヤ總動員体制ノ強化ニ伴フ各般ノ事務急激ニ増嵩シ來タリ現在ノ府縣廳ノ仕組ヲ以テハ地方行政事務中今日最ニ重要ナル之等國策ノ圓滿ニシテ徹底的ナル遂行ハ極メ困難ニ立至リマン

夕ノデ時局下人員増員ハ努メテ避クベキ
ニモ拘ラズ此ノ際主トシテ農産物ノ増産
生活必需物資其ノ他消費資材ノ配給、軍
事扶助軍事後護其ノ他軍事業務ノ徹底、
貯蓄ノ奨励其ノ他國民運動ノ徹底或ハ所
内會部落會ノ指導等府縣ニ於ケル時局下
重要行政事務ヲ現地ニ於テ處理スル知事
ノ補助機關トシテ現地實行機關（假稱府
縣連絡部）ヲ設置ノルコトト致シ度ク之
ニ要スル豫算二五二万円ヲ御協賛願フコ

地方局

トニナツテ居ルノアリマス。

本機關ノ長ハ奏任官ヲ以テ之ニ充テ府縣
ノ各種駐在員出張所等ハ成ル可ク之ニ統
合シ又本機關ノ職員ハ大部分現在府縣廳
ノ職員中カラ之ニ充テルノデアリマシテ
新規ニ増員セラルル職員ハ地方事務官三
四一名属九一二名デアリマス。

本機關ノ管轄區域ハ廣キニ失スルトキハ
其ノ目的ヲ達成致シ難キヲ以テ原則トシ
テ各郡ノ區域ヲ適當セシムルモ町村數ノ

過小ナル郡ハ適宜併セマシテ概ネ適當ナル数ノ町村ヲ擔當セシムル豫定デアリマ

人。
尚本機關ハ從前ノ郡長ノ如ク町村ヲ第一
次ニ監督スル官廳トハ其ノ本質ヲ異ニ致
シマシテ先ニモ申上ゲマシタ如ク知事ノ
補佐的機關トシテ主トシテ時局事務ノ円
満ニシテ敏活ナル徹底ヲ期スルコトヲ主
目的トスル行政ノ實行機關デアリマシテ
獨立ノ綜合行政官廳デフィコトヲ附加シ

地方局

テ申上ゲテ置キマス。
尚詳細ナル點ニ付キマシテハ御質問ニ應
ジテ御答ヘ致シ度イハ存ジマスが何分宜
シク御願ヒ致シマス

府縣現地實行機關設置ニ關スル答辯資料

目次

- 一、將來府縣ノ廢合等地方行政區劃ノ全面的改革ヲ斷行スル
意圖アリヤ其ノ際本機關ハ如何
- 二、地方行政機構改革ニ關スル具体案アリヤ
- 三、數府縣ヲ統轄スル州又ハ道廳ノ如キ綜合行政官廳ノ設置ヲ
考慮シ居ルヤ

四、本機關ノ設置ハ結局郡役所ノ復活ニシテ二重監督ノ弊ニ陷ルコ
トナキヤ

五、本機關ノ設置ハ町村自治ノ侵害トナルニ非ズヤ

五一

地方官

六、本機關ヲ設置スル以上ハ之ニ強大ナル權限ヲ有セシメ之ヲ
獨立綜合官廳ト爲シ町村行政ノ便宜ヲ圖ル意圖ナキヤ

七、郡ノ區域ハ行政區劃トシテ稍々狭キニ失スル感アリ二三郡ノ
程度ヲ管轄セシムルガ適當ナラズヤ

八、郡ノ廢合ヲ行フヤ

九、交通至便ナル地就中府縣廳所在地及其ノ周邊地區又ハ香
川・大阪ノ如キ面積狭小ナル府縣ニ果シテ本機關ヲ設クル要
アリヤ

職業指導所ノ如キ官署トノ關係如何

一一、土木出張所、耕地出張所等ハ統合スルヤ

一三、本機關ノ長ニハ如何ナル者ヲ充ツルヤ、斯ノ如キ多數ノ官吏ニ取
レテ適任者ヲ得ラルルヤ

一四、此ノ際力カル多數ノ官吏ヲ増員スルハ如何

一五、北海道ノ支廳制度ハ現行ノ儘ナリヤ

一六、府縣支廳制度ハ如何ニスルヤ

一七、本機關ノ廳舎ハ如何ニスルヤ此等ノ經費ハ如何ニシテ調達
スルヤ

一八、市ヲ本機關ノ擔任區域ヨリ除外セル理由如何

一九、徴収召集事務ヲ警察署長ヨリ本機關ニ移シ格別ノ支障ナ
キヤ

地方官

二〇、本機關ト大政翼賛會トノ關係如何

二一、郡内各種團體施設トノ關係ハ如何ニスル意圖ナリヤ

一問 將來府縣ノ廢合等地方行政區劃ノ全
面的改革ヲ断行スル意圖アリヤ其ノ際
本機關ハ如何致スヤ

一答 經濟交通等ノ變遷ニ依リ現行府縣ノ
區域ガ地方行政區劃トシテ必ズシモ適
當ナラザルモノヲ生ズルニ至リタルハ
事實ナルモ府縣ノ廢合ニハ仍舊ト考究
ヲ要スルモノアルノミナラズ假ニ其ノ
必要アリトスルモ國家總力ヲ擧ゲテ戰

一方

爭遂行ニ邁進シツツアル今日之ヲ断行
スルハ其ノ策ヲ得タルモノト謂ヒ難カ
ルベク強イテ之ガ實現ヲ圖ラントセバ
各種行政ノ運営ニ妨ケラザル混亂ヲ招
キ延テハ戰爭ノ完遂ニ不測ノ支障ヲ來
スノ虞ナレトセズ仍テ茲當分ノ間ハ地
方行政機構改革ヲ實施致ス意思ナキヲ
以テ斯ノ如キ場合ニ本機關ヲ如何スル
ヤニ就テハ別ニ考慮シ居ラズ

三問 地方行政機構改革ニ關スル具体案アリヤ

答 内務省トシテハ地方行政機構改革ニ關シテハ銳意調査研究中ナルモ今茲ニ發表シ得ベキ成案ハ未ダ有シ居ラズ

三問 數府縣ヲ統轄スル州又ハ道廳ノ如キ
綜合行政官廳ノ設置ヲ考慮シ居ルヤ

答 各級ノ經濟統制ノ運営、防空、職業、
地方計畫等ニ關スル行政ノ處理等時局
下重要ナル國政事務ニシテ數府縣相協
力シテ實施セザレバ其ノ實效ヲ收メ難
キ事務次第ニ多キヲ加ヘツツアル今日、
數府縣ヲ統轄スル綜合行政官廳ヲ設置
シ其ノ任ニ當ラシムベシトノ御意見ハ

地方官

一應御尤モナルモ之ニ付テハ中央地方
ヲ通ズル行政機構ノ全面ニ亘リ篤ト考
究ヲ加フルノ要アルヲ以テ目下慎重調
査研究中ナリ

四、問 本機關ノ設置ハ結局郡役所ノ復活ニ
シテ二重監督ノ弊ニ陥ルコトナキヤ

答 本機關ハ各種國民運動ノ展開、各般
ノ經濟統制ノ運営等府縣廳ニ於ケル重
要ナル時局事務ノ敏活徹底ヲ圖ルヲ主
目的トスル府縣知事ノ補助的實行機關
ニシテ徒ラニ二重監督ノ弊ヲ伴フ監督
行政ノ事務ハ扱ハレメザル方針ニシテ
此ノ點ハ本機關ノ設置運営上最モ意ヲ

地方官

用ヒントスル處ナルヲ以テ御心配ノ如
キ點ハ生セザル可シ

(附) 郡長ト本機關ノ長トノ權限ノ差異

一、郡長ハ獨立官廳ナルモ本機關ノ長
ハ府縣知事ノ補助機關ニシテ獨立
官廳ニ非ズ

二、郡長ハ綜合官廳ニシテ其ノ有レ得
ベキ權限ニハ何等制限ナキモ本機
關ノ長ハ府縣知事ノ分掌ヲ命ズル
時局事務ノミヲ處理スル特別行政

機關ナリ

三 郡長ハ町村長ニ對スル一般ノ指揮監督權、町村長ノ處分ノ取消又ハ停止權ヲ有シタルモ本機關ノ長ハ之ヲ有セズ

四 郡長ハ郡令ノ發布權ヲ有シタルモ本機關ノ長ハ法規命令ノ發布權ナシ

◎備考 郡長ト現在ノ府縣支廳長トノ官制上ノ權限ノ差異ハ法規命令

令ノ發布權アリヤ否ヤノ點ノミナリ

五、問本機關ノ設置ハ町村自治ノ侵害ト爲
ルニ非ズヤ

答 本機關ハ従前ノ郡長ノ如ク町村ヲ第
一次ニ監督スル綜合獨立官廳トハ異リ
府縣知事ノ手足トシテ府縣ニ於ケル重
要ナル時局事務ノ敏捷徹底ヲ圖ルヲ目
的トスル機關ニシテ謂ハバ町村ニ對ス
ル複雑多岐ニ亘ル多量ノ時局事務ノ趣
旨ノ徹底、指導、督勵等府縣行政ノ實行

地方局

的部門ヲ擔當スルモノナルヲ以テ町村
自治ノ侵害トナラザルハ固ヨリ、却テ時
局下重要ナル町村事務ノ適切ナル處理
ヲ援助シ得ルコトナリ町村自治ノ正
常ナル發達ヲ促進スルコトト爲ルベシ

(附) 郡役所廢止事由

一、事務中継機關ヲ廢止スルコトト爲
ノ行政事務ノ簡捷ヲ期シ得ルコト
二、國費五十万円、地方費五百万円ノ
負擔輕減ト爲ルコト

三 郡役所ニ對スル依頼心ヲ生ゼシメ
ザルコトニ依リ町村自治ノ健全ナ
ル發達ヲ期シ得ルコト

六、問 本機關ヲ設置スル以上ハ之ニ強大ナル
権限ヲ有セシメ之ヲ獨立綜合官廳ト
爲レ町村行政ノ便宜ヲ圖ル意圖ナキヤ

答 御説一應御尤モナルモ本機關ヲレテ
獨立綜合官廳ヲレムルトキハ府縣廳
トノ間ニ對立ノ關係ヲ生ジ易ク又府縣
内ニ更ニ小ナル經濟ブロックヲ作ル虞
ヲ生ジ運用ノ如何ニ依テハ國政ノ疏通
ニ以外ノ支障ヲ來タスノ虞ナキヲ保レ

地方局

難キノミナラズ町村ノ側ヨリセバ所謂
二重監督ノ弊ニ陷ルコトトナルベキヲ
以テ本案ノ如キモノトシタルナリ而シ
テ本機關ノ擔當スル時局事務ノ處理ニ
關シテハ本來權限ヲ以テ處理スル事項
一許可、認可、處分ノ如キハ僅少ニシテ
主トシテ指導督勵趣旨ノ徹底等ナルモ
之等時局事務ノ處理ニ關シ權限ヲ伴フ
モノニ付テハ原則トシテ本機關ニ委讓
シ事務處理ノ敏捷ヲ期シ度キ考ヘナリ

七、問 郡ノ區域ハ行政區劃トシテ稍々狭キ
ニ失スル感アリ、二、三郡ノ程度ヲ管轄セ
シムルガ適當ナラズヤ

答 地方ニ於テハ今日郡ヲ單位トシテ各
種ノ團體組織セラレアルノミナラズ大
政翼賛會ノ支部ノ如キ郡單位ニシテ郡
ハ國民ノ一ツノ地域的組織ナリ依ツテ
府縣行政ノ運営上モ郡ヲ活用シツツア
リ從テ本機關ノ設置ニ際シテモ特ニ此

地方局

ノ點ニ着眼スルノ要アルノミナラズ本
機關ハ行政ノ徹底ヲ主目的トスルモノ
ナルヲ以テ餘リニ地域廣キ時ハ其ノ目
的ノ達セザルナリ

八問 郡ノ廢合ヲ行フヤ

答 現在人口四万未満、町村數十町村未
滿ノ郡數十ヲ算シ中ニハ郡内町村一二
ニ過ギザルモノスラアリ斯カル郡ノ區
域ヲ擔當セシムル爲本機關ヲ置クハ固
ヨリ適當ナラザルニ依リ斯ノ如キ郡ハ
之ヲ隣接郡ト合セ、二郡又ハ三郡ノ區
域ニ之ヲ置ク豫定ナリ此ノ場合郡ノ廢
合ヲ行フヲ可ト認ムルモ仍篤ト考究致

地方局

レ度

九問 交通至便ナル地就中府縣廳所在地及其ノ周邊地區又ハ香川、大阪ノ如キ面積狭少ナル府縣ニ果シテ本機關ヲ設クル要アリヤ

答 本機關ハ現在ノ府縣支廳トハ異リ交通ノ便否ヲ基準トシテ之ヲ設置セントスルモノニハ非ズ地方生活ノ實際的單位ト爲リツツアル郡ヲ地方行政運営上ニ取入ルルコトニ依リ時局下重要ナル

地方官

事務ノ現地ニ即應セル徹底的遂行ヲ圖ラントスルモノニシテ謂ハバ府縣廳事務ノ地域的分掌組織トモ稱スベキモノナレバ右ノ如キ地區ニ闕シテ之ヲ設置スル要アリト思料ス

問 職業指導所ノ如キ官署トノ關係如何

答 概ネ郡ノ區域ヲ擔當スル國家機關ハ
所謂現業的技術的ノ處理ヲ爲スモノヲ
除キ成ル可ク之ヲ統合スルコトハ所謂
綜合行政ノ妙味ヲ發揮スル點ヨリ見レ
バ望マレキモ尚考究ヲ要スル點モアリ
研究中ナリ

二 厝 土木出張所、耕地出張所等ハ統合
スルヤ

答 郡單位ノ各種府縣出張所、駐在員
等ハ能フ限り本機關ニ統合スルモ土
木出張所等ノ如キ工事ノ執行等特別
ナル技術的部門ノミヲ擔當スル機關
ハ取敢ズ之ヲ統合セザル考ヘナリ

三問 本機關ノ長ニハ如何ナル者ヲ充ツルヤ
斯ノ如キ多數ノ官吏ニ果シテ適任者ヲ得ラルルヤ

答 本機關ハ重要ナル時局事務ニ付郡ノ實情ニ則セル妙味アリ且徹底セル行政ヲ行ハシメントスルモノナルヲ以テ本機關ノ長ニハ老練ナル有識經驗家ヲ特別任用ニ依リ能フ限リ多數登用致シ度キ所存ニシテ事實相當數

地方局

ヲ得ラルルモノト思料ス

(附) 奏任文官特別任用令中地方事務官ニ銓衡任用シ得ル範圍五年以上北海道府縣市町村若ハ之ニ準ズルモノノ有給吏員ノ職ニ在リテ行政事務ニ従事シ月額八十又四以上ノ給料ヲ受ケタル者又ハ五年以上名譽職市町村長若ハ之ニ準ズルモノノ職ニ在リタルモノ(奏任文官特別任用令七條)

三問 此ノ際力カル多數ノ官吏ヲ増員ス
ルハ如何

答 御意見洵ニ御尤モナルモ大東亞戰
争遂行上將又大東亞共榮圈建設上必
要ナル各復重要行政ノ徹底的遂行ヲ
圖ル爲ニハ本機關ノ設置ヲ是非トモ
必要トスルモノナルヲ以テ之ガ爲最
少限度ノ増員ヲ行フハ已ムヲ得ザル
措置ナリ而シテ之ニ要スル職員ハ約

地方局

一万人ニシテ増員ハ具ノ一割餘ニ止
メ他ハ現在ノ府縣廳ノ職員ヲ以テ之
ニ充テントスルモノナリ

西問

北海道ノ支廳制度ハ現行ノ儘ナリヤ

答

北海道ノ支廳制度ハ道廳管内全部ニ施行セラレアリテ支廳長ハ管内ニ支廳令ヲ發シ得ル權限ヲ有シ得ルノミナラズ其ノ設置ハ勅令ヲ以テ定メラルル所ニシテ府縣支廳トハ大ニ趣ヲ異ニス而シテ支廳ハ本機關ニ負荷セラルルカ如キ任務ヲ現在事實上擔

地方官

當シアリテ地方行政上特ニ支障ヲ認メザルヲ以テ現行機構ニ特別ノ改變ヲ加フルコトナシ之ヲ存置スル考ヘナリ

(附) 北海道支廳長ト府縣支廳長トノ差異

- 一、北海道支廳長ハ道内全般ニ設ケラルルモ府縣支廳ハ島地其ノ他交通不便ノ地ニ設ケラル
- 二、北海道支廳ノ位置、名稱及管

轄區域ハ勅令ヲ以テ定メラル
ルニ府縣支廳ハ内務大臣之ヲ
定ム
三 北海道支廳長ハ法規命令ヲ發
シ得ルニ府縣支廳長ニハ其ノ
權限ナシ

五問

府縣支廳制度ハ如何ニスルヤ

答

府縣支廳ノ制度ハ郡役所廢止ノ際
島地具ノ他交通不便ノ地ニ特ニ處務
便宜ノ爲設ケラレタルモノナルヲ以
テ當時ト交通事情ヲ異ニセル今日ニ
於テハ相當程度ハ例ヘバ島地ヲ除キ
之ヲ本機關ニ依テ豫定ナルモノ今
日依然交通不便ナル島地ニ就テハ此
ノ制度ヲ存置シ從來ノ支廳制度ニ準

地方局

用上更ニ本機關ノ如キ機能ヲ賦與致
シ度シ

天問 本機關ノ廳舎ハ如何ニスルヤ此等ノ經費ハ如何ニシテ調達スルヤ

答 本機關ノ廳舎ハ能フ限り從來ノ郡役所、團體事務所其ノ他ノ既存ノ建物ヲ利用セシムルコトトシ全ク他ニ利用スベキ建物ナキ場合ニ於テノミ應急的建造物ヲ設ケシメ度キ意嚮ナリ而シテ右所要經費ハ府縣廳舎建築費ト同じク府縣費支辨ト致シ度

三、問 市ヲ本機關ノ擔任區域ヨリ除外セ
ル理由如何

答 市ハ各府縣共其ノ數少ク市吏員ノ
素質及員數等ノ點ニ於テモ町村ニ比シ
遙ニ充實セラレ居ルヲ以テ府縣廳ヲ
シテ直接指導監督ヲ爲サシムルニ差
シテ支障ナシト思料セラルルノミナ
ラス郡役所存在當時ニ於テモ市ハ直
接府縣知事ノ指導監督下ニアリシモ

地方局

ノナルヲ以テ之ヲ除外スルコトトセ
リ

六問 徴發及召集事務ヲ警察署長ヨリ本
機關ニ移シ格別ノ支障ナキヤ

答 徴發及召集ニ關スル事項ハ郡役所
廢止ノ際郡長ノ權限ナリシモノヲ警
察署長ニ移管シタルモノニシテ之ヲ
本來ノ警察行政ニ比スレハ全ク性質
ヲ異ニスルモノナル爲警察行政ノ能
率上ノ見地ヨリ權限ノ再移管ニ關シ
考慮セラレ度キ旨地方廳ヨリ屢々具

地方局

中フノ單ニ於テモ現行制度ニ據ルト
キハ行政ノ指揮系統ヲ異ニスル爲右
事務ノ能率上遺憾ナル點尠カラズト
シ然可對策ヲ講ゼラルル様申出アリ
タリ仍テ本機關ヲ設置セラルルコト
トナレバ之ヲ其ノ權限トシテ敏活適
切ニ處理セシムルヲ最モ妥當ナル處
置ト思料スハ警察署ト本機關トハ擔
任區域ノ廣狹ニ於テ相當ノ懸隔アル
ノミナラズ警察電話ヲ使用シ得ザル

結果支障ヲ生ズベシトノ危虞ナシト
セザルモ今日電話ノ普及率ハ極メテ
良好ニシテ權限移管ノ爲特ニ事務處
理上支障ヲ求スモノトハ考ヘラレズ

參考

郡部ヲ擔當スル警察署數ハ約八〇〇ナリ

五問 本機關ト大政翼賛會トノ關係如何

答 本機關ハ大政翼賛會ノ郡支部ト十分緊密ナル連繫ヲ執ルコトトナルベク翼賛會組織ノ強化ニ資スルコトトナルベシ

問 郡内各種団体施設トノ關係ハ如何
ニスル意圖ナリヤ

答 郡内町村長及各種団体ノ長等ヲ以
テ郡常會(郡連絡會議)ノ如キモノ
ヲ組織セシメ之ヲ通ジテ必要ナル行政
上ノ指示ヲ行ヒ各団体相互ノ連絡調
整ヲ圖ル豫定ナリ

地方事務所開設準備状況調

府縣	未出張所統合状況	事務開始期日
青森	統合	七月十五日事務開始ス
岩手	統合	事務開始ハ十五日ノ見込
宮城	統合	七月一日ヨリ事務開始ノ豫定
秋田	統合	七月一日ヨリ事務開始ノ豫定
山形	統合	七月一日ヨリ事務開始ノ豫定
福島	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
茨城	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
栃木	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
群馬	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
千葉	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
東京	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
神奈川	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
新潟	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
富山	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
石川	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
福井	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
山梨	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
長野	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
岐阜	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
愛知	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
三重	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
滋賀	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定

五二

府縣	未出張所統合状況	事務開始期日
京都	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
大阪	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
兵庫	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
奈良	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
和歌山	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
鳥取	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
島根	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
岡山	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
広島	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
山口	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
徳島	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
香川	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
愛媛	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
高知	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
福岡	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
佐賀	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
長門	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
大分	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
宮崎	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
鹿児島	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定
沖縄	統合	七月十五日ヨリ事務開始ノ豫定

